

高崎市文化財調査報告書第 290 集

中大類・天田遺跡

－ 校舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 －






2011

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は校舎建設に伴う中大類・天田遺跡（高崎市遺跡番号 500）の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市中大類町字天田 530 番地ほかである。
3. 発掘作業・整理等作業は、高崎市教育委員会の指導・監理の下、株式会社測研の協力を得て実施した。
4. 発掘作業から整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、学校法人高崎健康福祉大学 理事長 須藤 賢一氏に負担して頂いた。
5. 発掘作業は平成 23 年 3 月 28 日～4 月 28 日まで行い、整理等作業は 5 月 9 日～11 月 30 日まで実施した。
6. 発掘調査の体制は下記の通りである。
高崎市教育委員会 田口一郎 須田奈保子 滝沢 匡
株式会社 測研 高林真人 水谷貴之
7. 発掘調査は高林が担当し、水谷が補佐した。
8. 本書の執筆は、I を田口、II・III- (3) を高林、それ以外を水谷が行い、編集は水谷が行った。
9. 整理等作業における出土遺物への注記内容は、遺跡番号・出土遺構名・出土位置などを記入した。
10. 出土遺物及び遺構図面・写真などの調査記録類は、すべて高崎市教育委員会が保管している。
11. 発掘作業と整理等作業にあたり、下記の方々・機関からご協力を賜った。（順不同・敬称略）
須藤 賢一 山下工業株式会社

凡 例

1. 本書で使用した座標は全て世界測地系である。挿図中における北方位（N）は座標北を示し、遺構断面図中の「L」は標高を示す。
2. 遺構の主軸・長軸方位などは、座標北（N）から東（E）または西（W）方向への角度として計測した。
3. 発掘作業と本書では、遺構名称の表記として以下の略称を併用した。
竪穴住居跡 = SI 掘立柱建物跡 = SB 土坑 = SK 溝 = SD ピット = P
4. 遺構実測図・遺物実測図の縮尺は全て挿図中に明示したが、主なものは以下の通りである。
【遺構】 S=1 / 60・・・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝
S=1 / 30・・・竪穴住居跡カマド
【遺物】 S=1 / 4・・・土器類・板碑・砥石・磨石
S=1 / 2・・・ミニチュア土器・石製紡錘車・石製模造品・基石・銭貨
S=1 / 6・・・穀物白・茶白
5. 本書で使用した地図は、第 1・31 図：高崎市発行 S=1 / 2500 都市計画基本図、第 2～5 図：国土地理院発行 S=1 / 25,000 地形図「前橋」・「高崎」である。
6. 発掘作業での土色観察、整理等作業での遺物色調観察では、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖（1998 年版）』を参考とした。
7. 本書で使用したテフラ名称は以下の通りである。
As-A（浅間 A 軽石：1783 年）As-B（浅間 B 軽石：1108 年）As-C（浅間 C 軽石：3C 後半）
8. 本書の遺物実測図（土器類）で使用したトーンなどは以下の通りである。
土師器・ロクロ使用酸化焰焼成土器 = 断面白抜き 
須恵器 = 断面黒塗り  灰・緑釉陶器 = 断面トーン  ・施釉範囲トーン 
付着物など = 黒塗り表現 赤彩・黒色処理 = トーン 

目次

例言・凡例

目次

I. 調査に至る経緯	1
II. 調査の方法と経過	2
III. 遺跡の地理的・歴史的環境	2
IV. 調査した遺跡の概要	10
V. 調査した遺構	15
(1) 竪穴住居跡	15

(2) 掘立柱建物跡	18
(3) 土坑	24
(4) 溝	32
(5) ピット	35
VI. 出土した遺物	40
VII. まとめ	50
写真図版	
報告書抄録・奥付	

挿図目次

第1図	調査区位置図
第2図	周辺の遺跡(縄文・弥生時代)
第3図	周辺の遺跡(古墳時代)
第4図	周辺の遺跡(奈良・平安時代)
第5図	周辺の遺跡(中世・城館)
第6図	基本土層柱状図
第7図	全体図
第8図	分割図(東側)
第9図	分割図(中央)
第10図	分割図(西側)
第11図	SI-1・2・3・4平面・断面図
第12図	SI-1・2・3・4平面・断面図 SI-1 カマド平面・断面図
第13図	SB-1平面・断面図
第14図	SB-2・3・4・5平面・断面図
第15図	SB-6・7・8平面・断面図
第16図	SB-9・10平面・断面図
第17図	SK-1～9・13・14平面・断面図
第18図	SK-10～12・15～23・25・95平面・断面図
第19図	SK-24・26～33・37・38・40～42平面・断面図
第20図	SK-44～50・52～59・61・63・64平面・断面図
第21図	SK-62・66・67・70・72・74～77・80・82～86・ 88・89平面・断面図
第22図	SK-87・90～94・96～101平面・断面図
第23図	SD-1・2・3平面・断面図
第24図	SD-4・5・6・7平面・断面図
第25図	出土遺物(1)
第26図	出土遺物(2)
第27図	出土遺物(3)
第28図	出土遺物(4)
第29図	出土遺物(5)
第30図	出土遺物(6)
第31図	調査区の周辺図
第32図	中大類金井分遺跡全体図
第33図	降照屋敷

写真図版目次

写真図版1	調査区全景(上が北) 調査区遠景(西から) 調査区遠景(東から) 調査前現況(南西から) 遺構確認状況(西から)
写真図版2	SI-1全景(西から) SI-1カマド全景(西から) SI-2周辺全景(西から) SI-3・4周辺全景(西から) SI-1～4周辺全景(上が北) SB-3周辺全景(西から) SB-9周辺全景(東から) SK-13周辺(南から)
写真図版3	SK-18全景(東から) SK-18遺物出土状況(東から) SK-31遺物出土状況(東から) SK-44・45調査状況(南から) SK-62遺物出土状況(東から) SK-63・64全景(南から) SK-63・64周辺(左が北) 作業状況(西から)
写真図版4	SK-86全景(南から) SK-86土層断面(東から) SK-99全景(東から) SK-99土層断面(東から) SD-1全景(南から) SD-1土層断面(南から) SD-2・3周辺(南東から) SD-4遺物出土状況(南から)
写真図版5	SD-5周辺(南から) SD-6周辺(南から) 作業状況(南東から) 調査終了時の状況(南東から) 出土遺物(1)
写真図版6	出土遺物(2)
写真図版7	出土遺物(3)

表目次

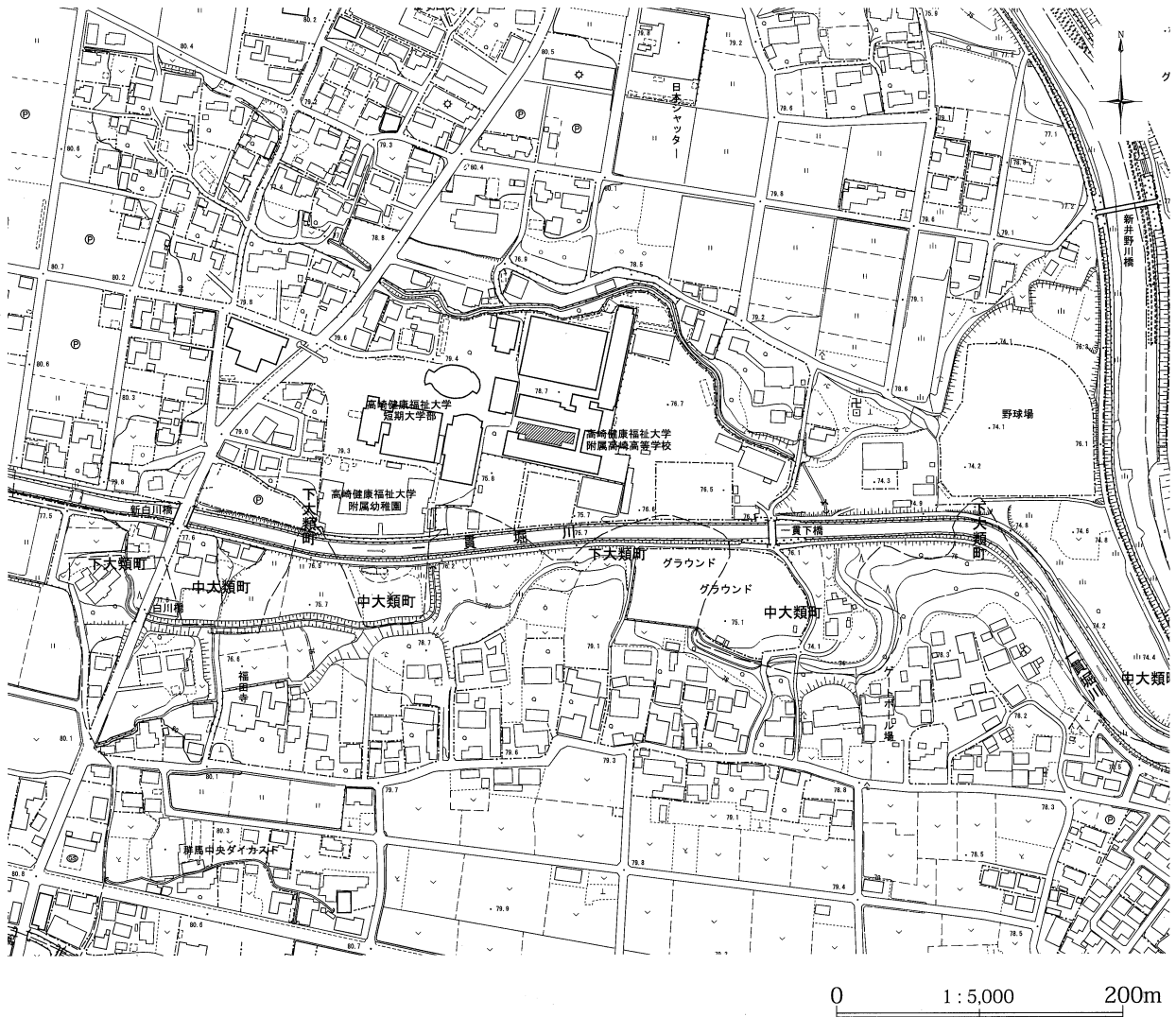
第1表	周辺の遺跡一覧表(1)
第2表	周辺の遺跡一覧表(2)
第3表	周辺の遺跡一覧表(3)
第4表	掘立柱建物跡柱穴一覧表
第5表	土坑一覧表(1)
第6表	土坑一覧表(2)
第7表	ピット一覧表(1)
第8表	ピット一覧表(2)
第9表	ピット一覧表(3)
第10表	ピット一覧表(4)
第11表	ピット一覧表(5)
第12表	遺物観察表(1)
第13表	遺物観察表(2)
第14表	遺物観察表(3)

I. 調査に至る経緯

平成22年10月、学校法人高崎健康福祉大学（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に附属高校の校舎建替え予定地内の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地が西側隣接地において過年度に別の校舎建設に伴い古墳～平安時代の集落遺跡が調査されており、周辺地域にも拡がる可能性が大きいため、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。同年2月4日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年2月11日に工事予定地の試掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居址と推定される遺構や中世の溝・土坑等の遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、校舎建設部分の遺構が分布する範囲の記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社測研に委託して実施することとなり、平成23年3月14日付けで高崎市長・事業者・測研の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成23年3月14日付けで事業者と測研の二者で発掘調査委託契約が締結された。



第1図 調査区位置図

Ⅱ. 調査の方法と経過

調査の方法 本発掘調査は校舎建設に伴い実施された。調査面積は約 445㎡である。調査区の北側隣接地では、既存建物の解体工事が行われていたため、発掘作業では全員が保護帽を着用し、安全面には最大限の配慮を払った。遺構確認は試掘調査の成果を基に、基本土層Ⅲ層(第6図)の掘削まで重機を使用し、Ⅳ層上面まで人力で削り、その確認を行った。その際の出土遺物は、調査区の西側張り出し部をA区、東側張り出し部をE区、中央部を3等分してB～D区とし、中央のC区はさらに南北で1・2と細分し表土または確認面各区で取り上げた。これらA～E区の区割りは任意の設定であり、国家座標に基づくグリッドとは一致していない。

遺構の調査は、形態・大きさを考慮して適宜土層観察用のベルトを設定し、堆積土や出土遺物に留意して行った。ピットは番号を付し、土色の確認後に完掘した。遺物の取り上げは、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状況の良いものは平面図作成または座標値を記録し、それ以外の遺物は出土層位に留意して取り上げた。遺構覆土は極端に締まりが強く、旧土地造成時の填圧に起因すると思われた。そして乾燥により固さが顕著になるため、動力噴霧器による散水を行ったが、移植ゴテでの掘削ができない場合は手唐鍬や小スコップを使用した。

当初に確認した遺構は多量のため、掘り残しが危惧された。そのため、空撮前清掃作業時に再確認した遺構は、空撮後に掘り下げた。よって本書掲載の空中写真には、調査した全遺構が写っていないことを明記する。また、それでも調査終了時にはピットの掘り残しが判明し、これらは遺憾ながら、平面略位置の記録に留まった。

遺構実測は平面・断面図ともにデジタル測量を行った。写真撮影は、35mm一眼レフカメラでモノクローム・カラーリバーサルフィルムを使用し、同一カットを3枚1単位で撮影した。さらにデジタルカメラでの撮影も行った。**調査の経過(調査日誌抄)** 3月28・29日表土掘削。30日遺構検出開始。31日遺構検出・精査。市教委田口氏・滝沢氏来跡。4月4日調査区中央部遺構精査。6日市教委田口氏・清水氏来跡。13日ピット調査開始。26日調査区内清掃・空中写真撮影実施。遺構調査継続。28日田口氏による終了確認。器材撤収。

Ⅲ. 遺跡の地理的・歴史的環境

地理的環境 本遺跡は高崎市中大類町に所在する。高崎市役所の東方5kmの位置で、南側には国道354号線が東西に、西側には県道元島名倉賀野線が南北に開通している。北側には井野川が南東方向へと流下し、本遺跡の位置はこれら交通幹線と河川に囲まれた範囲にある。井野川は地域の基幹となる中規模河川である。榛名山麓から複数の小河川をあわせて流れ、やがては烏川へと注ぐ。烏川との合流点付近では「井野川低地帯」が形成され、周辺の台地とは急崖で境界されている。綿貫町付近で明瞭な崖線は、上流側へと遡行するにつれ不明瞭になっていくが、柴崎町や矢島町あたりまでは、その境界を認めることができるようである。

本遺跡は井野川右岸の微高地上にあり、低地帯と台地との境界が不明瞭な部分にあたる。標高78.5m前後で、周囲は宅地と学校施設である。付近一帯は水田が多く、本遺跡南隣に灌漑水路の一貫堀川(白川)が流れる。北方約400mには一貫堀放水路(閻魔川)が流れ、ここからの分水らしき小流路が、本遺跡北隣を東へ流れる。

歴史的環境 高崎市中大類町は、昭和31年に旧高崎市に合併するまで、群馬郡大類村に属していた。大類村は明治22年の町村制施行により、上大類・中大類・下大類・宿大類・南大類・柴崎の6ヵ村で成立した純農村であり、米麦の二毛作や養蚕が主産業であった。今に至り、平成の市町村合併を経て、高崎市域は大きく拡大した。現在、大類地域の位置は市域の南東部にあたる。一帯では圃場整備事業や交通幹線網の整備、その他の開発に先立つ発掘調査により、多くの遺跡の存在が判明した。そしてその濃密な分布のみならず、遺跡の調査成果も多岐にわたる。本地域周辺は市内における考古学的重要地域のひとつと言え、調査成果を記した報告書が多く刊行されている。柴崎熊野前遺跡(35)や下大類・中道下遺跡(9)などの報告書では、周辺の歴史的環境が詳述されており、ここではそうした調査成果に依拠し、本遺跡周辺における各時代の遺跡を概観する。

旧石器時代は市内での調査事例がない。単発的な遺物出土のみであり、本遺跡の至近で出土例はない。

縄文時代では、高崎情報団地Ⅱ遺跡(7)・元島名瓦井遺跡(43)で草創期の石器が出土したが、遺構には伴わない。

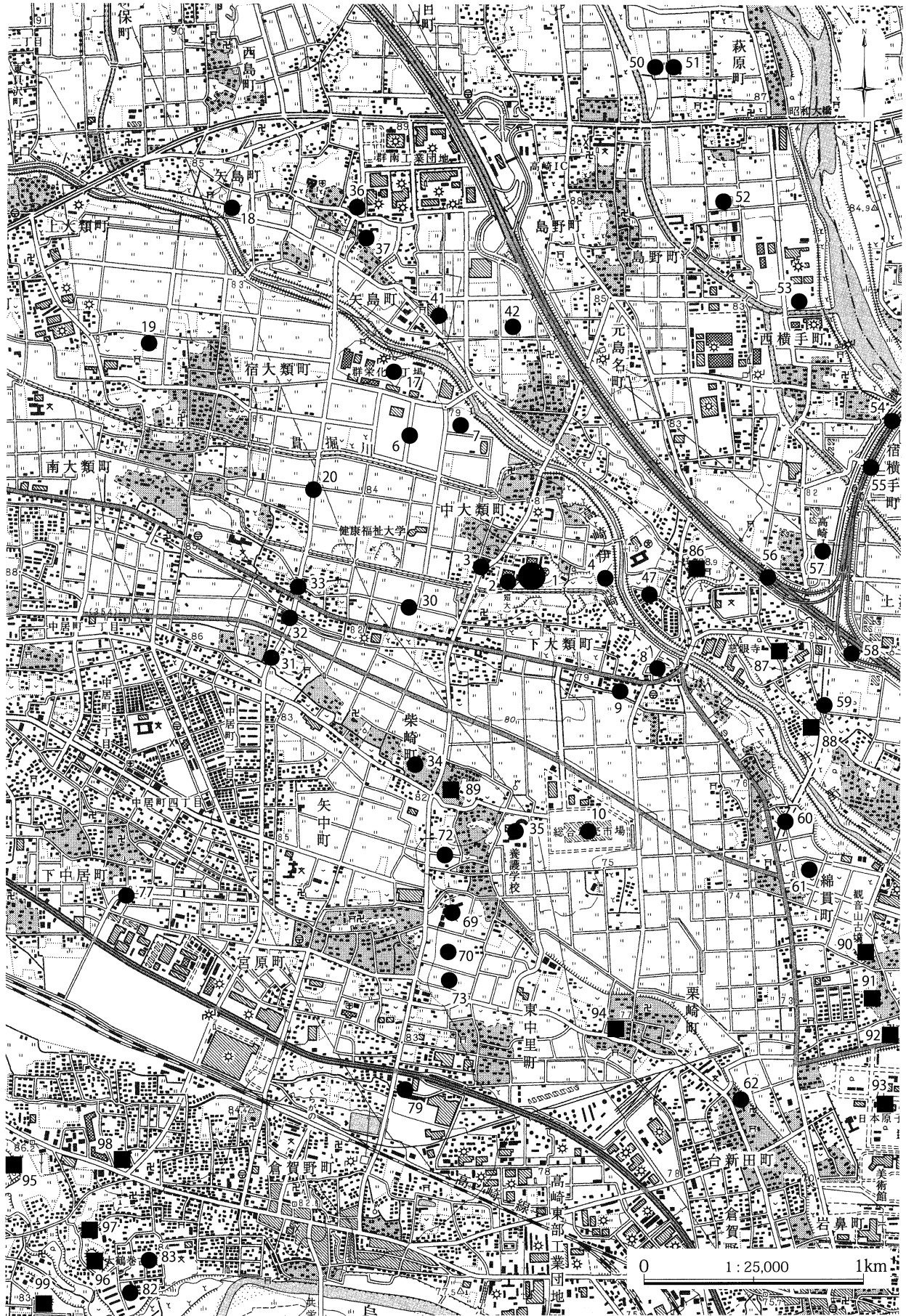
早期の遺跡は未発見で、前期では山鳥・天神遺跡（13）で遺物包含層が、宿大類町村西遺跡（19）で竪穴住居状遺構が調査された。中期では高崎情報団地Ⅱ遺跡で集落が調査された。後期では万相寺遺跡（17）で集落が調査され、柄鏡型敷石住居跡も発見された。さらに元島名遺跡（42）では土坑の調査事例がある。晩期の調査事例はない。縄文時代の遺跡は井野川流域に集中するが、遺物出土のみの遺跡が多く、遺構の調査事例は少ない。一方、本遺跡の南西、烏川左岸では、倉賀野万福寺遺跡（82）などで中期集落が調査されている。

弥生時代の遺跡も井野川流域に集中する。前期の遺跡はなく、高崎情報団地遺跡（6）出土の土器片が、前期末～中期初頭の時期とされる。中期の遺跡も少なく、矢島竹之内遺跡（36）の集落が中期末～後期初頭である。後期になると遺跡数は増加し、高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡・万相寺遺跡・宿大類町村西遺跡・鈴ノ宮遺跡（41）などで集落がある。墓域は後期周溝墓の調査事例があり、高崎情報団地遺跡・鈴ノ宮遺跡・元島名遺跡などが挙げられる。生産遺跡の様相は不明瞭であるが、下中居条里遺跡（77）ではAs-C下水田が存在するようである。

古墳時代前期では井野川左岸に元島名将軍塚古墳（86）が築造される。群馬県内でも初現期の前方後方墳である。柴崎蟹沢古墳（89）は前期後半頃の小規模古墳と考えられており、□（正）始元年銘三角縁神獸鏡が出土したことで知られる。この時期の集落は、高崎情報団地遺跡・鈴ノ宮遺跡・上滝遺跡（56）・下滝天水遺跡（59）・綿貫小林前遺跡（60）などで発掘調査されている。井野川流域に集落展開があるが、烏川流域の倉賀野万福寺遺跡や下中居条里遺跡でもその形成を確認できる。また、古墳以外の墓域では周溝墓の存在が挙げられ、高崎情報団地遺跡・鈴ノ宮遺跡・下滝天水遺跡・矢中村東遺跡（69）などがある。中でも鈴ノ宮遺跡の前方後方型周溝墓の存在は、注目される。中期になると烏川左岸に浅間山古墳（95）や大鶴巻古墳（96）といった大型前方後円墳が築造され、続いて小鶴巻古墳（97）も築造される。井野川流域では普賢寺裏古墳（91）・不動山古墳（92）・岩鼻二子山古墳（93）といった前方後円墳が相次いで築造される。集落では元島名下河原遺跡（47）、綿貫・台新田遺跡（62）、下中居条里遺跡などが調査された。後期では井野川左岸に100m級の前方後円墳、綿貫観音山古墳（90）があり、発掘調査によって石室内から豊富な副葬品が出土した。また、前山古墳（87）が前方後円墳であり、他では高崎情報団地遺跡で初期群集墳が形成される。この時期の集落数は多く、中大類金井遺跡（3）・下大類蟹沢遺跡（8）・矢島町村西・増殿遺跡（18）・柴崎遺跡群Ⅴ（30）・鈴ノ宮遺跡・上滝遺跡などがある。終末期の古墳では烏川左岸に安楽寺古墳（98）があり、横口式石槨を埋葬主体部とする円墳である。截石切組積石室墳の一種とされる。古墳時代の生産遺跡では水田跡があり、萩原地内の諸遺跡（50・51・52）・西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ（53）・上滝五反畑遺跡（58）などで6世紀代のFA・FP関連の水田跡が調査されている。

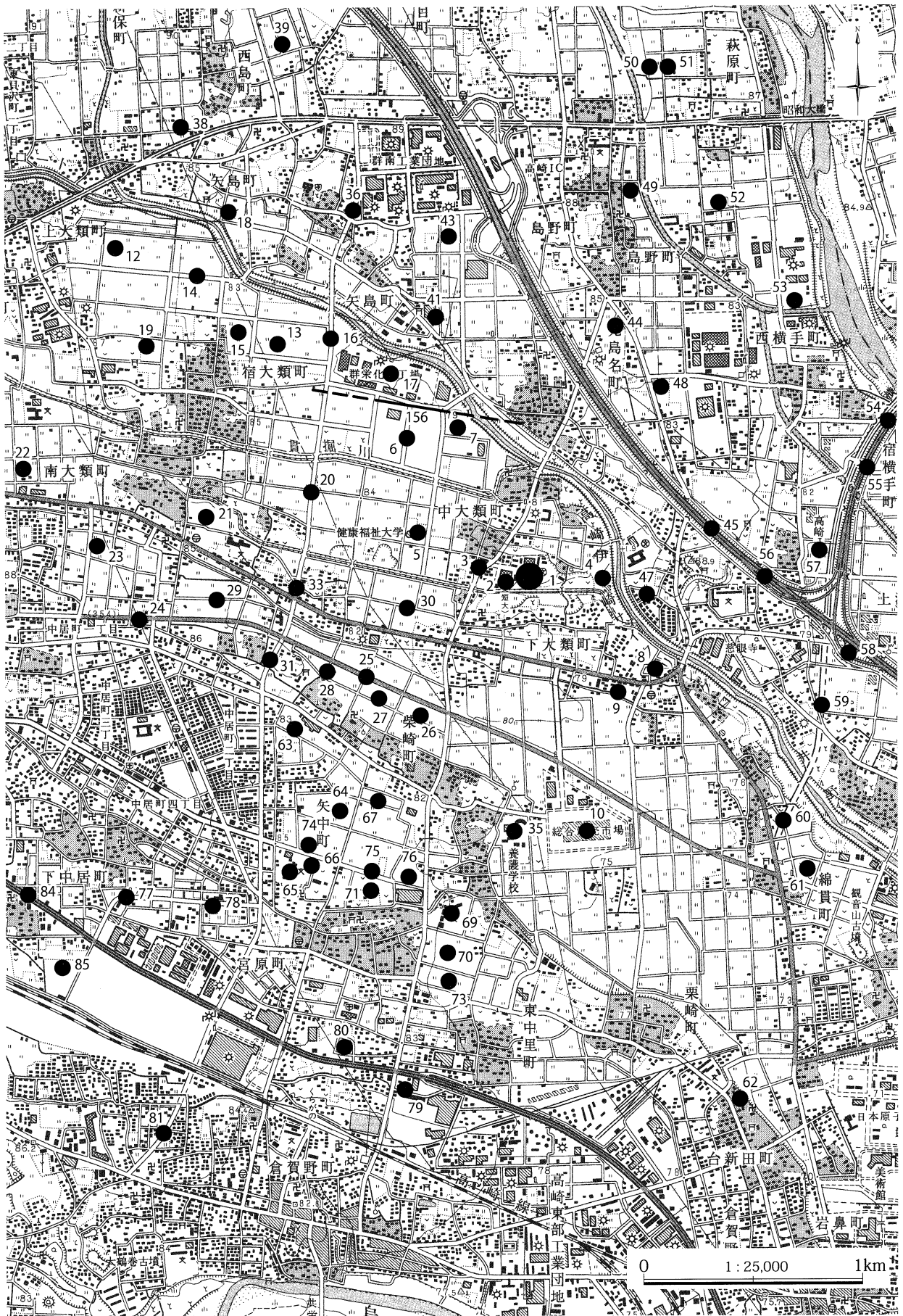
奈良・平安時代では東山道駅路（156）の開通があり、「牛堀・矢ノ原ルート」と呼ばれる。上野国内では「国府ルート」に先立つ路線とされ、7世紀後半～8世紀末頃の機能が推定されている。発掘調査によって高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡で検出された。この時期の集落は多くないようであるが、上滝遺跡・元島名下河原遺跡・綿貫・台新田遺跡などで確認できる。平安時代の集落は急増し、本遺跡の至近では中大類金井遺跡・中大類金井分遺跡（2）・中大類輪具遺跡（4）がある。他にも宿大類遺跡群（12・13・16など）・柴崎遺跡群（24・30・31など）・矢中遺跡群（66・67など）といった各地で確認できる。また、綿貫遺跡（61）の瓦葺寺院跡には注目できるし、柴崎遺跡群Ⅱ（27）でも布目瓦が多く出土した。さらに西浦・吹手西遺跡（31）の平安時代住居跡出土の「家」墨書土師器や、矢中村東遺跡（69）出土の「物部私印」の存在にも注目できよう。一方、生産遺跡ではAs-B下水田の調査例が非常に多い。中大類沖田遺跡（5）や南大類地内の諸遺跡（22・23・24）、柴崎遺跡群・宿大類遺跡群・矢中遺跡群などの他、各地で調査された遺跡は枚挙にいとまがなく、これらには条里制との関連も指摘されている。

中世になると各所に城郭や館・屋敷（以後、城館と呼ぶ）が構えられたが、多くは室町時代以降の築造と推定されている。大類地域周辺では多くの城館跡が分布するが、大半は現況地形から縄張りを復元したものである。発掘調査で発見される城館跡（11・107・110・123など）もあり、現況地形から推定された城館跡の一部が発掘された例（112・119・118・143など）も少なくない。下村北屋敷（71・136）や村北屋敷（14・122）などは、屋敷跡の良好な発掘調査事例である。本遺跡周辺では、大規模な城跡とされるものに元島名城（112）や大類城（119）などがある。これらは大類氏などの在地土豪層による普請であろう。また、本遺跡の東隣には現況地形から降照屋敷（100）の存在が指摘され、室町時代に高井氏が居住したと推定されている。

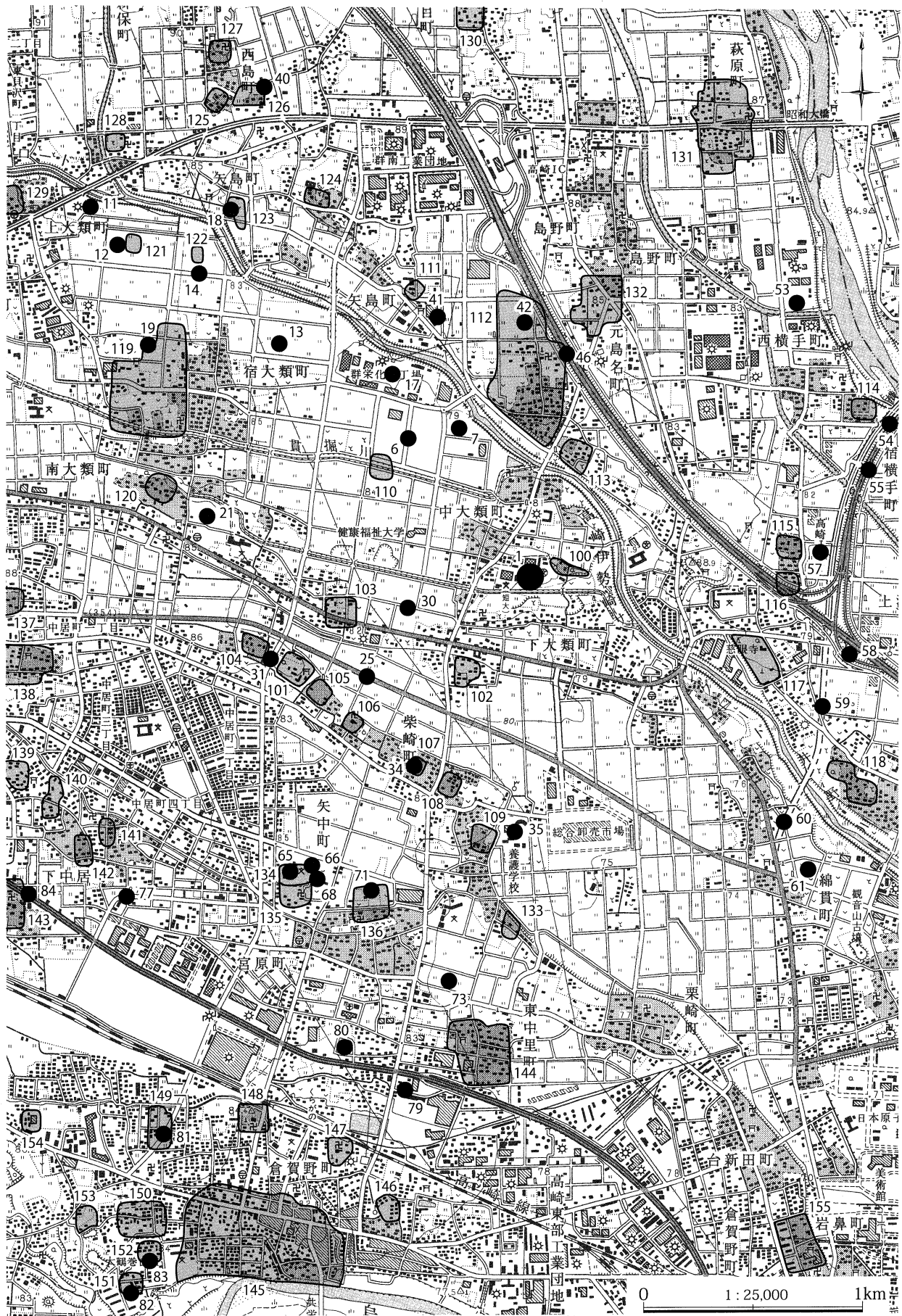


第3図 周辺の遺跡(古墳時代)

●…主要古墳



第4図 周辺の遺跡(奈良・平安時代)



第5図 周辺の遺跡(中世・城館)

第1表 周辺の遺跡一覧表(1)

遺跡名	遺跡の主な性格・時期など	主な文献
1 中大類・天田遺跡	本遺跡	本報告書
2 中大類金井分遺跡	古墳：前期？溝／平安；集落	市議会 21 集 『中大類金井分遺跡』 1992
3 中大類金井遺跡	縄文：前・中期遺物出土／古墳：後期集落／平安；集落	市議会 15 集 『中大類金井遺跡』 1989
4 中大類輪貝遺跡	古墳：奈良・平安；集落	市教委 93 集 『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書』 1989
5 中大類沖田遺跡	平安：As-B 下水田／近世：As-A 処理坑	市議会 81 集 『中大類沖田遺跡』 2000
6 高崎情報団地遺跡	縄文：前～後期遺物出土／弥生：前期末～中期初頭土器片出土。後期集落・後期周溝墓／古墳：前期集落・水路。後期古墳 33 基。後期集落／奈良・平安；集落。As-B 下水田・東山道駅路(牛堀・矢ノ原ルート)／中世：館址	市議会 55 集 『高崎情報団地遺跡』 1997
7 高崎情報団地Ⅱ遺跡	縄文：草創期石器出土。中期集落／弥生：中期末～後期集落／古墳：前～後期集落。後期古墳／奈良・平安；集落。東山道駅路(牛堀・矢ノ原ルート)。As-B 下水田／中世：館址。水田？	市教委 177 集 『高崎情報団地Ⅱ遺跡』 2002
8 下大類蟹沢遺跡	古墳：後期集落・古墳周溝(形象埴輪出土)。櫛列状遺構／平安；集落	市議会 32 集 『下大類蟹沢遺跡』 1993
9 下大類・中道下遺跡	古墳：溝・井戸・土坑／平安；溝・土坑	市教委 269 集 『下大類・中道下遺跡』 2010
10 下大類遺跡(下大類流通団地遺跡)	古墳：前～後期集落／奈良・平安；集落。八咫鏡出土	大類村史編集委員会 『大類村史』 1979
11 上大類・川押遺跡 2	中世／館址	市教委 247 集 『上大類・川押遺跡 2』 2009
12 天田・川押遺跡	縄文：中・後期遺物出土／平安：集落・土坑墓・As-B 下水田／中世：土坑墓・火葬跡。館址	市教委 41 集 『宿大類遺跡群 天田・川押遺跡』 1983 市教委 48 集 『宿大類遺跡群 天田遺跡(Ⅱ)』 1984
13 山鳥・天神遺跡	縄文：前期包含層／平安；掘立柱建物群・As-B 下水田・土坑墓／中世：掘立柱建物群	市教委 56 集 『宿大類遺跡群(3) 山鳥・天神遺跡』 1984
14 村北遺跡	平安：As-B 下水田／中世：館址	市教委 61 集 『宿大類遺跡群Ⅳ 村北・矢島前・村東遺跡』 1985
15 村東・矢島前遺跡	平安：竪穴住居跡・As-B 下水田	市教委 61 集 『宿大類遺跡群Ⅳ 村北・矢島前・村東遺跡』 1985
16 天神久保遺跡	縄文：土器片出土／平安；竪穴住居跡。As-B 下水田	市教委 64 集 『宿大類遺跡群(5) 天神久保遺跡』 1985
17 万相寺遺跡	縄文：後期集落(敷石住居あり)／弥生：後期集落／古墳：前期住居・後期古墳／奈良・平安；集落。As-B 下水田／中世：掘立柱建物	市教委 66 集 『宿大類遺跡群Ⅵ 万相寺遺跡』 1985
18 矢島町村西・増殿遺跡	縄文：集落／古墳：集落／平安；集落／中世：城址。火葬跡	市教委 71 集 『宿大類遺跡群Ⅶ 矢島町村西・増殿遺跡』 1986
19 宿大類町村西遺跡	縄文：前期住居状遺構／弥生：後期集落／古墳：前期周溝墓。前中期集落／奈良・平安；集落／中世：城址	市教委 75 集 『宿大類遺跡群Ⅷ 宿大類町村西遺跡』 1987
20 南大類東沖・稲荷遺跡	縄文：前期土器／弥生：周溝墓／古墳：前期集落／平安；集落／As-B 以前掘立柱建物群	市教委 148 集 『南大類東沖・稲荷遺跡』 1997
21 南大類村南遺跡	平安：集落／中世：堀・井戸・土坑墓／近世：As-A 処理坑	市教委 131 集 『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』 1994
22 南大類中通遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 189 集 『南大類中通遺跡』 2003
23 南大類柳原沖遺跡	平安：As-B 下水田	市議会 80 集 『南大類柳原沖遺跡』 2000
24 南大類遺跡群(駅東口線)	平安：集落・As-B 下水田	市教委 126 集 『柴崎遺跡群・南大類遺跡群』 1993
25 柴崎遺跡群(駅東口線)	平安：As-B 下水田／中世：館址？	市教委 126 集 『柴崎遺跡群・南大類遺跡群』 1993
26 村間・富士塚前 A 遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 49 集 『柴崎遺跡群(Ⅰ) 村間・富士塚前 A 遺跡』 1984
27 東原・富士塚・富士塚前 B 遺跡	平安：As-B 下水田・布目瓦多量出土	市教委 62 集 『柴崎遺跡群(Ⅱ) 東原・富士塚・富士塚前 B 遺跡』 1985
28 新堀・根際・吹手西 A・富士塚 B 遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 70 集 『柴崎遺跡群(Ⅲ) 新堀・根際・吹手西 A・富士塚 B 遺跡』 1986
29 西沖・柳原・吹手西 B 遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 79 集 『柴崎遺跡群(Ⅳ) 西沖・柳原・吹手西 B 遺跡』 1987
30 殿谷戸・旭・富士塚・隼人・吹手・峰岸遺跡	古墳：後期集落／奈良・平安；集落／中世：館址	市教委 92 集 『柴崎遺跡群(Ⅴ) 殿谷戸・旭・富士塚・隼人・吹手・峰岸遺跡』 1989
31 西浦・吹手西遺跡	古墳：前期方形周溝墓？／平安；集落。As-B 下水路／中・近世：溝跡	市教委 113 集 『柴崎遺跡群 西浦・吹手西遺跡』 1991
32 西浦・隼人・吹手西遺跡	古墳：前期？方形周溝墓	市教委 118 集 『柴崎遺跡群 西浦・隼人・吹手西遺跡』 1992
33 柴崎吹手 B・吹手西 D 遺跡	古墳：前期住居・後期古墳。前中期集落／平安：大溝／中世：井戸	市教委 152 集 『柴崎吹手 B・吹手西 D 遺跡』 1997
34 柴崎村間遺跡	古墳：前期土坑／中世：溝(堀)・井戸・館址／近世：溝・井戸	市議会 16 集 『柴崎村間遺跡』 1990
35 柴崎熊野前遺跡	古墳：自然流路／平安；集落。As-B 下水田／中世：火葬跡／近世：畠・灰掻き穴／貨泉出土	群埋文 233 集 『柴崎熊野前遺跡』 1998
36 矢島竹之内遺跡	弥生：中～後期集落／古墳：前期周溝墓／平安；集落。As-B 下水田	市教委 86 集 『矢島竹之内遺跡』 1988
37 矢島町薬師遺跡	弥生：後期集落／古墳：後期集落。薬師山古墳周溝	市議会 27 集 『矢島町薬師遺跡』 1994
38 新保八坂遺跡	平安：道路状遺構。As-B 下水田	市教委 158 集 『高崎市内小規模埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 2』 1998
39 西島遺跡群(Ⅲ)	平安：集落。As-B 下水田	市教委 68 集 『西島遺跡群(Ⅲ)』 1986
40 西島遺跡群(Ⅳ) 諏訪地区	中世：屋敷跡	市教委 76 集 『西島遺跡群(Ⅳ)』 1987
41 鈴ノ宮遺跡	弥生：後期集落・周溝墓(方形)／古墳：前期集落・周溝墓(方・前方後方形)。後期集落。後期古墳／平安；集落／中世：館址	市教委 4 集 『鈴ノ宮遺跡』 1978
42 元島名遺跡	縄文：後期土坑／弥生：後期竪穴住居跡。周溝墓／古墳：前期集落・周溝墓／中世：元島名城・榎屋敷	市教委 6 集 『元島名遺跡』 1979
43 元島名瓦井遺跡	縄文：草創期尖頭器出土／平安：As-B 下水田	市議会 39 集 『元島名瓦井遺跡』 1995
44 元島名諏訪北遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 120 集 『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』 1992
45 元島名 A 遺跡	時期不明：溝跡／平安：As-B 下耕作土？	群埋文 『八幡原 A・B 上流 元島名 A』 1981
46 元島名 B 遺跡	中世：元島名城／近・現代：土坑(陶磁器一括廃棄)	群埋文 『元島名 B・吹屋遺跡』 1982
47 元島名下河原遺跡	縄文：前・中期遺物出土／古墳：前期遺物出土。中後期集落／奈良；集落／平安；集落	市議会 33 集 『元島名下河原遺跡』 1994
48 島野中町遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 120 集 『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』 1992
49 島野村東遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 85 集 『島野村東遺跡』 1988
50 萩原八幡西・上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡	古墳：FA 下水田・FP 下水田／平安：As-B 下水田	市教委 182 集 『萩原八幡西・上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡』 2003
51 萩原上・下五丁田Ⅰ遺跡	古墳：FA 下水田・FP 下水田／平安：As-B 下水田	県央処理部萩原遺跡調査会 『萩原上・下五丁田Ⅰ遺跡』 1999
52 萩原沖中Ⅱ遺跡	古墳：FA 洪水層下水田・FP 洪水層下水田／平安：As-B 下水田	市教委 209 集 『萩原沖中Ⅱ遺跡』 2007
53 西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ	古墳：前期周溝墓。前～中期水路跡。FA 下水田／平安：As-B 下水田／中世：畝状遺構／備前堀	市教委 94 集 『西横手遺跡群(Ⅰ)』 1989 市教委 100 集 『西横手遺跡群(Ⅱ)』 1990
54 西横手遺跡群	古墳：水田／奈良・平安／屈居？・As-B 下水田／中世：土坑・井戸／近世：屋敷・墓坑群	群埋文 274 集 『西横手遺跡群』 2001
55 宿横手三波川遺跡	古墳・平安・中世・近世：水田	群埋文 273 集 『宿横手三波川遺跡』 2001
56 上滝遺跡	古墳：前期集落・後期集落／奈良；集落／中世：館址	群埋文 『八幡原 A・B 上流 元島名 A』 1981
57 上滝榎町北遺跡(長瀬線)	古墳：奈良・平安・中世：水田	群埋文 289 集 『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』 2002
58 上滝五反畑遺跡	古墳：FA 泥流下水田／平安：As-B 下水田／中世：土坑・溝／近世：As-A 下水田	群埋文 258 集 『上滝五反畑遺跡』 1999
59 下滝天水遺跡	縄文？：陥穴土坑／古墳：前期方形周溝墓。前～後期集落。方形区画溝。As-C 混土下水田・FA 下水田／奈良・平安；集落。As-B 下水田／中世：館址／近世：As-A 下水田	群埋文 329 集 『下滝天水遺跡』 2004
60 綿貫小林前遺跡	古墳：前・後期集落／奈良・平安；集落／中世：大溝・火葬跡／近世：神社跡	群埋文 365 集 『綿貫小林前遺跡』 2006
61 綿貫遺跡	古墳：前・後期集落。周溝墓。綿貫観音山古墳外堀／奈良；集落／平安；集落。寺院／中世：溝	市教委 47 集 『綿貫遺跡』 1985

第2表 周辺の遺跡一覧表(2)

遺跡名	遺跡の主な性格・時期など	主な文献
62 縮貫・台新田遺跡	古墳：中・後期集落/奈良：集落/平安：集落	市教委 246 集『縮貫・台新田遺跡』 2009
63 天王前遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 35 集『矢中遺跡群(II) 天王前遺跡』 1982
64 村北 A・天王前遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 40 集『矢中遺跡群(III) 村北 A・天王前遺跡』 1983
65 宝昌寺裏遺跡	平安：竪穴住居跡・As-B 下水田/中世：館址	市教委 43 集『矢中遺跡群(IV) 宝昌寺裏遺跡』 1983
66 村北 B 遺跡	平安：集落・As-B 下水田/中世：館址?	市教委 52 集『矢中遺跡群(V) 柴崎前・村北 B 遺跡』 1984
67 柴崎前遺跡	平安：集落・As-B 下水田	市教委 52 集『矢中遺跡群(V) 柴崎前・村北 B 遺跡』 1984
68 矢中村北 C 遺跡	中世：館址	市議会 3 集『矢中遺跡群(VI) 矢中村北 C 遺跡』 1983
69 矢中村東遺跡	古墳：前期周溝墓/平安：As-B 下水田/「物部私印」出土	市教委 57 集『矢中遺跡群(VII) 矢中村東遺跡』 1984
70 矢中村東 B 遺跡	古墳：前期周溝墓/平安：As-B 下水田	市教委 60 集『矢中遺跡群(VIII) 矢中村東 B 遺跡』 1985
71 下村北遺跡	平安：As-B 下水田/中世：館址	市教委 67 集『矢中遺跡群(IX) 下村北・砂内遺跡』 1986
72 砂内遺跡	古墳：円墳 3 基	市教委 67 集『矢中遺跡群(IX) 下村北・砂内遺跡』 1986
73 矢中村東 C 遺跡	古墳：前期周溝墓/平安：As-B 下水田/中世：館址	市教委 82 集『矢中遺跡群(X) 矢中村東 C 遺跡』 1988
74 矢中村北 D 遺跡	奈良：竪穴住居跡/平安：As-B 下水田	市教委 173 集『矢中村北 D・下村北 II・測ノ内遺跡』 2001
75 下村北 II 遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 173 集『矢中村北 D・下村北 II・測ノ内遺跡』 2001
76 測ノ内遺跡	平安：As-B 下水田	市教委 173 集『矢中村北 D・下村北 II・測ノ内遺跡』 2001
77 下中居条里遺跡	古墳：前・中期集落・As-C 下水田/平安：集落・As-B 下水田/中世：堀・溝/近世：井戸・溝/区画整理事業調査区で縄文中期後半住居調査(市史資料編 1)	市教委 145 集『下中居条里遺跡』 1996
78 矢中村西 I 遺跡	平安：As-B 下水田	市議会 44 集『矢中村西 I 遺跡』 1996
79 倉賀野中里前遺跡	古墳：平安：集落/中世：火葬跡	市議会 45 集『倉賀野中里前遺跡』 1996
80 倉賀野北遺跡(下天神・下樋越遺跡)	平安：集落・As-B 下水田/中世：火葬跡・寺院? (瓦多量出土)	市教委 202 集『倉賀野北 I・II・III・IV・V・VI 遺跡』 2006
81 倉賀野条里遺跡(上稲荷前・三坊木遺跡)	平安：集落・As-B 下水田/中世：館址?/近世：As-A 下水田・畠・As-A 処理坑	市教委 172 集『倉賀野条里 I・II・III・IV・V 遺跡』 2001
82 倉賀野万福寺遺跡	縄文：中期集落/古墳：前期集落・周溝墓・中～後期古墳/中世：館址	市議会 4 集『倉賀野万福寺遺跡』 1983
83 倉賀野万福寺 II 遺跡	縄文：中期集落/古墳：前期集落・周溝墓・中～後期古墳・埴輪棺/中世：館址	市議会 26 集『倉賀野万福寺 II 遺跡』 1994
84 下之城遺跡	平安：As-B 下水田/中世：城址	群理文『下之城条里遺構の調査』 1981
85 下之城村東遺跡	平安：As-B 下水田/近世：As-A 処理坑	市議会 1 集『下之城村東遺跡』 1983
86 元島名將軍塚古墳	古墳時代前期の前方後墳。全長 95m。	市教委 22 集『元島名將軍塚古墳』 1981 / 『新編高崎市史』資料編 1
87 前山古墳(総覧滝川村 2 号墳)	古墳時代後期の前方後墳。全長 47m 以上、60m を越える規模と推定されている。上毛古墳総覧滝川村 2 号墳。	『新編高崎市史』資料編 1 / 『群馬県史』資料編 3
88 御伊勢山古墳	直径 30m の円墳と考えられている。	群馬県教育委員会『群馬県遺跡台帳』II (西毛編) 1972
89 柴崎蟹沢古墳	4 世紀後半を前後する時期に築造された円墳、または方墳と推定される。直径(一辺) 12m 前後の小型墳であったとされる。	『新編高崎市史』資料編 1 / 『群馬県史』資料編 3
90 縮貫観音山古墳	6 世紀後半に築造された前方後墳。全長約 100m。	群理文 242 集『縮貫観音山古墳 I』 1998 / 『新編高崎市史』資料編 1
91 普賢寺裏古墳	5 世紀前半の築造と推定される前方後墳。全長 77m 以上。	『新編高崎市史』資料編 1
92 不動山古墳	5 世紀中～後半頃の築造と推定される前方後墳。全長 94m。	『新編高崎市史』資料編 1
93 岩鼻二子山古墳	5 世紀後半の築造と推定される前方後墳。全長約 115m。	『新編高崎市史』資料編 1
94 飯玉山古墳	全長 27m の前方後墳とされる。	群馬県教育委員会『群馬県遺跡台帳』II (西毛編) 1972
95 浅間山古墳	4 世紀末～5 世紀初頭の築造と推定される前方後墳。全長 171.5m。	『新編高崎市史』資料編 1
96 大籠巻古墳	4 世紀末～5 世紀初頭の築造と推定される前方後墳。全長 123m。	『新編高崎市史』資料編 1
97 小籠巻古墳	5 世紀後半の築造と推定される前方後墳。全長約 87.5m。	『新編高崎市史』資料編 1
98 安楽寺古墳	7 世紀中～末頃の築造と推定される円墳。墳径約 20m。	『新編高崎市史』資料編 1
99 大山古墳	4 世紀末～5 世紀初頭の築造と推定される円墳。直径約 56m。	『新編高崎市史』資料編 1
100 降照屋敷	室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
101 高井屋敷	16 世紀の築造と推定される。西浦・吹手西遺跡で西側隣接地を発掘調査。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 文献(31)
102 大類寄居	室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
103 準入屋敷	天文年間(1532～1554)の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
104 柴崎西浦屋敷	築造時期は不明。西浦・吹手西遺跡で東側隣接地を発掘調査。	『新編高崎市史』資料編 3 / 文献(31)
105 柴崎桜井屋敷	15 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3
106 光明寺	現在は寺院境内で、室町時代の屋敷と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3
107 村間屋敷	柴崎村間遺跡の発掘調査で発見。室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 文献(34)
108 蟹沢屋敷	築造時期は不明。	『新編高崎市史』資料編 3
109 大下屋敷(柴崎東屋敷)	16 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
110 塚ノ越屋敷	高崎情報団地遺跡の発掘調査で発見。14 世紀と推定。	『新編高崎市史』資料編 3 / 文献(6)
111 鈴ノ宮屋敷	鈴ノ宮遺跡の発掘調査で発見。築造時期不明。	『新編高崎市史』資料編 3 / 文献(41)
112 元島名城	戦国時代の築造と推定。元島名遺跡・元島名 B 遺跡などで一部発掘調査。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 『日本城郭体系』4 巻 / 文献(42)・(46)
113 元島名内出	16 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
114 新居屋敷	16 世紀末の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
115 江原屋敷	戦国時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
116 上滝中屋敷	上滝遺跡の発掘調査で発見。南北朝時代以降の築造を推定。	『新編高崎市史』資料編 3 / 文献(56)
117 慈眼寺	現在は寺院境内で、室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3
118 下滝館	文明 9 (1477) 年、足利成氏による滝陣の本陣としての築造が推定される。下滝天水遺跡で外郭堀が発掘調査された。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 文献(59)
119 大類城	戦国時代の築造と推定される。宿大類町村西遺跡で一部発掘調査。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 『日本城郭体系』4 巻 / 文献(19)
120 大類館	15 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
121 天田館	天田遺跡の発掘調査で発見。室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 文献(12)
122 村北屋敷	村北遺跡の発掘調査で発見。室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 文献(14)
123 矢島西城	矢島町村西・増殿遺跡の発掘調査で発見。報告書では仮称「矢島村西城」。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 文献(18)
124 矢島反町屋敷	戦国時代(天正期)の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
125 山王屋敷	16 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
126 猿田屋敷	西島遺跡群 IV (諏訪地区) の発掘調査で発見。16 世紀の築造と推定される。報告書では「諏訪屋敷」。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 文献(40)
127 華王寺	現在は寺院境内、環濠屋敷であったと推定。築造時期不明。	『新編高崎市史』資料編 3
128 下新保環濠遺構群	戦国時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
129 上大類新井屋敷	16 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
130 上京目深沢屋敷	戦国時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
131 萩原城	16 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
132 島野環濠遺構群	16 世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』
133 道場屋敷	築造時期は不明。矢中村東 C 遺跡として周辺が発掘調査された。	『新編高崎市史』資料編 3 / 『群馬県の中世城館跡』/ 文献(73)
134 宝昌寺裏屋敷	16 世紀の築造と推定。宝昌寺裏遺跡として発掘調査が行われた。	『新編高崎市史』資料編 3 / 文献(65)

第3表 周辺の遺跡一覧表(3)

遺跡名	遺跡の主な性格・時期など	主な文献
135 栗原・矢中屋敷	16世紀の築造と推定。栗原屋敷と矢中屋敷が併ぶ。「矢中七騎の遺跡」。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
136 下村北屋敷	16世紀の築造と推定される。下村北遺跡として発掘調査が行われた。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』 / 文献(71)
137 丸茂屋敷	室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
138 字名室環濠屋敷群	16世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
139 下中居新井屋敷	16世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
140 高尾屋敷(くぐり窓)	戦国時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
141 下中居佐藤屋敷	16世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
142 下中居福田屋敷	16世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
143 和田下之城	16世紀後半の築造と推定される。下之城遺跡などで一部発掘調査された。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』 / 『日本城郭体系』4巻 / 文献(84)
144 東中里城	16世紀の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
145 倉賀野城	室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』 / 『日本城郭体系』4巻
146 倉賀野東城	16世紀の築造と推定される。長賀寺山古墳の墳丘を利用。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
147 養報寺	戦国時代の築造と推定される。現在は寺院境内であるが、かつては倉賀野城の外堡として機能したと推定されている。	『新編高崎市史』資料編3
148 永泉寺の砦	16世紀の築造と推定される。現在は寺院境内。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
149 上稲荷前屋敷	室町時代の築造と推定される。倉賀野条里遺跡として一部発掘調査された。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』 / 文献(81)
150 倉賀野西城	室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
151 万福寺屋敷	倉賀野万福寺遺跡で一部発掘調査された。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』 / 文献(82)
152 宮之前屋敷	倉賀野万福寺II遺跡の発掘調査で発見された。室町時代の築造と推定。	『新編高崎市史』資料編3 / 文献(83)
153 朝日長者屋敷	室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』
154 倉賀野新堀屋敷	室町時代の築造と推定される。	『新編高崎市史』資料編3
155 岩鼻の砦(岩鼻陣屋)	江戸時代の陣屋跡であるが、16世紀の砦の比定地のひとつ。	『新編高崎市史』資料編3 / 『群馬県の中世城館跡』 / 『日本城郭体系』4巻
156 東山道(牛堀・矢ノ原ルート)	両側側溝、幅9m前後。7世紀後半～8世紀末頃まで機能。	文献(6)・(7)

(凡例) ●主な参考文献欄の「市教委」は高崎市教育委員会、「市調会」は高崎市遺跡調査会、「群埋文」は群馬県埋蔵文化財調査事業団の略。「新編高崎市史」は高崎市発行で、資料編1(原始古代I)が1999年に発行、資料編3(中世I)が1996年に発行された。『群馬県史』資料編3(原始古代3・古墳)は、群馬県から1981年に発行された。『群馬県の中世城館跡』は、群馬県教育委員会から1988年に発行された。『日本城郭体系』第4巻(茨城・栃木・群馬)は、新人物往來社から1979年に発行された。●遺跡の主な性格・時期などは、基本的にそれぞれの主な参考文献を基に記載したが、ここに挙げない文献を参考にした部分もある。また、城館址の名称・推定時期などは『新編高崎市史』資料編3に依った。●周辺遺跡図(中世)の城館址の位置・範囲は、基本的に『新編高崎市史』資料編3の付図に準拠したが、本図では概略的に表示した。また、発掘調査がなされた城館址の場合、その範囲と遺跡の位置を示すドットが重複することがあるが、このドットは、範囲に対しての具体的な調査地点を示すものではないことに注意されたい。

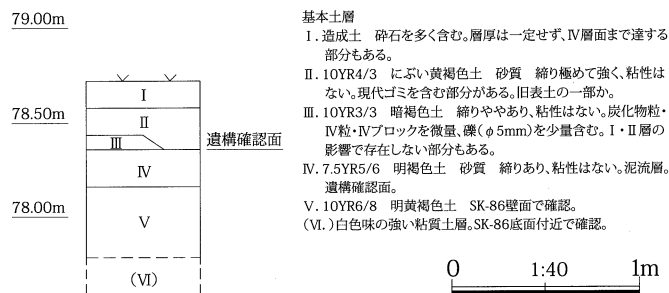
IV. 調査した遺跡の概要

今回の発掘調査面積は、調査対象地のうち約445㎡であり、調査区域はおおよそ東西に長い長方形を呈する。井野川右岸の微高地上に位置し、標高は78.5m前後である。基本土層柱状図に示したように、遺構確認面はIV層上面とした。

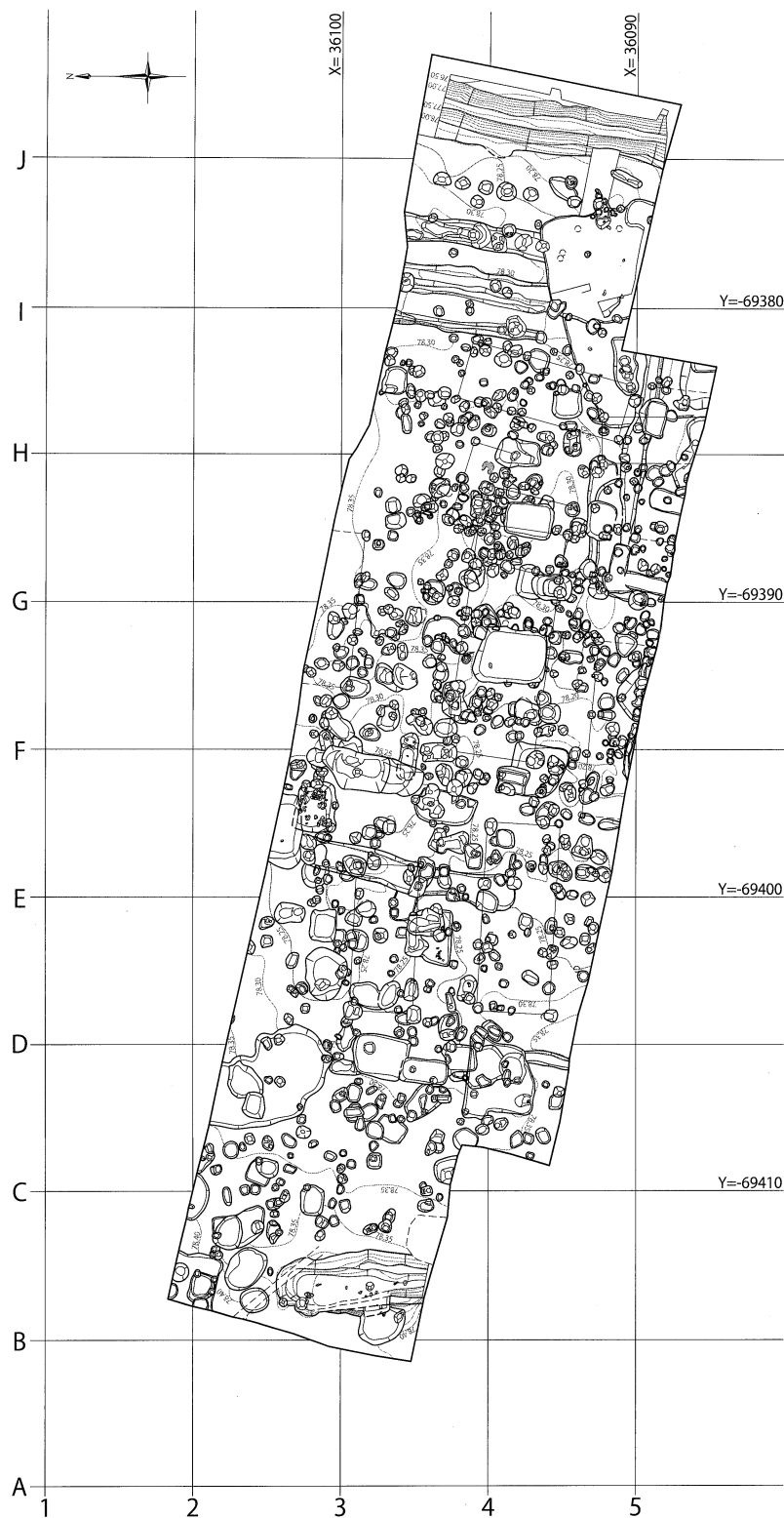
本遺跡で検出した遺構は、竪穴住居跡4軒・溝7条・土坑101基・ピット712基である。土坑・ピットの数量は遺構番号を設定したものであり、番号未付与を含めれば、総数はそれ以上になる。また、「土坑」「ピット」の名称は統一基準をもって区分しておらず、「土坑」と名付けた方が妥当な「ピット」もあるし、逆もまたしかりである。いずれにせよ、ピットの性格としてはほとんどが柱穴であったと考えられ、その中から、平面的配列によって掘立柱建物を10棟抽出した。

調査した遺跡は中世屋敷跡であったと考えられ、出土遺物により16世紀頃の機能を推定する。多数のピットを検出した部分を内部としてとらえ、SD-1を区画する堀と判断している。一方で、それ以前の奈良・平安時代には集落が存在していたとみられ、調査した竪穴住居跡はこの時代の帰属である。他には土坑も存在した。古墳時代の遺構は明瞭ではないが、少数の土坑はこの時代であろう。遺物は前～後期までのものが出土している。ここで注意したいのは、中世屋敷の築造によって古代の遺構が壊されている可能性であり、調査区内からの出土遺物の主体が、古墳時代以降の土器小破片であること

を考慮すれば、その可能性は高いと考えられる。このことをふまえて、ピット群中に古墳時代以降の竪穴住居跡の柱穴、貯蔵穴が含まれていることを想定したが、典型的な配置状態は見出すことができなかった。また、縄文・弥生時代の遺物がそれぞれ少数出土しているものの、いずれも流れ込みと判断できる。当該期の遺構は検出されていない。



第6図 基本土層柱状図



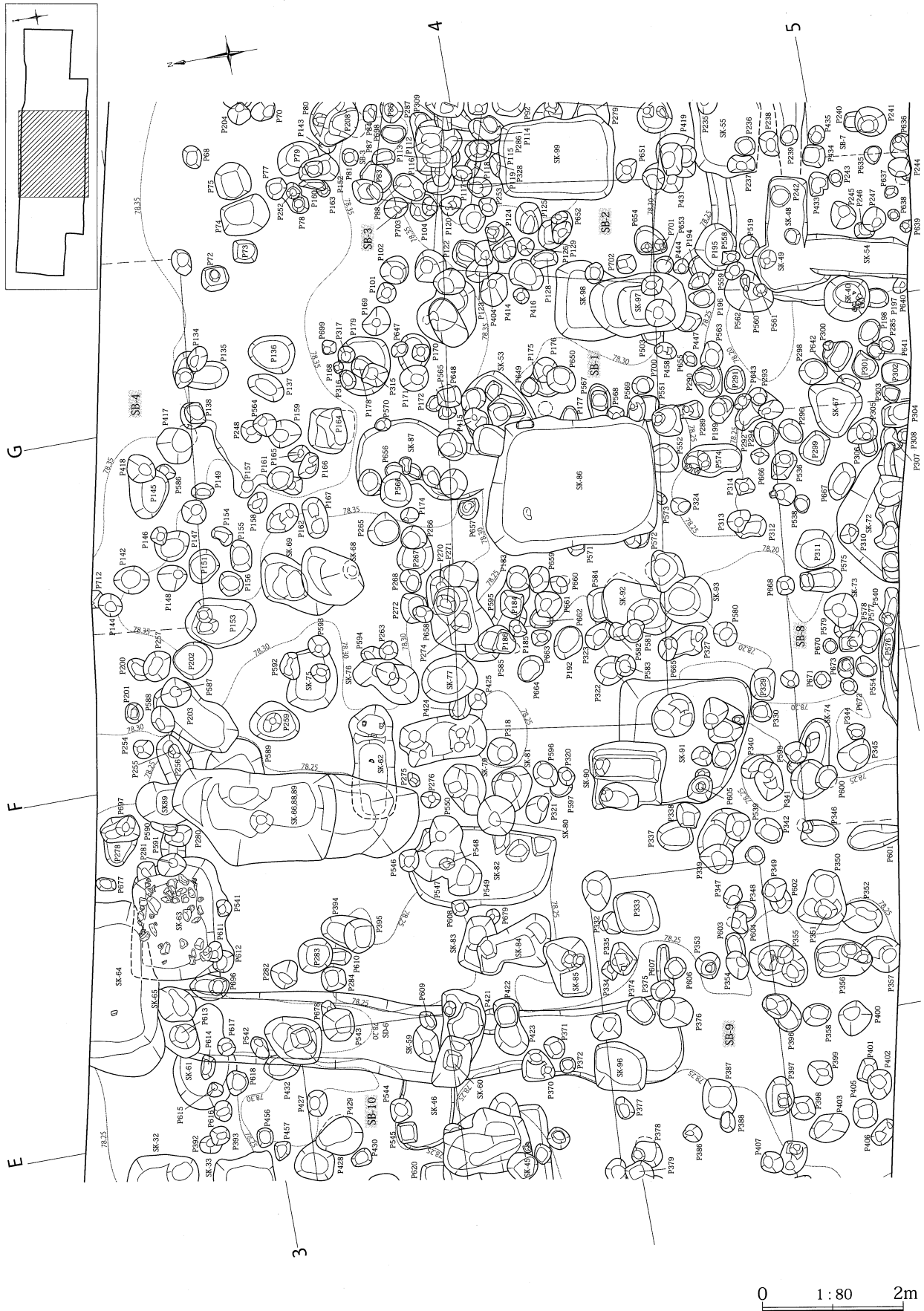
○はプラン確認のみのピット。以下、全ての図版に共通する。

0 1:250 5m

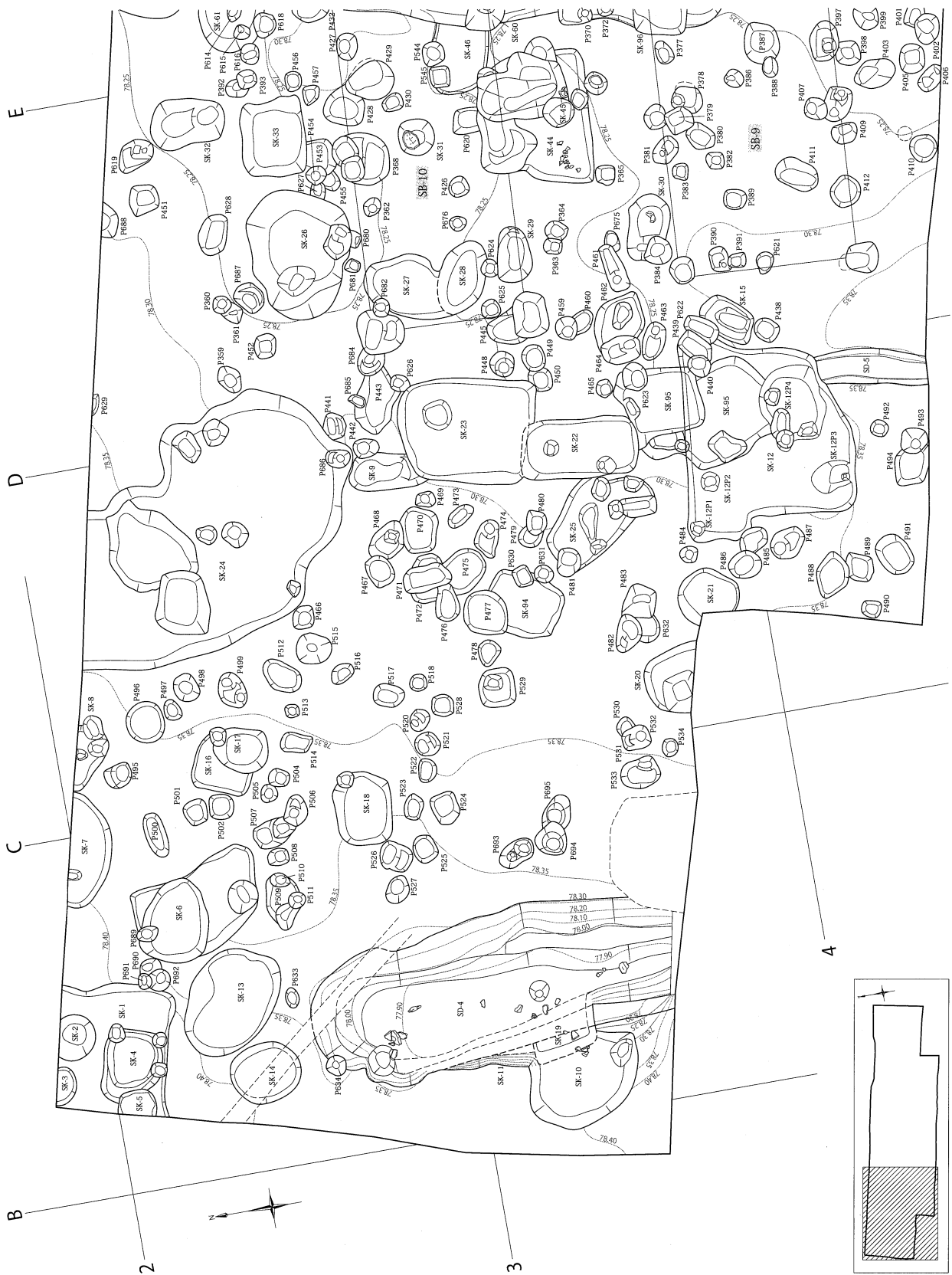
第7図 全体図



第8图 分割图(东侧)



第9図 分割図(中央)



第10图 分割图(西侧)

V. 調査した遺構

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は4軒を検出した。全て奈良・平安時代に属すると判断している。ただし、SI-3・4では出土遺物の帰属が不明瞭である。複数のピットが重複状態にあるが、新旧関係はほとんど確認できなかった。また、掘り方の残痕とも思える遺構確認面のわずかなくぼみが複数個所にあり、意識的な調査を行ったが、判断することができなかった。さらに、検出した土坑・ピット群中には竪穴住居に関わるものが存在する可能性があり、整理段階で検討したものの、典型的な配置状況として抽出できておらず、明確にしがたい。

SI-1 (第16・17図)

位置 調査区東、I4・I5グリッド主体 **重複関係** SI-2より古い。 **平面形態** 歪む長方形 **主軸方位** N-82°-E **規模** 東西3.7m・南北4m以上・深さ11～16cm程 **床面** 弱い起伏があり硬化する。 **柱穴** 検出したピットが本遺構に伴うかは不明。 **周溝** 北壁際の土層断面で周溝状の落ち込みを確認したが(セクションCライン)、平面的には不明瞭。 **カマド** 東壁に付設される。火床の被熱痕跡は確認できず、灰の堆積も認められない。焚口部の両脇に浅いくぼみがあり、袖石の抜き取り痕の可能性はある。 **貯蔵穴** カマドの南隣で検出した。東壁部分が少し張り出す。 **掘り方** 土層断面にて部分的に床面下の覆土を確認した。掘り方に相当すると考えるが、底面の地山まで掘り下げていないため、詳細は不明。 **出土遺物** 土師器坏・壺、須恵器坏・蓋・壺などが出土した。 **所見** SI-2より古い住居跡だが、床面深度はそれより深い。出土遺物により、8世紀代の時期を推定する。

SI-2 (第16・17図)

位置 調査区東、H4グリッド **重複関係** SI-1より新しく、SK-47・50・SD-7より古い。 **平面形態** 長方形か **主軸方位** N-72°-E **規模** 東西4m以上・南北3m以上・深さ3～7cm程 **床面** 弱い起伏があり硬化する。 **柱穴** 検出したピットが本遺構に伴うかは不明。 **周溝** なし **カマド** 南側調査区外に存在すると考えられる。 **貯蔵穴** 不明 **掘り方** 全体的な掘り下げは行っていない。SI-1底面で検出した落ち込みが、本遺構の掘り方に関わるものと考えた。床下土坑か。 **出土遺物** 土師器坏、須恵器坏・埴・高台付皿・甕などが出土した。 **所見** 南側が調査区外のため、全形は不明。土層の切り合い関係と出土遺物の様相から、SI-1より新しい遺構であるが、東壁部分の平面的な記録はできなかった。本来的な東壁付近において、比較的大きい焼土ブロックを確認したが、これはカマドに関わるものではなかった。出土遺物により、9世紀後半の時期を推定する。

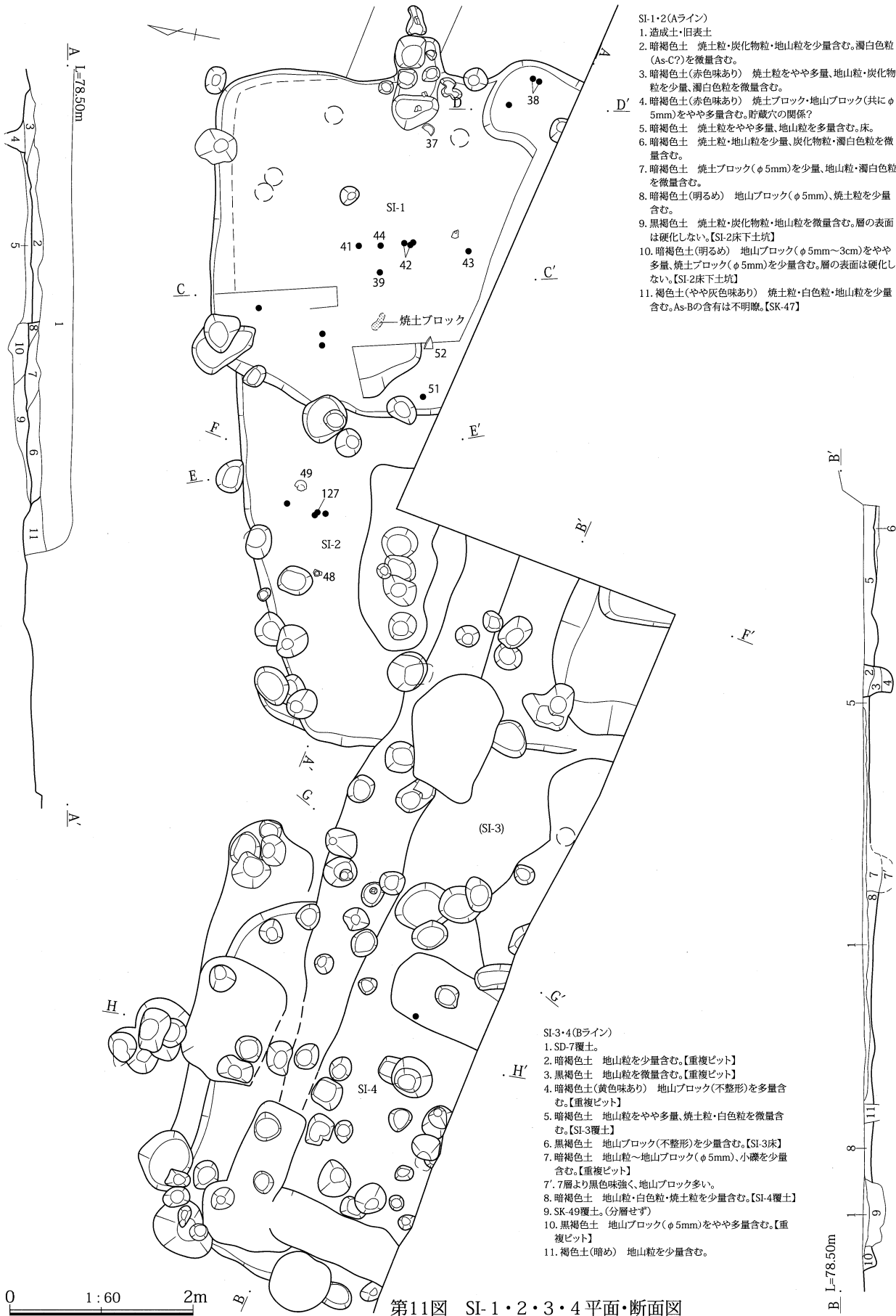
SI-3 (第16・17図)

位置 調査区東、G5・H5グリッド **重複関係** SK-50・52・57・58・SD-7より古い。 **平面形態** 不明 **主軸方位** 不明 **規模** 不明 **床面** 比較的平坦で硬化はやや強い。 **柱穴** 検出したピットが本遺構に伴うかは不明。 **周溝** 不明 **カマド** 不明 **貯蔵穴** 不明 **掘り方** 土層断面の観察により、調査区南東隅の落ち込みを、SI-3の住居内土坑と判断した。掘り方自体は無い。 **出土遺物** 小破片の出土で、重複遺構出土遺物との区別に難がある。本遺構に伴うと考えたものに、土師器甕、須恵器埴、ロクロ使用酸化焰焼成の坏・埴などがある。

所見 床面だけの検出であり、平面形態などは全て不明である。SI-2・4との新旧関係も明確ではないが、土層断面の状況からSI-2より新しいとみられる。出土遺物により、10世紀後半～11世紀代の時期を推定する。

SI-4 (第16・17図)

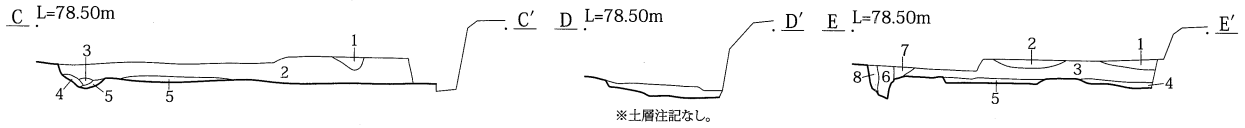
位置 調査区東、G4・G5グリッド **重複関係** SK-48・49・52・54・55・56・58・SD-7より古い。 **平面形態** 長方形か **主軸方位** N-92°-E **規模** 東西4m・南北2.9m以上・深さ3～8cm程 **床面** 弱い起伏があり硬化はやや強い。 **柱穴** 検出したピットが本遺構に伴うかは不明。土層断面では本遺構に伴うピットも確認できる。 **周溝** 不明 **カマド** 不明 **貯蔵穴** 不明 **掘り方** なし **出土遺物** 小破片の出土で、重複遺構出土遺物との区別に難がある。「SI-4周辺」として取り上げた遺物も含め、土師器甕、羽釜、ロクロ使用酸化焰焼成の埴などが出土した。 **所見** SI-3との新旧関係は不明。出土遺物により、10世紀後半～11世紀代の時期を推定する。



- SI-1・2(Aライン)
1. 造成土・旧表土
 2. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・地山粒を少量含む。濁白色粒(As-C?)を微量含む。
 3. 暗褐色土(赤色味あり) 焼土粒をやや多量、地山粒・炭化物粒を少量、濁白色粒を微量含む。
 4. 暗褐色土(赤色味あり) 焼土ブロック・地山ブロック(共にφ5mm)をやや多量含む。貯蔵穴の關係?
 5. 暗褐色土 焼土粒をやや多量、地山粒を多量含む。床。
 6. 暗褐色土 焼土粒・地山粒を少量、炭化物粒・濁白色粒を微量含む。
 7. 暗褐色土 焼土ブロック(φ5mm)を少量、地山粒・濁白色粒を微量含む。
 8. 暗褐色土(明るめ) 地山ブロック(φ5mm)、焼土粒を少量含む。
 9. 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・地山粒を微量含む。層の表面は硬化しない。【SI-2床下土坑】
 10. 暗褐色土(明るめ) 地山ブロック(φ5mm~3cm)をやや多量、焼土ブロック(φ5mm)を少量含む。層の表面は硬化しない。【SI-2床下土坑】
 11. 褐色土(やや灰色味あり) 焼土粒・白色粒・地山粒を少量含む。As-Bの含有は不明瞭。【SK-47】

- SI-3・4(Bライン)
1. SD-7覆土。
 2. 暗褐色土 地山粒を少量含む。【重複ピット】
 3. 黒褐色土 地山粒を微量含む。【重複ピット】
 4. 暗褐色土(黄色味あり) 地山ブロック(不整形)を多量含む。【重複ピット】
 5. 暗褐色土 地山粒をやや多量、焼土粒・白色粒を微量含む。【SI-3覆土】
 6. 黒褐色土 地山ブロック(不整形)を少量含む。【SI-3床】
 7. 暗褐色土 地山粒~地山ブロック(φ5mm)、小礫を少量含む。【重複ピット】
 - 7'. 7層より黒色味強く、地山ブロック多い。
 8. 暗褐色土 地山粒・白色粒・焼土粒を少量含む。【SI-4覆土】
 9. SK-49覆土。(分層せず)
 10. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)をやや多量含む。【重複ピット】
 11. 褐色土(暗め) 地山粒を少量含む。

第11図 SI-1・2・3・4 平面・断面図

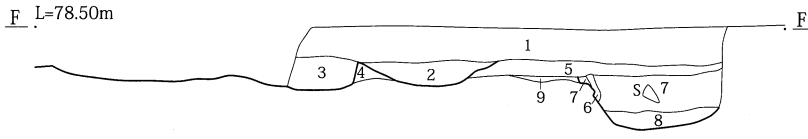


SI-1(Cライン)

1. 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック(φ5mm)を多量含む。【重複ピットか?】
2. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・地山粒を少量含む。濁白色粒(As-C?)を微量含む。
3. 黒褐色土 混入物少ない。【周溝】
4. 橙色 地山崩落土。【周溝】
5. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)を多量含む。【掘り方相当】

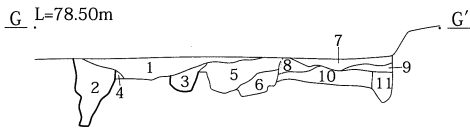
SI-2(Eライン)

1. 造成土・旧表土
2. 褐色土 地山粒を微量含む。
3. 暗褐色土 焼土粒・地山粒を少量、炭化物粒・濁白色粒を微量含む。
4. 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・地山粒を微量含む。層の表面は硬化しない。【SI-2床下土坑】
5. 黒褐色土 地山ブロック(φ1cm以下)を少量含む。
6. 暗褐色土 焼土粒・白色粒を微量含む。(柱痕状)【P-76】
7. 暗褐色土 地山粒を多量含む。【P-76】
8. 暗褐色土 7層に似るが、地山ブロック(φ5mm~1cm)の含有量が多め。【P-76】



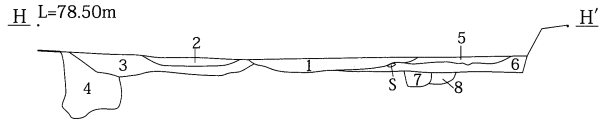
SI-2・3, SK-47, SD-7(Fライン)

1. 造成土・旧表土
2. 灰黄褐色土 砂質。As-B混?。地山粒・小礫を少量含む。【SD-7】
3. 褐色土(やや灰色味あり) 焼土粒・白色粒・地山粒を少量含む。As-Bの含有は不明瞭。【SK-47】
4. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・地山粒を少量含む。濁白色粒(As-C?)を微量含む。【SI-2】
5. 暗褐色土 地山粒をやや多量、焼土粒・白色粒を微量含む。【SI-3覆土】
6. 根穴
7. 暗褐色土(黒色味あり) 地山ブロック(φ5mm~2cm)を多量含む。【住居内土坑か?】
8. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm主体、最大φ2cm)を少量含む。【住居内土坑か?】
9. 黒褐色土 地山ブロック(不整形)を少量含む。【SI-3床】



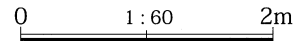
SI-4(Gライン)

1. SD-7覆土
2. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)を少量含む。
3. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)・焼土粒を少量含む。
4. にぶい黄褐色土 地山ブロックを含む。
5. 暗褐色土 地山粒・地山ブロック(φ5mm)、小礫を少量含む。【重複ピット】
6. 7層より黒色味強く、地山土ブロック多い。
7. 灰黄褐色土 砂質。As-B混土か? 旧表土。
8. 暗褐色土 地山粒・焼土粒を少量含む。【SI-4覆土】
9. 暗褐色土 地山粒・焼土粒を少量含む。8層と同一層か?【SI-4覆土】
10. 暗褐色土 地山粒・白色粒・焼土粒を少量含む。【SI-4覆土】
11. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm以下)をやや多量、焼土粒を少量含む。【覆土中のピットか?】

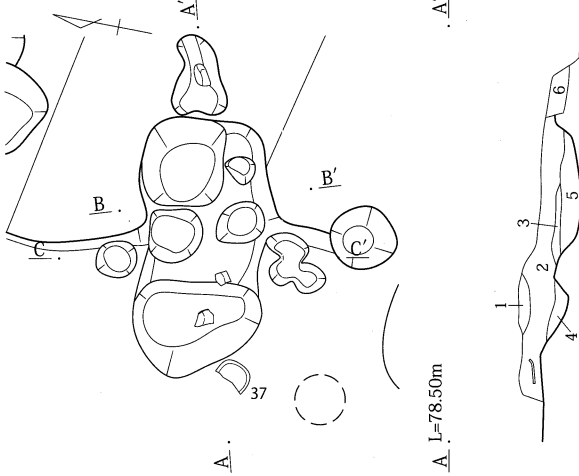


SI-4(Hライン)

1. SD-7覆土。
2. 暗褐色土(灰色気味) 地山粒・焼土粒を含む。【SK-56】
3. 暗褐色土(明るめ) 地山粒・焼土粒・白色粒をやや多量含む。【SK-55】
4. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)を多量、焼土ブロック(φ5mm)を少量含む。【P-419】
5. 暗褐色土 地山粒・焼土粒を少量含む。【SI-4覆土】
6. 暗褐色土 地山粒・白色粒・焼土粒を少量含む。【SI-4覆土】
7. 黒褐色土 地山ブロック(不整形)を含む。【ピット】
8. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)を少量含む。【ピット】



SI-1カマド



C L=78.50m

C'

SI-1カマド

1. 橙色 焼土ブロック
2. 暗褐色土 焼土ブロック(φ5mm)・炭化物粒・地山粒を少量含む。
3. 暗褐色土(暗め) 不整形焼土ブロックをやや多量含む。2層より粘性あり。
4. 黒褐色土 焼土粒を微量含む。
5. 黒褐色土 焼土粒・地山ブロック(φ1cm以下)を多量含む。
6. 暗褐色土 焼土粒・地山粒を少量含む。(重複ピット)

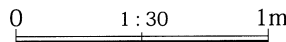
※灰堆積なし。被熱痕跡なし。締りと粘性は填圧が強いため不明瞭。4・5層は掘り方相当か?

B L=78.50m

B'



※土層注記なし。



第12図 SI-1・2・3・4平面・断面図 SI-1カマド平面・断面図

(2) 掘立柱建物跡

調査では多数のピットが検出され、掘立柱建物跡の存在が予測されたが、発掘現場では認識できなかった。よって、本書で提示する掘立柱建物跡は、全て整理作業時における認定である。検出したピット群から建物を構成するピットを抽出するにあたり、基本的には平面的配列から判断した。その際、柱筋の通りの良さを主眼としたが、他遺跡での報告例にあるように、柱筋の不揃いな建物を想定すれば、未だ多くの建物跡を抽出できていない可能性が高い。あるいは柵など、柱穴列が存在した可能性もある。そうした意味で、今回報告する掘立柱建物跡には再検討の余地が多く、現段階では一案の提示に留まる。

掲載した掘立柱建物跡は 10 棟で、柱穴列から想定したものが 3 棟含まれる。梁間 1 間で東西棟の長方形建物跡が多く、主軸方位は比較的揃う。これらの柱穴は他遺構と重複することが多いが、新旧関係の把握はほとんどできなかった。各柱穴の深度・出土遺物などは、第 4 表にまとめた。

SB-1 (第 13 図)

位置 調査区中央、F3・F4・G4 グリッド主体 重複関係 SB-2・3・他遺構 平面形態 長方形 主軸方位 N-98°-E 規模 梁行 3.0m・桁行 7.9m 面積 23.7㎡ 所見 1 間×4 間の東西棟建物である。桁行の柱間は 1.6m～2.2m とバラつき、平均すると約 1.9m になる。今回報告する建物の中では最も規模が大きい。P3 からカワラケ破片が出土した。

SB-2 (第 14 図)

位置 調査区中央東寄り、G3・G4 グリッド 重複関係 SB-1・3・他遺構 平面形態 長方形 主軸方位 N-14°-E 規模 梁行 2.5m・桁行 3.1m 面積 約 6.2㎡ 所見 1 間×2 間の南北棟建物である。桁行の柱間は 1.35m～1.75m で、平均すると 1.5m になる。P-4・5・6 の柱間がバラつくが、P-1・2・3 の柱間はともに 1.55m である。

SB-3 (第 14 図)

位置 調査区中央東寄り、G3・G4 グリッド 重複関係 SB-1・2・他遺構 平面形態 長方形 主軸方位 N-107°-E 規模 梁行 1.4～1.5m・桁行 2.9～3.0m 面積 約 4.5㎡ 所見 1 間×2 間の東西棟建物である。梁間は約 1.5m で、桁行の柱間は 1.4～1.6m、平均すると約 1.5m になる。今回報告する建物の中では最も規模が小さい。建物内東半部の遺構確認面では焼土分布が認められた。これは 1 号焼土として記録したものだが、地山の被熱痕跡である。掘り込みは伴わず、周辺に炭化物などは確認できない。SB-3 との直接的な関係は不明であるが、全体的にはバランスの良い位置にあるように見え、SB-3 の機能に関わる可能性がある。

SB-4 (第 14 図)

位置 調査区中央北、F2・F3・G2・G3 グリッド 重複関係 他遺構 平面形態 長方形か 主軸方位 N-96°-E 規模 梁行 1.6m 以上・桁行 5.2m 面積 8.3㎡以上 所見 北側調査区外へと展開する東西棟建物を想定したが、柱穴列だけの可能性もある。桁行は 3 間で、間は 1.65m～1.8m で、平均すると 1.7m になる。

SB-5 (第 14 図)

位置 調査区南東、G4・G5・H4・H5 グリッド 重複関係 SB-6・SB-7・他遺構 平面形態 長方形か 主軸方位 N-0°-E 規模 梁行 1.6m・桁行 3.5m 以上 面積 5.6㎡以上 所見 南側調査区外へと展開する南北棟建物を想定した。4 本柱の建物の可能性もあろうか。桁行の柱間は 2.4m を測る。

SB-6 (第 15 図)

位置 調査区東、H3・H4・H5 グリッド 重複関係 SB-5・他遺構 平面形態 長方形 主軸方位 N-16°-E 規模 梁行 1.9m～2.1m・桁行 5.5m～5.7m 面積 約 11㎡ 所見 1 間×3 間の南北棟建物である。桁行の柱間は 1.8m～1.9m とほぼ等間である。

SB-7 (第 15 図)

位置 調査区南東、G5・H5 グリッド 重複関係 SB-5・他遺構 平面形態 長方形か 主軸方位 N-97°-E

規模 梁行 2.0m 以上・桁行 5.7m 面積 11.4㎡以上 所見 南側調査区外へと展開する東西棟建物を想定したが、柱穴列だけの可能性もある。桁行は 3 間で、柱間は 1.7m～1.9m である。P1・P2 間がわずかに広い。

SB-8 (第 15 図)

位置 調査区中央南、E4・F4・F5 グリッド 重複関係 他遺構 平面形態 長方形か 主軸方位 N-95°-E

規模 梁行 2.0m 以上・桁行 6.0m 面積 12㎡以上 所見 南側調査区外へと展開する東西棟建物を想定したが、柱穴列だけの可能性もある。桁行は 5 間で、柱間は 1.0m～1.4m とバラつきがある。平均すると 1.2m になる。

SB-9 (第 16 図)

位置 調査区中央南西、D4・E4 グリッド主体 重複関係 他遺構 平面形態 長方形 主軸方位 N-93°-E

規模 梁行 2.4m・桁行 6.5m 面積 約 15.6㎡ 所見 1 間×3 間の南北棟建物である。桁行の柱間は 2.0m～2.3m で、平均すると約 2.1m になる。

SB-10 (第 16 図)

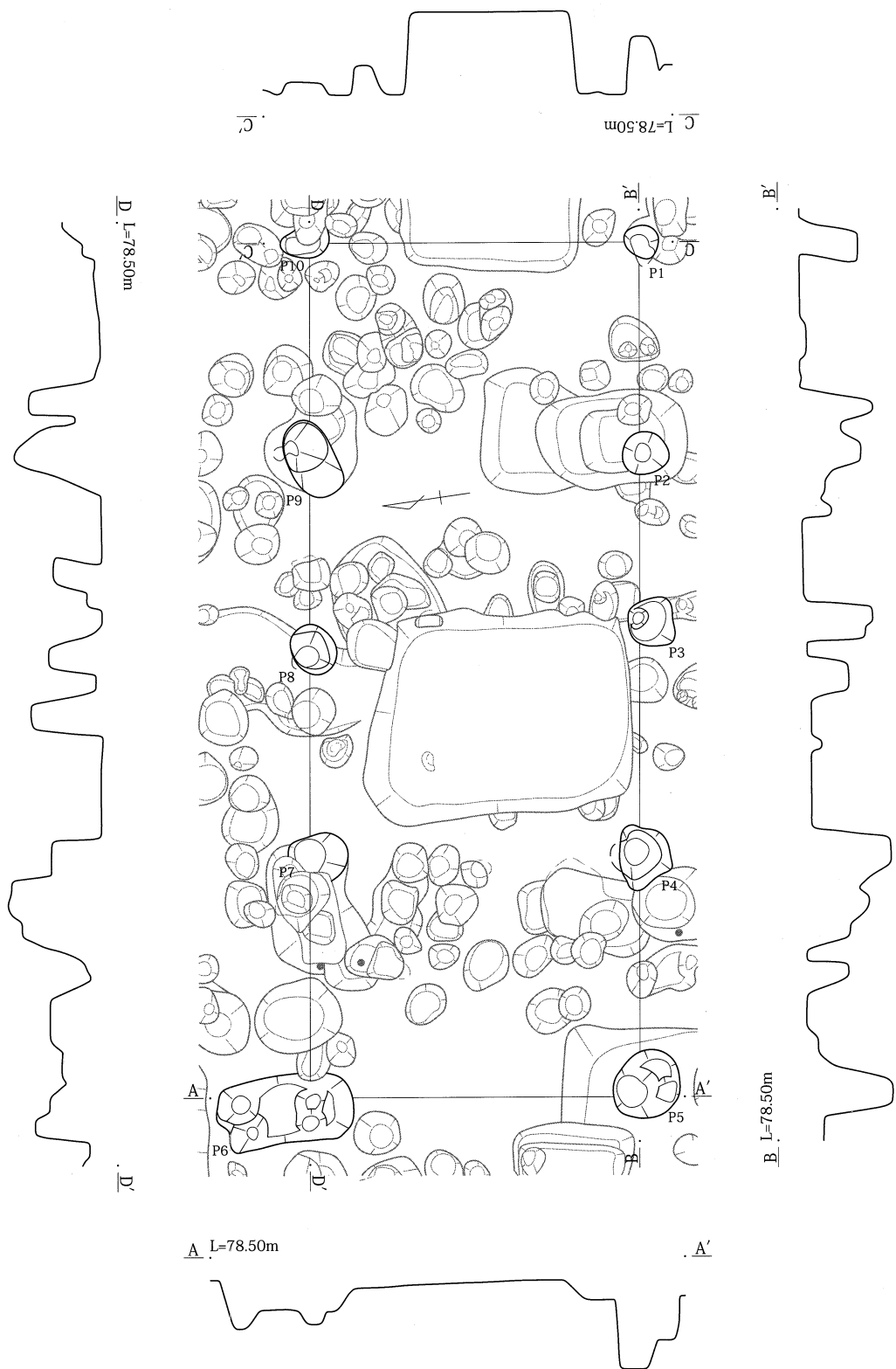
位置 調査区中央西、D3・E3 グリッド 重複関係 他遺構 平面形態 長方形 主軸方位 N-93°-E 規模

梁行 2.2m～2.4m・桁行 5.0m 面積 約 11.5㎡ 所見 1 間×2 間の南北棟建物である。桁行の柱間は 2.3m～2.7m で、平均すると 2.5m になる。各柱穴は同一個所で重複状態にあり、その結果平面規模が大きい。重複の新旧関係は掴めていないが、建て直しの可能性があろう。調査時の所見により、P6 は、SD-6 よりも古い可能性がある。

また、P2 からカワラケが出土し、5 個体 (No.110～114) に復元できた。これらは柱穴への一括埋納が考えられる。本来的には完形個体であったのだろうが、調査中に破片化したと思われる。この点については、具体的な出土状態も含めて、確認できていないことを明記しておく。なお、P2 は調査段階では SK-44 の一部として記録していた。ゆえに出土したカワラケも「SK-44 覆土」として取り上げていたが、調査担当者の記憶により、P2 部分から出土したことが特定できた。よってこれらのカワラケを SB-10・P2 出土として報告した。また、同じく「SK-44 覆土」出土として陶器の小破片 (No.119) があり、P2 出土の可能性はあるのだが、こちらは特定できなかった。

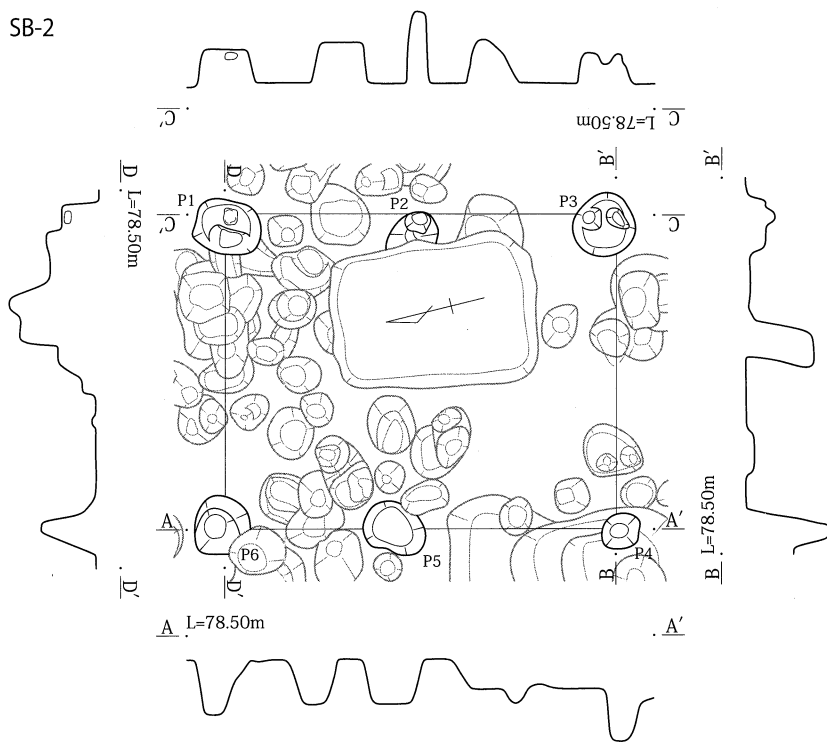
第 4 表 掘立柱建物跡柱穴一覧表

遺構	番号	位置	覆土	規 模			出土遺物	旧番号 / 備考	遺構	番号	位置	覆土	規 模			出土遺物	旧番号 / 備考						
				長軸	短軸	深さ							長軸	短軸	深さ								
SB-1	P1	G4		0.31	0.30	0.49		P-420	SB-6	P1	H3	B	0.40	0.30	0.14	土師	P-10						
	P2	G4		0.42	0.38	[0.17]		旧番なし		P2	H4	A	0.31	0.25	0.55	古土師・土師	P-14						
	P3	F4	B	0.44	0.40	0.59		P-288		P3	H4	B	0.37	0.26	0.53	土師	P-19						
	P4	F4	B	0.60	0.47	0.69	土師・須恵	P-326		P4	H4	B	0.29	0.29	[0.32]	土師	P-213						
	P5	E4		0.66	0.57	[0.67]		旧番なし		P5	H4	B	0.28	0.27	0.48	土師	P-222						
	P6	E3		1.25	0.61	0.24	古土師・土師・須恵	SK78		P6	H4		0.26	0.23	0.40		旧番なし						
	P7	F3	B	0.45	[0.44]	0.45		P-269		P7	H3	B	0.30	0.29	0.35	土師	P-41						
	P8	F3	A	0.46	0.39	0.50		P-173		P8	H3	B	0.33	0.22	0.23		P-47						
	P9	G3	B	0.95	0.76	0.96	土師・須恵・カワラケ	SK51		P1	H4	B	0.26	0.23	[0.30]	土師	P-214						
	P10	G3		0.44	[0.25]	0.11		P-297		P2	H4	B	0.40	0.28	[0.53]		P-224						
SB-2	P1	G3	B	0.52	0.42	0.41	土師・礫	P-111	P3	G4	B	0.30	0.26	[0.17]	土師	P-231							
	P2	G4	B	0.25	[0.24]	0.52	古土師・土師	P-97	P4	G4	B	0.32	0.30	[0.33]	須恵	P-434							
	P3	G4	B	0.49	0.48	0.24	土師	P-99	P1	F4	B	0.36	0.25	0.50		P-295							
	P4	G4		0.29	0.28	0.28		旧番なし	P2	F4	B	0.32	0.28	0.38		P-537							
	P5	G3	B	0.51	0.39	0.34		P-127	P3	F4		0.26	0.25	0.33	土師・須恵	P-668							
	P6	G3	B	0.46	0.44	0.50	土師・須恵	P-103	P4	E4		0.25	0.25	0.29		P-669							
SB-3	P1	G3		0.35	0.25	[0.14]		旧番なし	P5	E4		0.31	0.29	0.30		P-598							
	P2	G3		0.27	0.25	0.59		P-325	P6	E4	B	0.53	0.36	0.63		P-346							
	P3	G3	B	0.40	0.36	0.15	土師	P-121	P1	E4	B	0.27	0.26	0.37		P-343							
	P4	G3	A	0.42	0.35	0.44	土師	P-82	P2	E4	B	0.41	0.35	0.69		P-674							
	P5	G3		0.41	0.35	0.28	土師	P-85	P3	D4	A	0.49	0.37	0.69	土師・須恵	P-408							
	P6	H3	B	0.29	0.28	0.22	土師	P-40	P4	D4	B	0.44	0.42	0.55		P-413							
SB-4	P1	G2	A	0.38	0.27	0.39	土師・須恵・灰釉	P-71	P5	D3	B	0.36	0.34	0.39	土師	P-385							
	P2	G2	B	0.31	0.24	0.30		P-133	P6	D3		0.36	[0.29]	0.53	土師	P-555							
	P3	F2	B	0.34	0.34	0.26		P-150	P7	E3	A	0.42	0.36	[0.43]		P-373							
	P4	F2		0.31	[0.19]	0.10		旧番なし	P8	E3	B	0.57	0.41	0.47	土師・須恵	P-331							
SB-5	P1	H4	B	0.35	0.30	[0.18]		P-218	P1	E3		1.37	0.59	0.77	土師・須恵	SK60							
	P2	H5		0.42	0.38	[0.22]	土師	P-557	P2	D3		0.75	[0.73]	0.48	カワラケ一括?	SK44の一部							
	P3	G5		0.39	0.28	[0.34]		P-260	P3	D3	B	0.63	0.47	0.39		P-446							
	P4	G4	B	0.33	0.27	[0.48]	土師	P-228	P4	D2		0.67	0.55	0.47		P-683							
凡例は、第 7～11 表ビット一覧表を参照。								SB-10								P5	D2		0.35	0.31	0.51		P-366
																P6	E2	B	0.81	0.66	[0.54]	土師・須恵	SK71

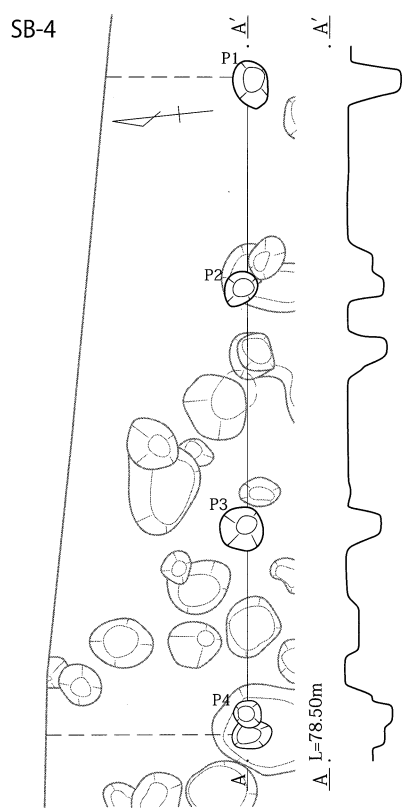


第13图 SB-1 平面·断面图

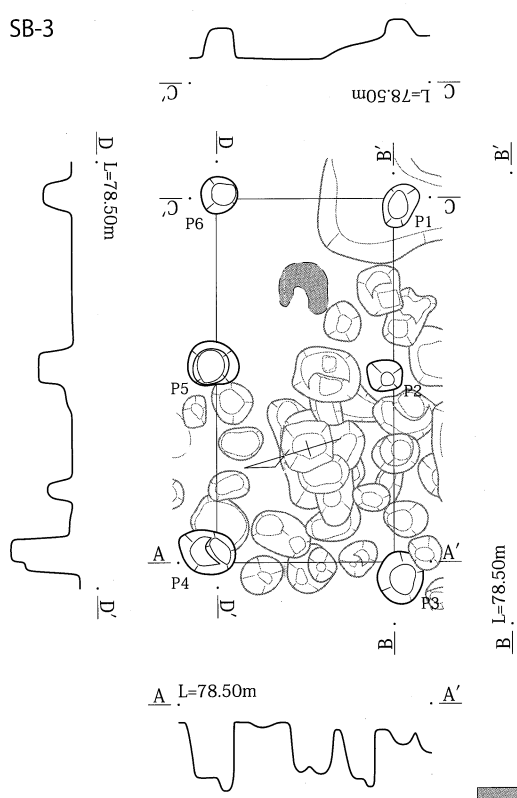
SB-2



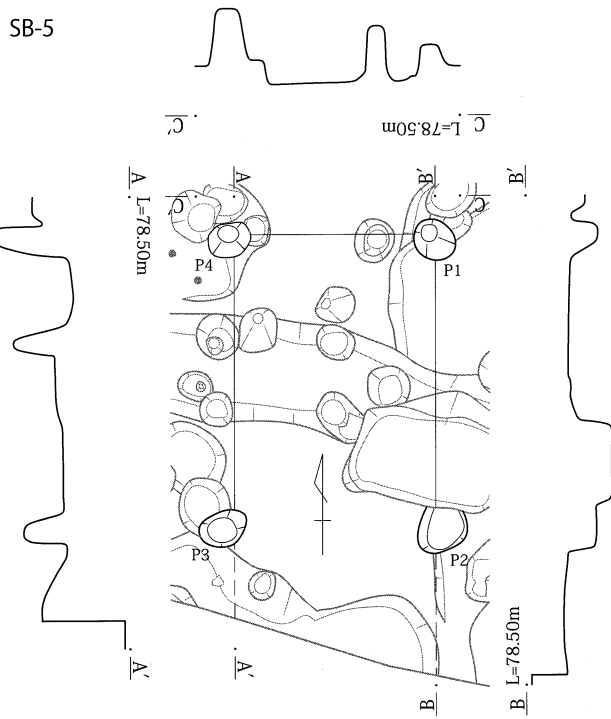
SB-4



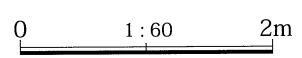
SB-3



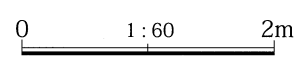
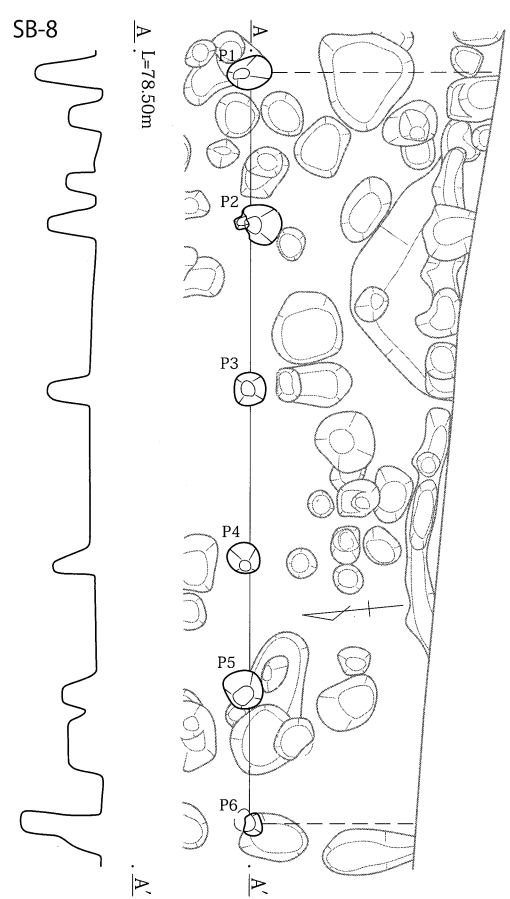
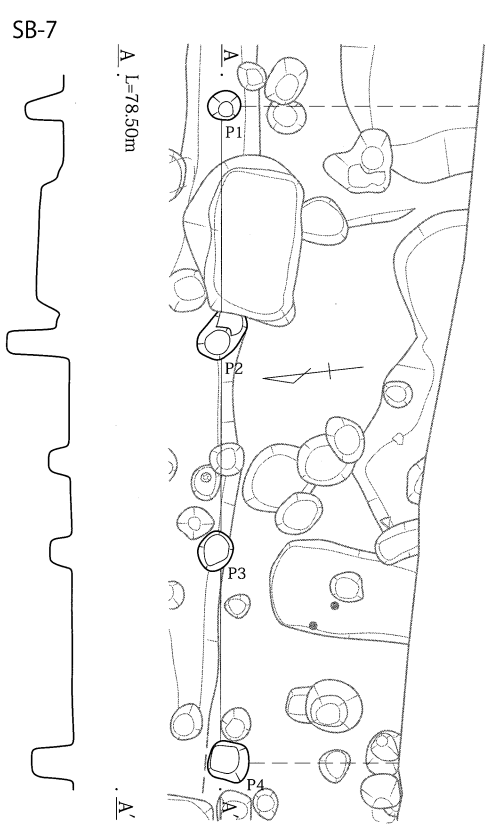
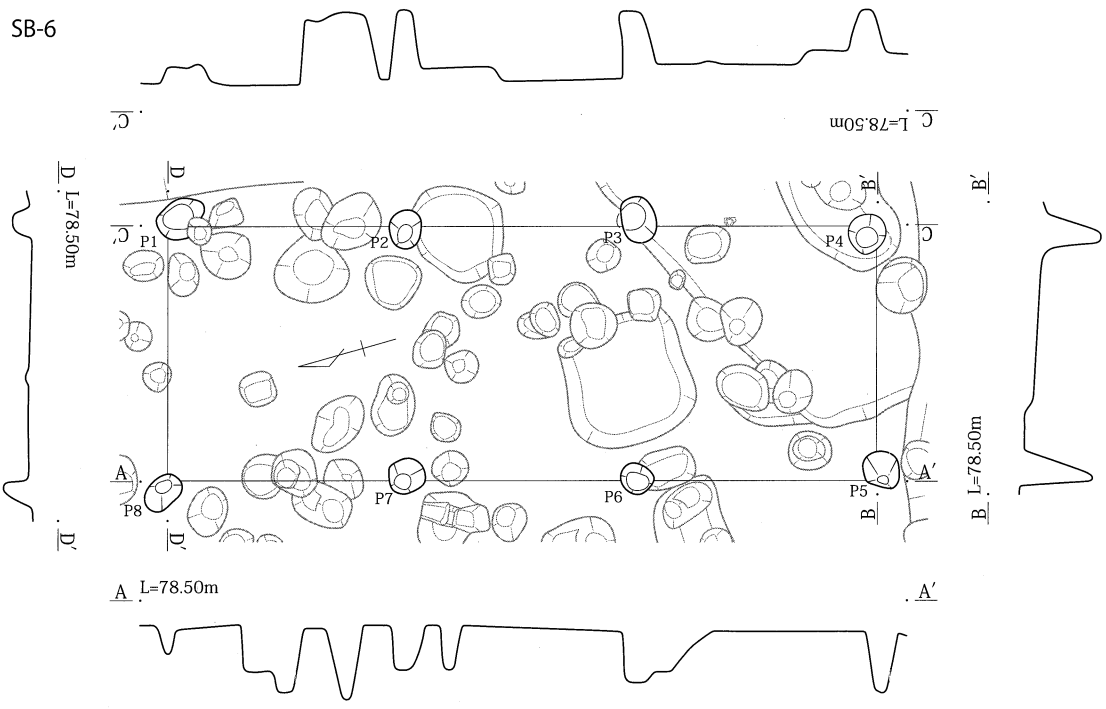
SB-5



烧土分布(1号烧土)

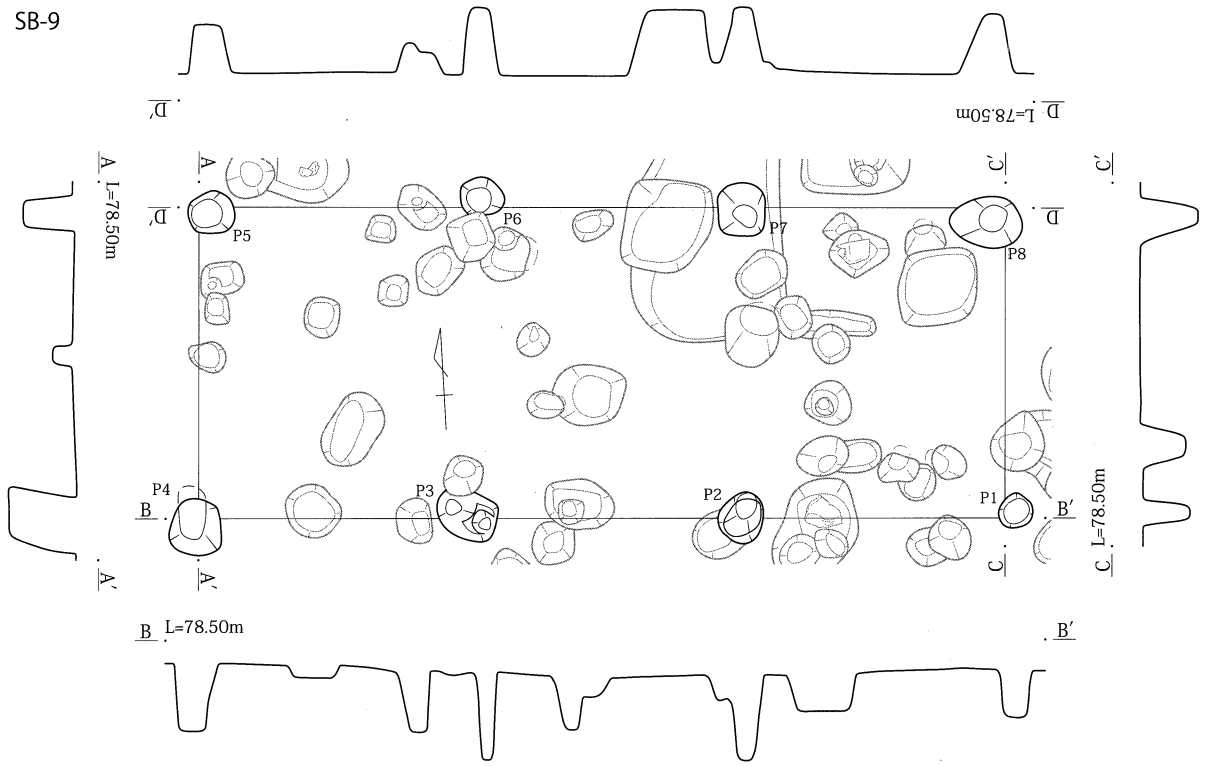


第14图 SB-2·3·4·5平面·断面图

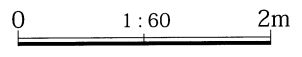
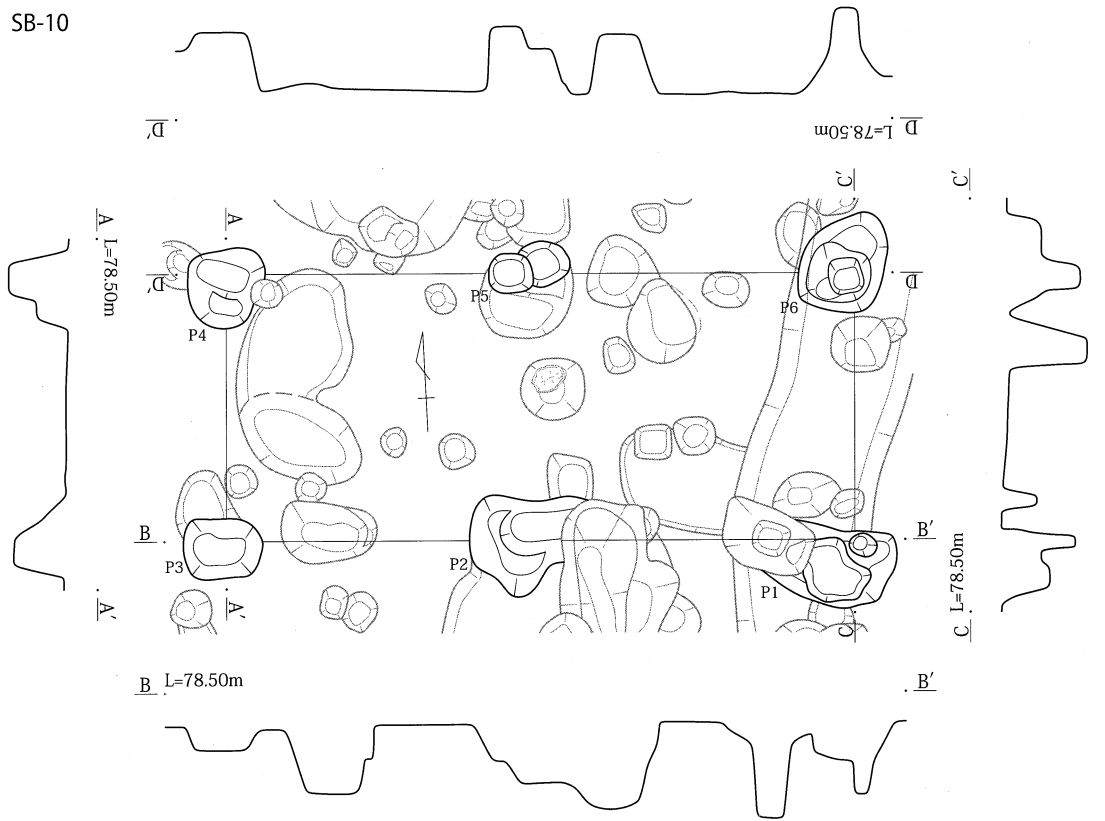


第15图 SB-6·7·8平面·断面图

SB-9



SB-10



第16图 SB-9·10平面·断面图

(3) 土 坑 (第 17～22 図)

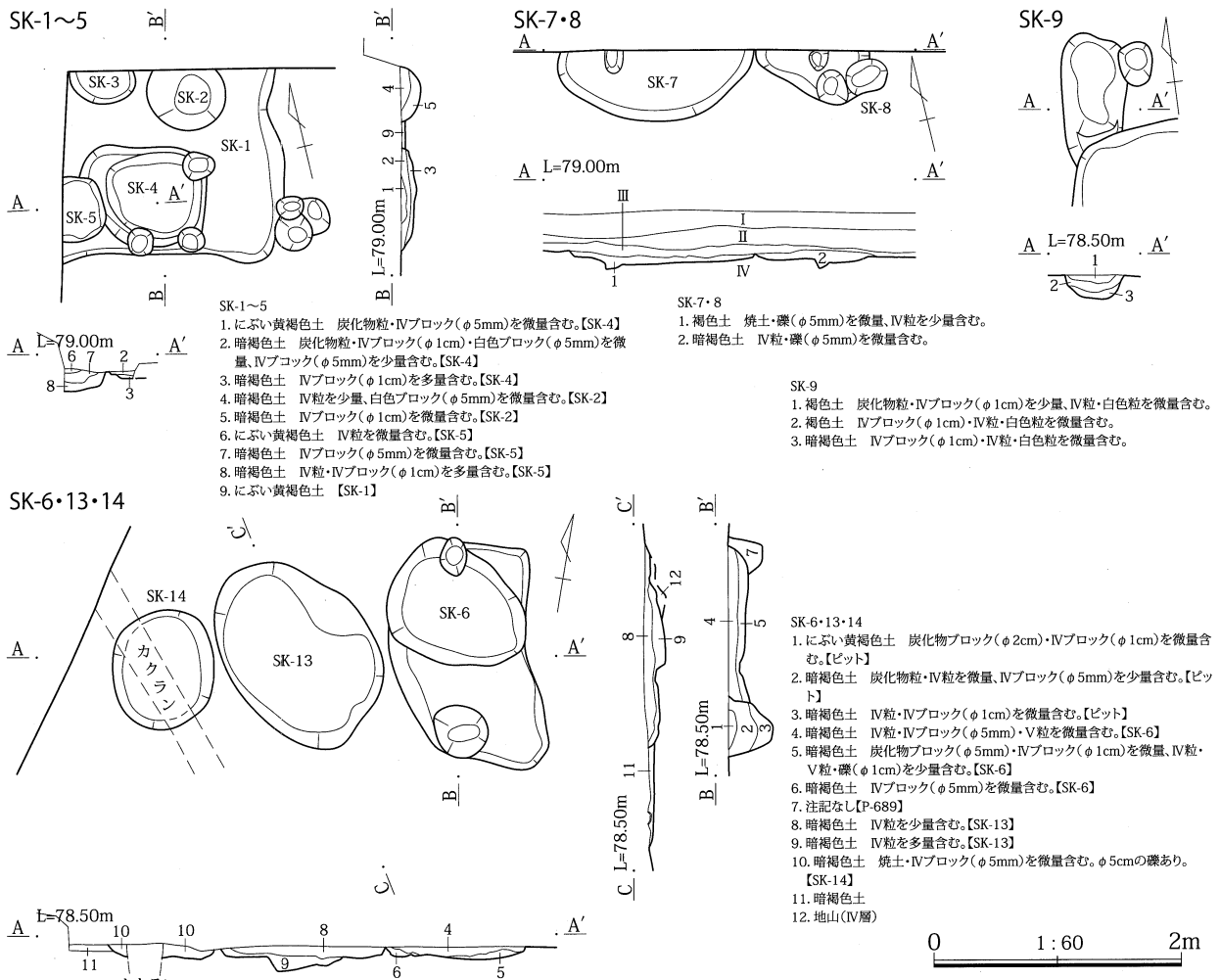
今回の発掘調査で確認された土坑は 101 基である。小規模な掘り込みは柱穴に相当すると考えられ、一部には掘立柱建物の柱穴として抽出したものがある。検出した土坑は調査区全域に分布し、ほぼすべての土坑が他遺構と重複する。重複関係の不明確さ、および別時代の遺物の流れ込みなどから、時期判断は難しい。ここでは帰属時期を判断した一部の土坑について、その根拠と特徴を略述することとし、各土坑の規模・出土遺物などの情報は第 5・6 表にまとめた。また、本文中のカッコ付き番号は、掲載遺物番号と対応する。

古墳時代の土坑 SK-12・31・40・44・75 の 5 基である。前期の帰属として SK-75 が考えられる。古式土師器の小型甕 (No. 16・17) やミニチュア土器 (No. 18・19) が複数出土している。ここからは時期不明の土師器片も出土しているが、重複ピットの遺物が混入したと考えた。小型の土坑であり、性格は不明である。SK-12・31・40・44 は中～後期の帰属と考えられる。SK-12 は 6 世紀代の土師器破片が多く出土した。高坏 (No. 24) の他、模倣坏の極小破片が含まれる。このことから後期の遺構と判断したが、ロクロ使用酸化焰焼成の土器や平安時代の須恵器、内耳鍋や陶器 (近世?) などの小破片も出土しており、中世以降の遺構が重複していた可能性がある。SK-31 は重複関係のない小型円形の土坑で、覆土上層から 5 世紀代の土師器甕 (No. 31) が出土している。また SK-40 も小型円形の土坑であり、覆土上層から 6 世紀代の土師器甕 (No. 32) が出土している。これらの 2 基は竪穴住居跡の内部施設、例えば貯蔵穴の可能性もあろう。SK-44 は調査段階では方形土坑と考えたが、北側の深い部分は、整理作業時に掘立柱建物跡 SB-10 の柱穴と判断した。SK-44 自体は 5 世紀代の土師器甕 (No. 27) や、非掲載ではあるが、土師器甕が出土しており、中期の遺構と考えられる。

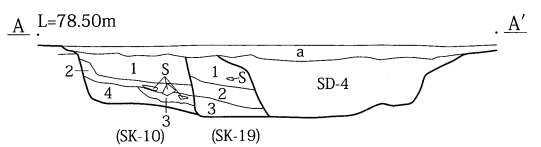
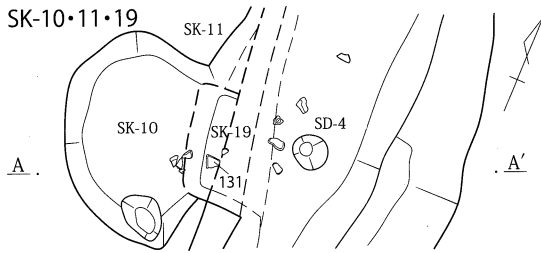
平安時代の土坑 SK-10・45・62・93 の 4 基である。いずれも出土遺物から判断した。SK-10 では平安時代と思われる須恵器片が出土している。SK-45 では灰釉陶器 (No. 65) が出土し、7 世紀後半と思われる土師器坏 (No. 64) も出土した。SK-62 は隅丸長方形を呈し、底面付近から内面黒色処理の埴 (No. 69) と須恵器の埴 (No. 70) が出土しており、9・10 世紀代の遺構と考えた。SK-93 は須恵器埴 (No. 76) の出土から 9 世紀以降の帰属が考えられる。

中世の土坑 SK-18・19・22・23・24・29・30・52・63・64・70・86・97・98・99 の 15 基である。SK-18 は隅丸長方形を呈し、底面から古銭 (元祐通宝・No. 144) が出土したことから、土壌墓の可能性が考えられる。SK-19 の土層断面観察では、SK-10 より新しく、SD-4 より古い状況を確認している。出土遺物により、SK-10 は平安時代の帰属が考えられ、SD-4 は中世の溝と考えられる。SD-4 出土内耳鍋 (No. 86) に、SK-19 覆土出土として取り上げた破片が接合したこともあり、SK-19 を中世の遺構としてとらえた。ただし、SK-19 出土とした内耳鍋破片は、本来的には SD-4 に帰属する可能性がある。つまり、平面的には同時に掘り下げを行った状況で、覆土出土遺物として取りまとめる際の混合の可能性が否定できない。いずれにせよ平安時代より新しい遺構とすることはできる。SK-22 の覆土は水平堆積で地山粒を全体に含んでおり、人為埋土の可能性が考えられる。土層断面では SK-23 より新しいことを確認しており、SK-23 からは古銭 (永楽通宝・No. 145) が出土していることから、中世以降の帰属と考えられる。SK-24 の平面形態は規模の大きい不正楕円形で、底面は中央に向かって非常に緩やかに傾斜し、大小複数の掘り込みがみられる。遺構の性格は不明であるが、カワラケ、内耳鍋 (No. 103)、常滑焼小破片 (No. 125) などが出土しており、中世の遺構であると考えられる。SK-29 は小型の楕円形を呈し、カワラケの破片が出土した。SK-30 も同様の形態で、こちらもカワラケ (No. 115) が出土している。SK-52 は南側が調査区外になり、全容は不明である。隅丸長方形を呈すると思われ、内耳鍋や白磁 (No. 123) が出土している。SK-63・64 は重複状態にある。SK-63 は隅丸長方形を呈し、深さは 67cm である。土層断面から SK-64 よりも新しいことがわかる。覆土中層から穀物臼 (No. 135)・茶臼 (No. 137・138)・磨石 (No. 133) のほか、多数の自然石が出土した。壁際にある物の方が高い位置にあることから、これらは埋没途中の投げ込みと考えられる。また、焼土は確認できないものの、下層からは炭化物が集中する箇所が見られた。このことから、本来の使用目的は不明であるが、廃絶後の埋没過程で火を使った可能性があり、壊れた石製品などが投棄されたと考えられる。

出土遺物のから中世の帰属と判断した。SK-64 は北側が調査区外のため全容不明であるが、隅丸方形と思われる。SK-63 より深く 70cm を測る。底面はほぼ平坦である。覆土最下層には骨粉状の白色物質が含まれ、中層では、その上下層と比べて地山ブロックが多い特徴がある。調査当初は SK-63・64 部分をまとめて SK-63 として認識しており、そのため本来的には SK-64 に帰属する内耳鍋 (No. 87) を「SK-63・No. 1」と記録して取り上げていた。しかし出土位置の記録により、この内耳鍋が SK-64 に帰属することは明確であり、中世の遺構と考えた。SK-70 は小型の楕円形を呈し、内耳鍋 (No. 97) の破片が出土している。SK-86 は隅丸長方形を呈する。覆土下層は黒褐色の土が堆積している。南北方向は両壁側から流れ込んだ様相を呈し、北側の方が厚く堆積している。東西方向は中央部が厚く堆積し波状を呈する。堆積状況や覆土の様子から自然堆積と考えられる。一方、中～上層は暗褐色土が主体で、層ごとに多寡が見られるが、地山ブロックが多く含まれている。この堆積状況から、中～上層は人為的な埋め土と考えられる。板碑 (No. 139～142) や穀物臼 (No. 136)、内耳鍋やすり鉢 (No. 105) などが出土した。上層出土の近世染付らしき小破片 (No. 121) は、重複遺構からの混入であろうか。SK-97・98 は重複し、土層断面から SK-97 が新しいと確認できた。すり鉢 (No. 108) の破片が出土している。SK-99 は隅丸長方形を呈し、長軸方向が SK-86 とほぼ同じである。堆積状況も似ており、相互に関連する可能性がある。覆土には、ほぼすべての層に地山ブロックが多く含まれていることから、人為的に埋めたと考えられる。廃絶後の埋め戻しと考えられ、堆積状況にみる埋め戻し順序は、南側・北側・南側からの順であるとみられる。ここでは内耳鍋 (No. 99) の破片が出土しており、中世に帰属すると判断した。



第17図 SK-1～9・13・14平面・断面図

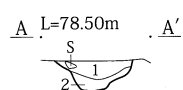
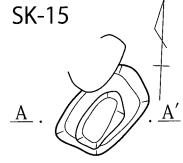
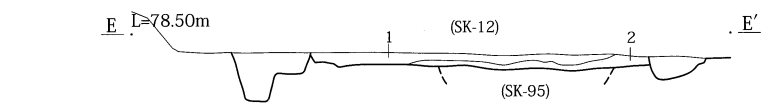
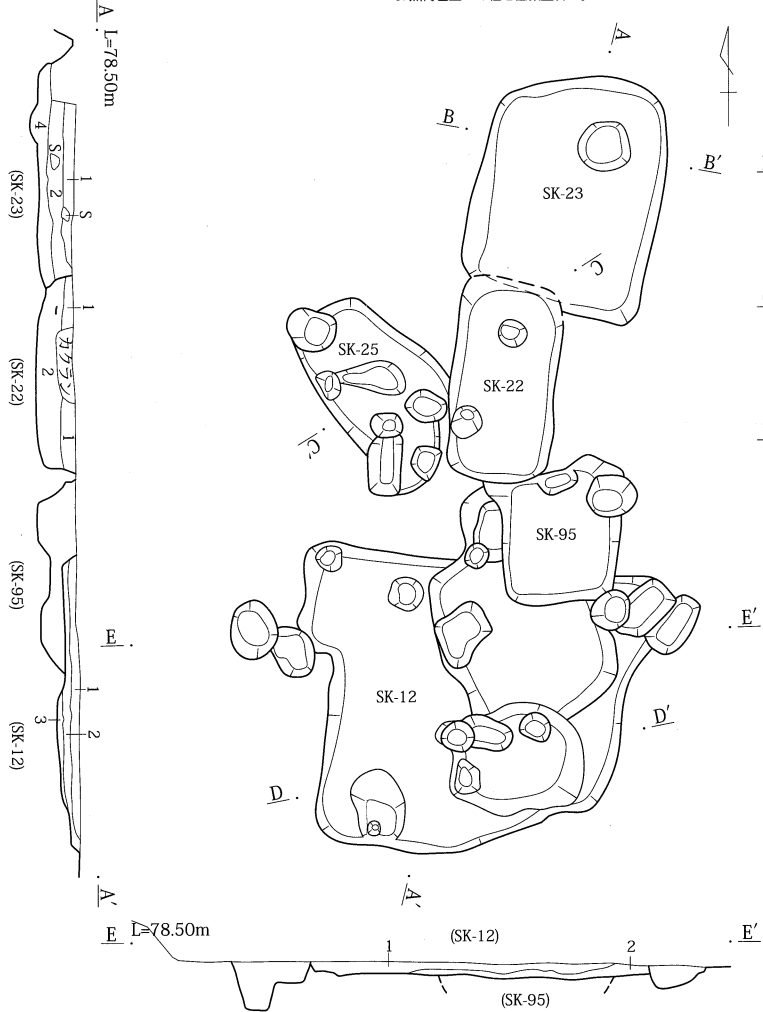


- SK-10
a. 暗褐色土 SK-10・19・SD-4を覆う。
1. 暗褐色土 炭化物ブロック(φ5mm)・焼土粒・IV粒を微量含む。
2. 暗褐色土 V粒を少量、拳大の礫を微量含む。
3. 暗褐色土 礫(φ7cm)を微量含む。
4. 暗褐色土 炭化物粒・V粒を微量含む。

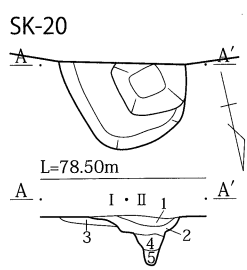
- SK-19
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 1層よりわずかに粘性あり。
3. 注記漏れ

- SK-18
1. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒を微量含む。
2. 褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ5mm)・IV粒を微量含む。
3. にぶい黄褐色土 IV粒を大量、白色粒を微量含む。

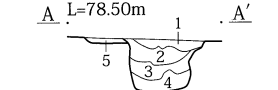
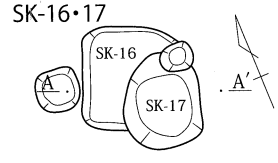
SK-12・22・23・25・95



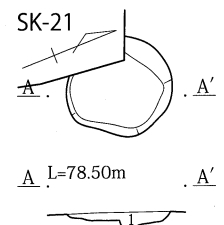
- SK-15
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 1層よりやや粘性あり



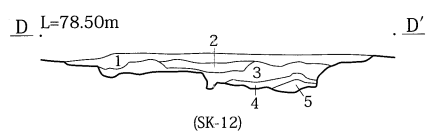
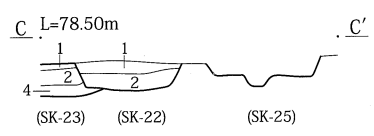
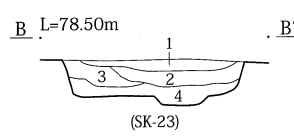
- SK-20
1. 暗褐色土 炭化物粒・焼土・IV粒を微量含む。
2. 暗褐色土 焼土粒・IVブロック(φ5mm)を微量、IV粒を少量含む。
3. 暗褐色土 IVブロック(φ1cm)を微量、IV粒を少量含む。
4. 暗褐色土 IV粒を微量含む。
5. 黒褐色土 IV粒を極微量含む。



- SK-16・17
1. 暗褐色土 焼土・IVブロック(φ1cm)・白色粒を微量含む。【SK-17】
2. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ3cm)・白色粒を微量、IV粒を多量含む。【SK-17】
3. 暗褐色土 IVブロック(φ5mm)・白色粒を微量、IV粒を少量含む。【SK-17】
4. 暗褐色土 IV粒を多量、白色粒を微量含む。【SK-17】
5. にぶい黄褐色土 IV粒を微量含む。【SK-16】



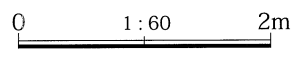
- SK-21
1. 暗褐色土 炭化物ブロック(φ5mm)・炭化物粒・IV粒・V粒を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。



- SK-12
1. 暗褐色土 炭化物粒・礫(φ3cm)を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒・焼土を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。
3. 褐色土 砂質、IV粒・礫(φ5cm)を微量、V粒を多量含む。
4. 褐色土 砂質、IV粒を少量含む。
5. 明褐色土 砂質、IV粒を多量含む。

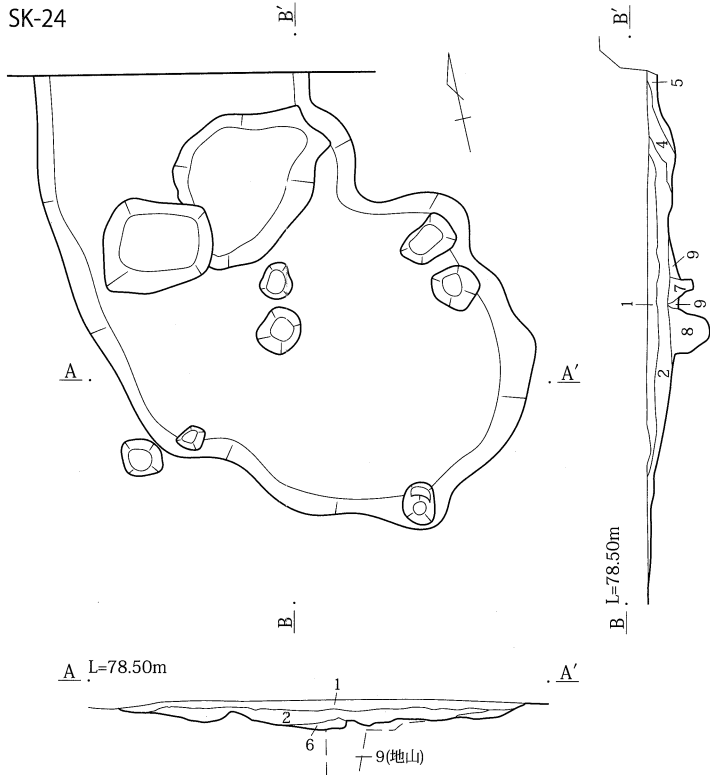
- SK-22
1. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ3cm)を微量、IV粒をまんべんなく少量含む。
2. 暗褐色土 IVブロック(φ3cm)・IV粒を多量含む、IV粒はまんべんなく含まれる。礫(φ3~5cm)を微量含む。

- SK-23
1. にぶい黄褐色土 焼土・IVブロック(φ3cm)・IV粒を微量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒を微量、IVブロック(φ3cm)を少量含む。礫はφ3cmを微量含むほか、拳大の大きさもある。
3. 暗褐色土 炭化物粒・礫を微量、IVブロックはφ3cmを多量、φ5cmを微量含む、IV粒は少量。
4. 暗褐色土 炭化物粒を微量、IVブロック(φ3cm)・IV粒を多量含む。



第18図 SK-10~12・15~23・25・95平面・断面図

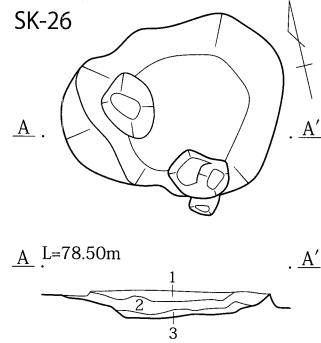
SK-24



SK-24

1. 暗褐色土 IV粒を微量、礫(φ1cm)を少量含む。炭化物ブロック(φ5mm)あり。
2. 暗褐色土 焼土・礫(φ3cm)を微量、IV粒を少量含む。
3. 暗褐色土 IV粒を多量含む。
4. 暗褐色土 焼土・IV粒・IVブロック(φ1cm)を微量含む。
5. 暗褐色土 焼土を微量、IV粒を少量含む。
6. 暗褐色土 IV粒・IVブロック(φ1cm)を微量含む。
7. 暗褐色土 炭化物粒を微量、IV粒を少量含む。
8. 暗褐色土 IVブロック(φ1cm)・IV粒・礫(φ1cm)を微量含む。
9. にぶい黄褐色土 砂質。φ3mmの礫を含む。【地山】

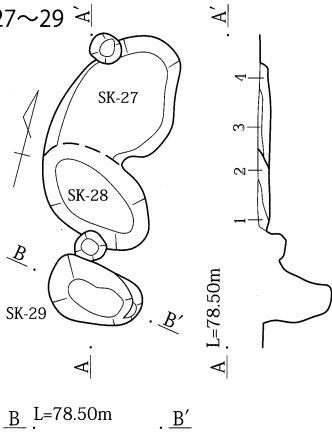
SK-26



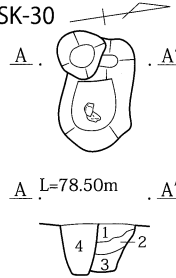
SK-26

1. 暗褐色土 焼土・IVブロック(φ1cm)を微量、Vブロック(φ5mm)を少量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒を微量、Vブロック(φ1cm)を少量含む。
3. 暗褐色土 炭化物粒を微量、V粒を少量含む。

SK-27~29



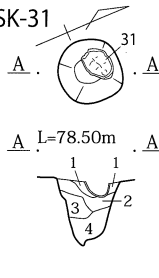
SK-30



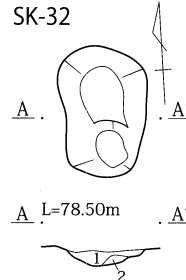
SK-30

1. 暗褐色土 炭化物粒・焼土を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。
2. 暗褐色土 IVブロック(φ5mm)・Vブロック(φ5mm)を微量含む。
3. 黒褐色土 炭化物粒・IV粒・V粒を微量含む。
4. 注記なし【P-384】

SK-31



SK-32



SK-31

1. 暗褐色土 焼土・IV粒を微量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒・焼土・IV粒・Vブロック(φ1cm)を微量含む。
3. 黒褐色土 炭化物粒・焼土を微量、IVブロック(φ5mm)を極微量含む。
4. 黒褐色土 IV粒・礫(φ1cm)を微量、IVブロック(φ5mm)・最大φ3cm)を少量含む。

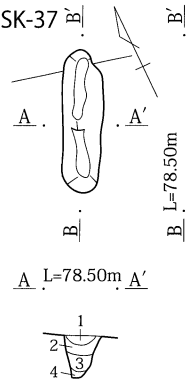
SK-32

1. 暗褐色土 炭化物粒を微量、IV粒・IVブロック(φ1cm)を少量含む。
2. 暗褐色土 IV粒・IVブロック(φ1cm)を多量含む。

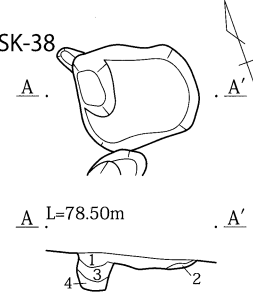
SK-33

1. 暗褐色土 炭化物粒を微量、IV粒を少量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒を微量、IVブロック(φ1cm)を少量含む。
3. 暗褐色土 IVブロック(φ1cm)・Vブロック(φ1cm)を少量含む。
4. 褐色土 IV粒・V粒を少量含む。
5. 褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ5mm)を微量、V粒を多量含む。

SK-37



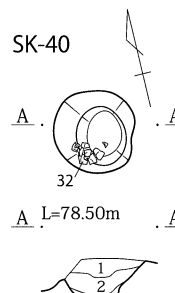
SK-38



SK-38

1. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ1cm)を微量、IV粒を少量含む。
2. 褐色土 IV粒を多量含む。
3. 暗褐色土 IVブロック(φ5mm)を微量含む。
4. 黒褐色土 V粒を少量含む。

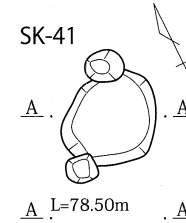
SK-40



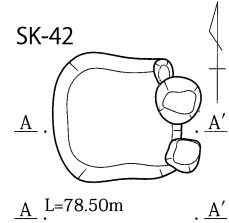
SK-40

1. 暗褐色土 IVブロック(φ5mm)を微量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒・IVブロック(φ3cm)・V粒を微量含む。
3. 暗褐色土 V粒を微量含む。

SK-41



SK-42



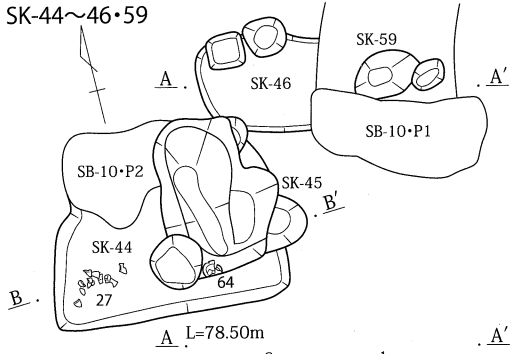
SK-37

1. 暗褐色土 焼土・IVブロック(φ5mm)を微量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒を微量、IV粒を少量含む。
3. 黒褐色土 IV粒を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。
4. 暗褐色土 V粒を多量含む。

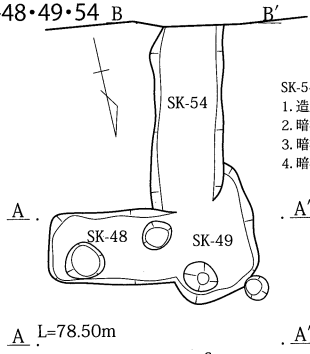
第19図 SK-24・26~33・37・38・40~42平面・断面図

0 1:60 2m

SK-44~46・59



SK-48・49・54



SK-54

1. 造成土・旧表土
2. 暗褐色土 地山ブロック(φ5mm~1cm)をやや多量含む。
3. 暗褐色土 地山ブロック(φ1cm以下)を少量含む。小礫を含む。
4. 暗褐色土 [P-640]

SK-48・49

1. SD-7覆土
2. 暗褐色土 地山ブロック(φ1cm程度)をやや多量、自然礫を少量含む。【SK-49】
3. 暗褐色土 地山粒を少量含む。【SK-49】
4. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm~1cm)をやや多量含む。【SK-48】
5. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm主体)を多量含む。【SK-48】
6. 黒褐色土 地山粒を少量含む。【SK-48】
7. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)をやや多量含む。【重複遺構か】

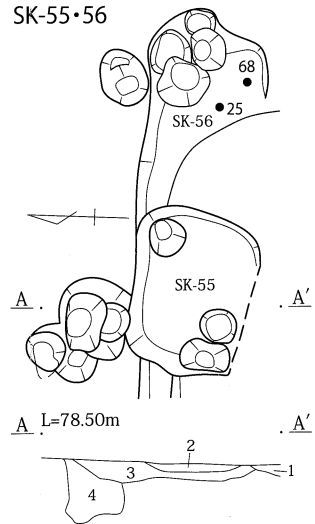
B L=78.50m



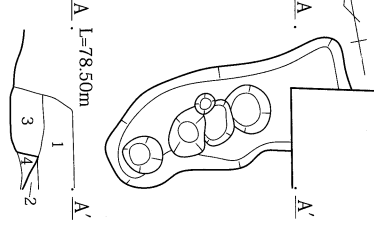
SK-44~46・59-60

1. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ1cm)・IV粒を微量含む。【SD-6】
2. 注記漏れ【SK-46】
3. 暗褐色土 焼土を微量含む、IV粒の凝集ブロック(φ10cm)を微量、V粒の凝集ブロック(φ10cm)を少量含む。【SK-59】

SK-55・56



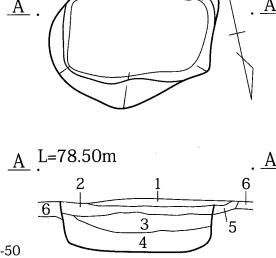
SK-47



SK-47

1. 造成土・旧表土
2. 灰黄褐色土 砂質。As-B混土?。地山粒・小礫を少量含む。【SD-7】
3. 褐色土(やや灰色味あり) 焼土粒・白色粒・地山粒を少量含む。As-Bの含有は不明瞭。【SK-47】
4. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・地山粒を少量含む。濁白色粒(As-C?)を微量含む。【SI-2】

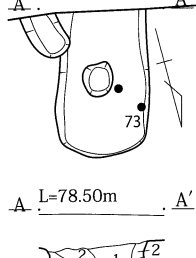
SK-50



SK-50

1. SD-7覆土
2. 暗褐色土 地山ブロック(φ5mm~1cm)をやや多量含む。
3. 暗褐色土 地山ブロック(φ5mm~2cm)を多量含む。
4. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm~2cm)を多量含む。3層よりも多い。
5. 暗褐色土(やや明るめ) 地山ブロック(φ5mm)を少量含む。【重複ピットか】

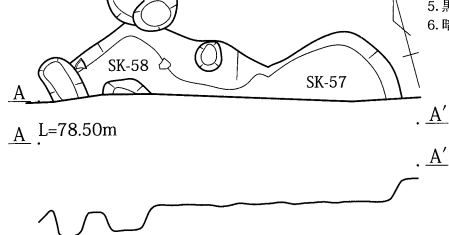
SK-52



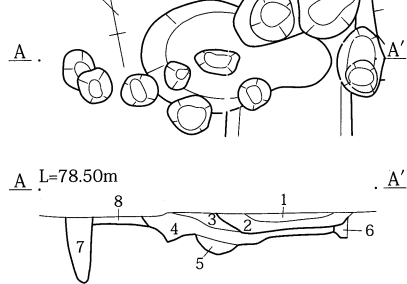
SK-52

1. SD-7覆土。
2. 暗褐色土(灰色気味) 地山粒・焼土粒を含む。【SK-56】
3. 暗褐色土(明るめ) 地山粒・焼土粒・白色粒をやや多量含む。【SK-55】
4. 黒褐色土 地山ブロック(φ5mm)を多量、焼土ブロック(φ5mm)を少量含む。【P-419】

SK-57・58



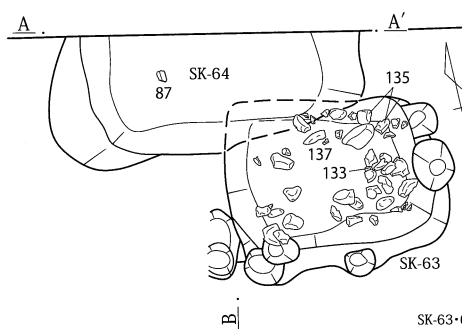
SK-61



SK-61

1. 暗褐色土 炭化物粒を少量、焼土・IVブロック(φ5mm)を微量含む。【SD-6】
2. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ1cm)・IV粒を微量含む。【SD-6】
3. 暗褐色土 焼土・IVブロック(φ5mm)・IV粒を微量含む。【SK-61】
4. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒・V粒を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。【SK-61】
5. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒を微量、V粒を多量含む。【SK-61】
6. 重複ピットの一部【P-696】
7. 重複ピット【P-392】
8. 暗褐色土

SK-63・64



A L=79.00m

SK-63・64

1. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒・礫(φ1cm)を微量含む。【SK-64】
2. 暗褐色土 焼土・Vブロック(φ3cm)を微量、炭化物粒・IV粒・V粒を少量含む。【SK-64】
3. 暗褐色土 炭化物粒・焼土を微量、IVブロック(φ3cm)・IV粒を少量、V粒を多量、拳大の礫を微量含む。【SK-64】
4. 暗褐色土 焼土ブロック(φ5mm)・IVブロック(φ5mm)・Vブロック(φ5mm)・礫(φ3cm・拳大)を微量含む。【SK-64】
5. 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒・焼土ブロック(φ5mm)・IV粒・IVブロック(φ5mm)・V粒・Vブロック(φ5mm)を微量含む。【SK-64】

6. 暗褐色土 炭化物粒・焼土を微量、V粒を多量含む。【SK-64】

7. 暗褐色土 炭化物粒・V粒・拳大の礫を微量、IVブロック(φ5mm)を多量含む。その他に骨粉状の物質が多く含まれていた。【SK-64】

8. 暗褐色土 炭化物ブロック(φ5mm)・焼土・IVブロック(φ1cm)を微量、IV粒を少量含む。【SK-63】

9. 暗褐色土 炭化物ブロック(φ1cm微量・φ5mm少量)、焼土・IVブロック(φ5mm)を微量含む。【SK-63】

10. 暗褐色土 炭化物ブロック(φ5mm)・焼土・IV粒・Vブロック(φ3cm)を微量、V粒を少量含む。【SK-63】

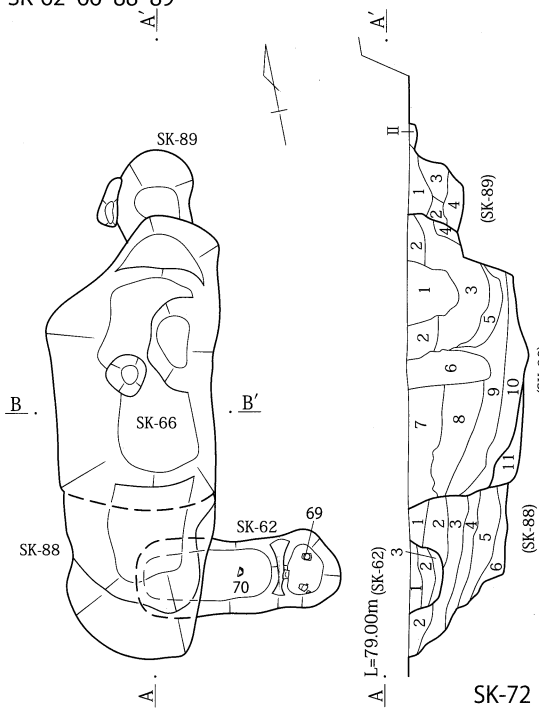
11. 重複ピットの一部【P-696】

12. 暗褐色土

0 1:60 2m

第20図 SK-44~50・52~59・61・63・64平面・断面図

SK-62・66・88・89



SK-62

1. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ5mm)・礫(φ1cm)を微量含む。
2. 暗褐色土 焼土ブロック(φ5mm)・IV粒を微量含む。
3. 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒・IV粒を微量含む。

SK-66

1. 暗褐色土 焼土粒・IV粒・拳大の礫を微量、黒褐色土ブロック(φ1cm)を少量含む。
2. 黒褐色土 焼土・IV粒を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。
3. 黒褐色土 IVブロック(φ1cm)・礫(φ1cm)を微量含む。
4. 暗褐色土 IV粒を多量、IVブロック(φ5mm)を微量含む。
5. 黒褐色土 IV粒・IVブロック(φ5mm)を少量、V粒を微量含む。
6. 暗褐色土 炭化物粒・焼土ブロック(φ5mm)・IV粒を微量含む。【重複ピット】
7. 暗褐色土 炭化物粒・焼土・IV粒・V粒を微量、黒褐色土ブロック(φ5cm)を少量含む。
8. 黒褐色土 炭化物粒・IV粒を微量、焼土を少量含む。
9. 黒褐色土 焼土・V粒を微量含む。
10. 黒褐色土 焼土を微量、V粒を少量含む。
11. 暗褐色土 黒褐色土粒を微量含む。

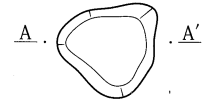
SK-88

1. 暗褐色土 焼土・IV粒を微量含む。
2. 暗褐色土 焼土・IVブロック(φ5mm)・Vブロック(φ1cm)を微量、V粒を少量含む。
3. 黒褐色土 炭化物ブロック(φ5mm)・炭化物粒・焼土ブロック(φ5mm)・IV粒・V粒を微量含む。
4. 黒褐色土 焼土ブロック(φ5mm)を微量、IV粒を少量含む。
5. 黒褐色土 炭化物ブロック(φ1cm)・焼土ブロック(φ5mm)・IV粒・Vブロック(φ3cm)を微量含む。
6. 黒褐色土 IV粒を微量、V粒を少量含む。人為堆積か？

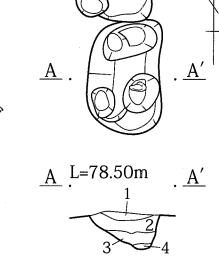
SK-89

1. 暗褐色土 炭化物粒・焼土を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。
2. 暗褐色土 IVブロック(φ5mm)を微量、Vブロック(φ1cm)を少量含む。
3. 暗褐色土 炭化物粒・焼土・V粒を微量含む。
4. 暗褐色土 IV粒を微量、V粒を多量含む。

SK-67



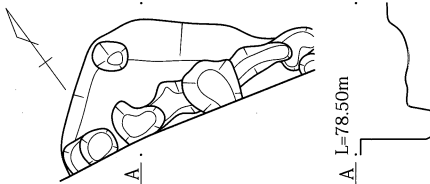
SK-70



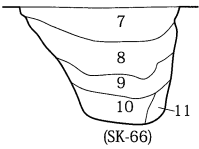
SK-70

1. 褐色土 焼土・IV粒を微量含む。
2. 暗褐色土 炭化物粒・Vブロック(φ1cm・3cm)を微量、IVブロック(φ5mm)を少量含む。
3. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ1cm)・V粒を微量含む。
4. 暗褐色土 IV粒を微量、V粒を多量含む。

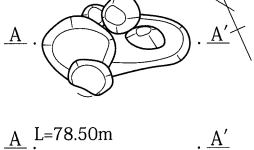
SK-72



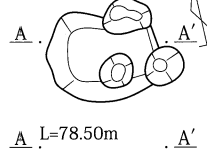
B L=79.00m



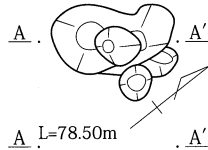
SK-74



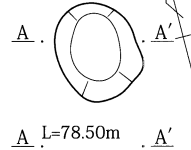
SK-75



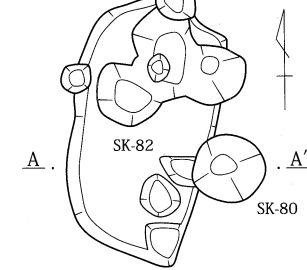
SK-76



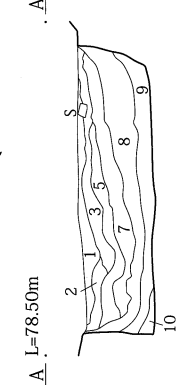
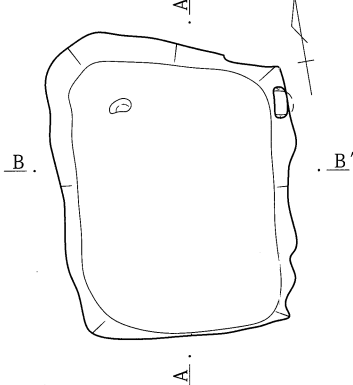
SK-77



SK-80・82



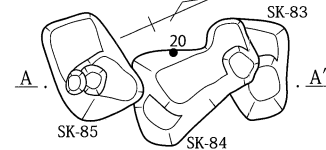
SK-86



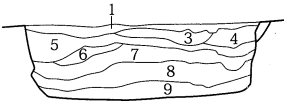
SK-86

1. 暗褐色土(灰色味あり) IVブロック(1cm)を斑状に少量、VI粒を多量含む。
2. 暗褐色土(白色味強い) IVブロック(φ1cm)を少量、VIブロック(φ1~3cm)を大量含む。
3. 暗褐色土(白色味強い) 炭化物ブロック(φ1cm)を微量、IVブロック(φ1cm)を少量、VI粒~VIブロック(φ1cm)を大量含む。
4. 暗褐色土(白色味やや強い) VIブロックを含み、φ5cmが少量、φ5mmが多量、φ5cmの礫あり。
5. 暗褐色土(灰色味強い) IV粒を微量、IVブロック(φ3cm)を少量、VI粒~VIブロック(φ1cm)を多量含む。
6. 暗褐色土(白色味強い) IV粒を微量、VI粒を大量含む。
7. 黒褐色土(灰色味強い) IVブロック(φ3cm)・IV粒・VI粒を微量、VIブロック(φ3~5cm)を多量含む。
8. 黒褐色砂質土 IVブロック(φ3cm・φ5mm)・VIブロック(φ5mm)・礫(φ1cm)を微量含む。
9. 黒褐色シルト質砂 IVブロック(φ1cm)・VIブロック(φ1cm)・礫(φ1cm)を微量含む。
10. 黒褐色シルト質砂(白色味強い) VI粒を大量含む。

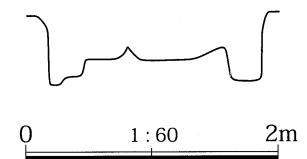
SK-83~85



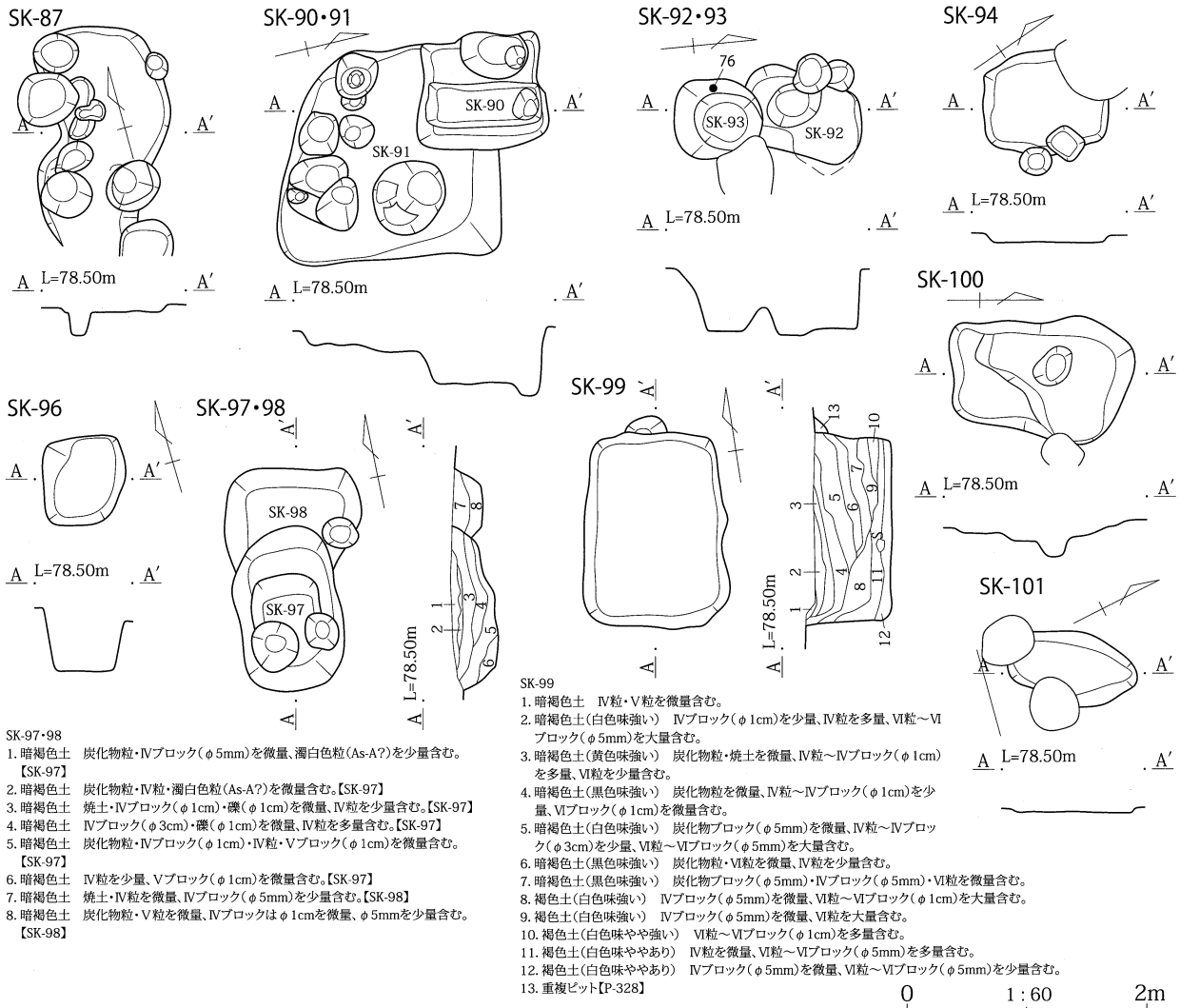
B L=78.50m



A L=78.50m



第21図 SK-62・66・67・70・72・74~77・80・82~86・88・89平面・断面図



第22図 SK-87・90～94・96～101平面・断面図

第5表 土坑一覧表(1)

番号	位置	平面形態	規模			重複関係	出土遺物	時期	備考
			長軸	短軸	深さ				
SK-1	B1	方形か	[1.75]	[1.54]	0.02	SK-2・4・5より古い	土師・土師質・灰釉		
SK-2	B1	円形か	0.64	[0.50]	[0.17]	SK-1より新しい			
SK-3	B1	円形か	0.53	[0.28]	[0.11]	重複あり・新旧不明			
SK-4	B1	不整形	1.03	0.81	[0.10]	SK-1より新しい	土師		
SK-5	B1	隅丸方形か	0.53	[0.34]	[0.20]	SK-1より新しい			
SK-6	B2	不整形	1.78	1.11	0.15	P-689より古い	古土師・土師・須恵・土師質・碁石		
SK-7	B1	楕円形か	1.56	[0.58]	0.08	重複なし			
SK-8	C1	不整形	0.92	[0.44]	0.20	重複なし			
SK-9	C2	不整隅丸長方形	[0.93]	0.50	0.23	重複あり・新旧不明			
SK-10	B3	不整楕円形	1.74	[1.03]	0.49	SK-19より古い	古土師・土師・須恵	平安か	
SK-11	B2	不明	[1.17]	[0.31]	0.52	重複あり・新旧不明	古土師・土師・須恵・内耳		SD-4と同一遺構か
SK-12	C3	不整形	2.33	2.31	0.17	P-485・439より古く、SK-95より新しい	古土師・土師・須恵・土師質・内耳・陶器	古墳後期・中世	近世陶器
SK-13	B2	不整楕円形	1.56	1.17	0.10	重複なし	古土師・土師・須恵		
SK-14	B2	楕円形	0.92	0.82	0.08	重複なし	土師		
SK-15	D3	不整隅丸長方形	0.77	0.50	0.24	重複あり・新旧不明	古土師・土師・須恵		
SK-16	C2	隅丸方形	0.82	0.77	0.08	SK-17より古い			
SK-17	C2	不整楕円形	0.76	0.61	0.40	SK-16より新しい	土師		
SK-18	B2	不整隅丸方形	1.01	0.78	0.11	重複なし	古土師・土師・陶器・古銭	中世	
SK-19	B3	方形か	[0.69]	<0.89>	0.54	SK-10より新しく、SD-4より古い	古土師・土師・須恵・内耳・刃研ぎ石	中世か	
SK-20	C3	不整形円形か	1.00	[0.69]	0.36	重複なし	土師・須恵		個別遺構図非掲載
SK-21	C3	不整形円形	0.83	0.78	0.14	重複なし			
SK-22	C3	長方形	<1.61>	0.83	0.24	SK-23より新しい	土師・須恵・土師質	中世以降か	
SK-23	C3	不整長方形	1.89	1.43	0.27	SK-22より古い	古土師・土師・須恵・土師質・古銭	中世	
SK-24	C2	不整形	[4.74]	2.74	0.22	重複あり・新旧不明	古土師・土師・須恵・土師質・内耳・カワラケ・陶器	中世	
SK-25	C3	不整形	1.44	0.90	0.21	重複あり・新旧不明			
SK-26	D2	不整形	1.72	1.44	0.24	重複あり・新旧不明	土師		
SK-27	D3	不整形	[1.03]	0.85	0.13	SK-28より古い			
SK-28	D3	不整楕円形	1.05	0.63	0.08	SK-27より新しい	土師		

第6表 土坑一覧表(2)

番号	位置	平面形態	規模			重複関係	出土遺物	時期	備考
			長軸	短軸	高さ				
SK-29	D3	不整楕円形	0.75	0.47	0.55	重複あり・新旧不明	弥生・古土師・土師・カワラケ	中世	
SK-30	D3	不整隅丸長方形	0.91	0.54	0.35	P-384より古い	土師・須恵・カワラケ	中世	
SK-31	D3	円形	0.51	0.51	0.53	重複なし	土師	古墳中期	
SK-32	D2	不整隅丸長方形	1.03	0.63	0.17	重複なし	土師		
SK-33	D2	不整長方形	1.09	0.87	0.40	重複なし	土師		
SK-34	I3	円形	0.47	0.43	0.42	SD-2より新しい	土師		個別遺構図非掲載
SK-35	I3	不整円形か	0.62	(0.42)	0.54	重複あり・新旧不明	古土師・土師		個別遺構図非掲載
SK-36	H3	不整形	0.76	0.62	(0.33)	SD-3より古い	古土師・土師		個別遺構図非掲載
SK-37	I4	不整楕円形	1.13	0.31	0.35	重複なし	古土師・土師・須恵		
SK-38	H3	不整形	0.96	0.81	0.15	重複あり・新旧不明	土師		
SK-39	H3	不整円形	0.32	0.30	0.68	重複あり・新旧不明	土師・須恵		個別遺構図非掲載
SK-40	G4	不整円形	0.65	0.64	0.79	重複あり・新旧不明	古土師・土師・須恵	古墳後期か	
SK-41	H4	不整形	0.78	0.69	0.12	重複あり・新旧不明	土師・須恵		
SK-42	H4	隅丸長方形	1.02	0.97	0.05	重複あり・新旧不明			
SK-43	H3	不整円形	0.50	0.43	0.73	重複なし			個別遺構図非掲載
SK-44	D3	不整形	1.88	1.50	0.06	重複あり・新旧不明	土師・カワラケ・内耳・陶器	古墳～中世	一部をSB-10・P2に変更
SK-45	D3	不整円形	0.43	0.42	(0.43)	重複あり・新旧不明	土師・須恵・灰釉・内黒	平安か	
SK-46	D3	不整形	(0.97)	0.77	0.07	SD-6より古い			
SK-47	H4	不整形	2.01	0.85	(0.11)	SI-2より新しい	土師・須恵・灰釉		
SK-48	G4	長方形	(1.00)	0.58	(0.11)	SK-49・SD-7より古い			
SK-49	G4	隅丸長方形	<1.02>	0.70	(0.10)	SK-48より新しく、SD-7より古い	土師・須恵・内黒		
SK-50	H4	長方形	1.20	0.72	(0.34)	SD-7より古く、SI-3より新しい	土師・須恵		
SK-51									SB-1・P9に変更
SK-52	G5	隅丸長方形	(1.15)	0.73	(0.22)	P-553より新しい	土師・須恵・内耳・磁器	中世	
SK-53	F3	不整形	1.04	0.94	0.14	重複あり・新旧不明	土師・須恵		個別遺構図非掲載
SK-54	G4	長方形	(1.47)	0.56	0.17	SK-49より古い	土師・土師質		
SK-55	G4	不整長方形	1.29	1.00	0.16	SK-56・SD-7より古く、P419より新しい			
SK-56	G4	長方形か	(3.52)	0.93	0.17	SK-55より新しい	土師・土師質		
SK-57	H5	不整形	(1.08)	(0.54)	(0.17)	重複あり・新旧不明	土師		
SK-58	G5	不整形	(1.57)	(0.56)	(0.20)	重複あり・新旧不明	須恵・羽釜		
SK-59	E3	不整楕円形	0.55	0.36	(0.55)	SD-6より古い			
SK-60									SB-10・P1に変更
SK-61	E2	楕円形か	0.90	(0.79)	0.03	SD-6より古い	土師・石製模造品		
SK-62	E3	不整隅丸長方形	<1.61>	0.58	0.27	SK-88より新しい	土師・須恵・灰釉・土師質・内黒	平安	
SK-63	E2	隅丸長方形	1.73	1.26	0.67	SK-64・P-696より新しい	古土師・土師・須恵・内耳・カワラケ・穀白・茶白・磨石	中世	
SK-64	E2	隅丸長方形か	2.19	(0.95)	0.70	SK-63より古い	土師・須恵・不明鉄製品・内耳	中世	
SK-65	E2	不整楕円形	(0.55)	0.49	0.56	重複あり・新旧不明	土師・須恵		個別遺構図非掲載
SK-66	E2	不整形	2.33	1.25	0.85	SK-88・89より新しい	土師・須恵		
SK-67	F4	不整形	0.77	0.73	0.16	重複あり・新旧不明	土師・須恵		
SK-68	F3	不整形	0.93	0.73	0.75	SK-69より新しい	古土師・土師・須恵		個別遺構図非掲載
SK-69	F3	不整形	1.16	0.66	0.75	SK-68より古い	古土師・土師・須恵		個別遺構図非掲載
SK-70	H4	不整楕円形	0.92	0.62	0.24	重複あり・新旧不明	土師・須恵・灰釉・内耳	中世	
SK-71									SB-10・P6に変更
SK-72	F4	不整形	(1.73)	(0.94)	0.16	重複あり・新旧不明	土師・須恵		
SK-73	F4	不整円形	0.49	0.45	0.61	重複あり・新旧不明			個別遺構図非掲載
SK-74	E4	不整形	1.17	0.42	0.12	重複あり・新旧不明	土師		
SK-75	F3	不整隅丸長方形	0.89	0.69	0.26	重複あり・新旧不明	古土師・ミニチュア土器・土師	古墳前期か	
SK-76	F3	不整形	0.98	0.56	0.68	重複あり・新旧不明	土師・須恵・土師質・磨石		個別遺構図非掲載
SK-77	F3	不整楕円形	0.78	0.64	0.41	重複あり・新旧不明	土師・須恵・土師質		
SK-78									SB-1・P6に変更
SK-79	E3	不整楕円形	0.78	0.54	0.56	重複あり・新旧不明	土師・須恵		個別遺構図非掲載
SK-80	E3	円形	0.56	0.54	0.83	重複あり・新旧不明			
SK-81	E3	不整円形	0.55	(0.52)	0.73	重複あり・新旧不明	土師		個別遺構図非掲載
SK-82	E3	不整形	2.02	1.12	0.16	重複あり・新旧不明	土師・砥石		
SK-83	E3	不整形	0.78	0.44	0.53	重複あり・新旧不明			
SK-84	E3	不整形	0.99	0.60	0.32	重複あり・新旧不明	土師		
SK-85	E3	不整隅丸長方形	0.85	0.61	0.09	重複あり・新旧不明	古土師・土師・須恵		
SK-86	F3	不整長方形	2.33	1.79	0.54	P-177より新しい	古土師・土師・須恵・内耳・すり鉢・陶器・板碑・穀白	中世	陶器は近世染付か
SK-87	F3	不整形	(1.84)	0.93	0.11	重複あり・新旧不明	土師・須恵		
SK-88	E3	不整形	(1.18)	1.17	0.76	SK-62・66より古い	土師		
SK-89	E2	不整形	0.70	(0.68)	0.42	SK-66より古い			
SK-90	E3	不整長方形	1.10	0.89	0.47	重複あり・新旧不明	土師・須恵・土師質	平安か	
SK-91	E4	不整長方形	1.80	1.78	0.19	重複あり・新旧不明	古土師・土師・須恵・土師質・羽釜		
SK-92	F4	不整隅丸長方形	1.02	0.67	0.39	重複あり・新旧不明	土師・須恵・磨石?		
SK-93	F4	不整楕円形	0.74	0.66	0.52	重複あり・新旧不明	土師・須恵・灰釉		
SK-94	C3	長方形	1.05	0.87	0.08	重複あり・新旧不明			
SK-95	C3	不整形	1.87	1.86	0.17	SK-12・P-485・439より古い	土師・須恵		方形土坑の重複か
SK-96	D3	不整長方形	0.75	0.69	0.52	重複あり・新旧不明			
SK-97	G4	不整楕円形	1.37	0.86	0.37	SK-98より新しい	土師・須恵・すり鉢	中世	
SK-98	G4	不整形	1.13	(0.59)	0.24	SK-97より古い	土師・須恵・すり鉢	中世	
SK-99	G4	長方形	1.62	1.11	0.71	P-328より新しい	土師・須恵・内耳	中世	
SK-100	H3	不整隅丸長方形	1.52	0.92	0.17	重複あり・新旧不明			
SK-101	I4	不整楕円形	1.08	0.62	0.05	P711より新しい		近世以降	

(凡例) ●計測値の〔 〕は残存値、< >は推定値を示す。深さの計測値は遺構確認面からの計測であり、重複遺構底面などからの計測値には残存値として〔 〕を付した。●今回調査した遺構は、ほとんどがピットと重複する。そのため、重複関係欄では重複の有無を明記し、その新旧関係がわかるものは記入した。一方で、調査で確認できなかったものは「新旧不明」とした。

(4) 溝

溝は7条を検出した。SD-7以外は南北方向を指向し、中でもSD-5は部分的な検出で規模が小さい。出土遺物から帰属時期を判断すれば、中世段階がSD-1・3・4・6であり、SD-3と並ぶSD-2も同時期の可能性がある。SD-7はその覆土の特徴から近世以降の可能性があり、SD-5は不明である。

SD-1 (第23図)

位置 調査区東端、J3・J4グリッド 重複関係 なし 平面形態 直線的 走向方位 N-11°-E 規模 検出長7.7m・検出幅2.24m・深さ1.5～1.74m 所見 西壁以外は調査区外で、全長・全幅は不明。最大深度は北端部で、南端部では遺構確認面の標高が低いため、相対的に浅くなる。底面の起伏は弱く、全体的な勾配はやや南下がり。西壁は底面から約44°の傾斜で、中位には短い傾斜段がある。東壁の立ち上がりは確認できない。

覆土の堆積に人為性は認められず、自然堆積と考えられる。上層には白色軽石が含まれ、As-Aの可能性もある。この軽石は下層には混入しない。As-Bの混入は全層で不明瞭である。流水痕跡は確認できず、底面付近にノロ状の堆積もない。調査時に湧水はなく、恒常的な通水・湛水はなかったと判断した。本書掲載の遺構写真では、本遺構に水の溜まる状況が写っているが、これは北側工事業の散水の湧出であり、本遺構と関係しない。

出土遺物 上層で近世陶磁器2点、下層で焼締陶器1点出土。全体的に古墳～平安時代の土器片が占める。

SD-2 (第23図)

位置 調査区東、I3・I4グリッド 重複関係 SK-34より古く、それ以外は不明。 平面形態 直線的 走向方位 N-9°-E 規模 検出長4.7m・幅0.9m 前後・深さ2～6cm程 所見 北側は調査区外、SI-1以南は不明。底面のピットは重複ピットか。底面の勾配はやや南下がり、流水痕跡はない。 出土遺物 土師器・灰釉陶器

SD-3 (第23図)

位置 調査区東、H3・H4・I3・I4グリッド 重複関係 SK-36より新しく、それ以外は不明。 平面形態 直線的 走向方位 N-11°-E 規模 検出長4.9m・幅2.26m・深さ7cm程 所見 北側は調査区外、南側はSI-1・2付近で不明瞭。掘り込みは浅く、東西の壁際がやや深めになる。別の溝の可能性もあるが、土層断面での切り合いはない。底面の勾配はやや南下がり、流水痕跡はない。 出土遺物 土師器・須恵器・内耳鍋・カワラケ・板碑

SD-4 (第24図)

位置 調査区西端、B2・B3グリッド 重複関係 SK-11・19より新しい。 平面形態 直線的 走向方位 N-0°-E 規模 検出長5m・幅1.76m 前後・深さ53cm程 所見 南側は調査区外、北側は途切れる。東壁の傾斜は40°前後。底面の勾配はやや南下がり、流水痕跡はない。 出土遺物 土師器・須恵器・羽釜・内耳鍋・鉄製品

SD-5 (第24図)

位置 調査区西、C4グリッド 重複関係 SI-12不明 平面形態 直線的 走向方位 N-10°-E 規模 検出長1.54m・幅0.48m・深さ10cm 前後 所見 底面の勾配はほぼ平坦で、流水痕跡は不明。 出土遺物 土師器

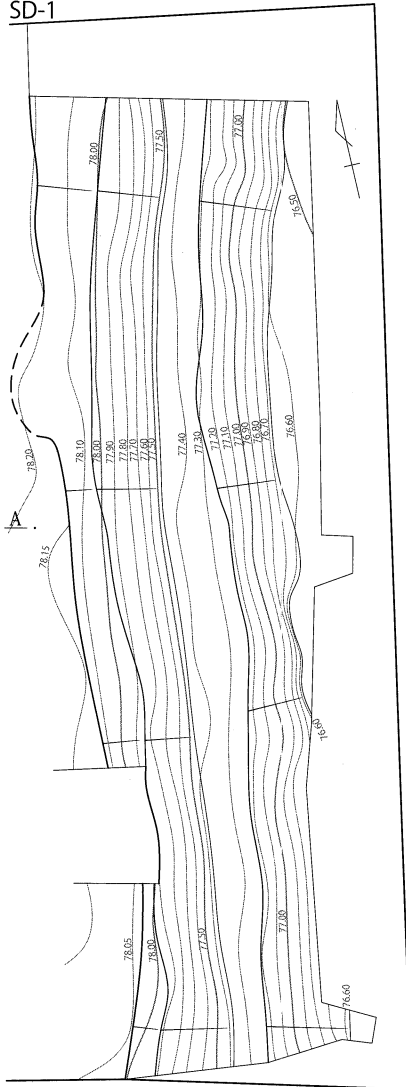
SD-6 (第24図)

位置 調査区中央、E2・E3・D3グリッド 重複関係 SK-46・59・61・71・P-432・543より新しく、それ以外は不明。 平面形態 直線的 走向方位 N-12°-E 規模 検出長7.48m・幅1.1m・深さ4～11cm 所見 北側は重複で不明、南側は途切れる。南端の深度は4cm程。SK-64土層断面には本遺構が現れず、SK-64より古い可能性あり。底面の勾配はほぼ平坦で、流水痕跡はない。 出土遺物 土師器・須恵器・灰釉陶器・内耳鍋・すり鉢・古銭

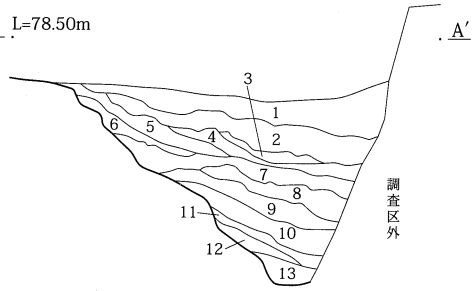
SD-7 (第24図)

位置 調査区東、H4・G4グリッド 重複関係 ピット以外の重複遺構より新しい。ピットとの新旧不明。 平面形態 直線的 走向方位 N-99°-E 規模 検出長6.1m・幅1.1m(断面)・深さ0.2m(断面) 所見 東側は調査区外、西側は浅くなり不明瞭。底面の勾配は東下がり、流水痕跡はない。 出土遺物 土師器・須恵器など

SD-1



A L=78.50m

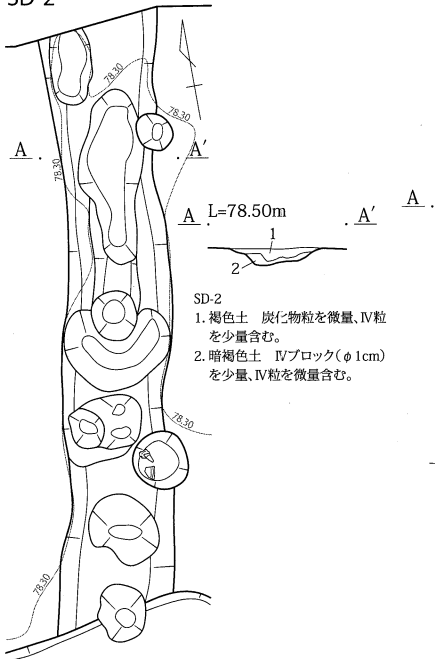


SD-1

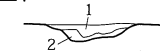
1. 暗褐色土 砂質。As-A?を微量、IV粒を微量、礫(φ3cm)を微量含む。
 2. 暗褐色土 砂質。As-A?を少量、炭化物粒を微量、IV粒・IVブロック(φ1cm)を微量、礫(φ1cm)を微量含む。
 3. 暗褐色土 砂質。炭化物ブロック(φ5mm)・IV粒を微量含む。
 4. 暗褐色土 砂質。IVブロック(φ5mm)・IV粒を少量、礫(φ5mm)を微量含む。
 5. にぶい黄褐色土 炭化物粒を微量、IVブロック(φ1~3cm)・IV粒を少量、礫(φ1cm)を微量含む。
 6. 暗褐色土 IV粒を微量、Vブロック(φ1cm)を少量含む。
 7. 褐色土 炭化物粒を微量、IVブロック(φ5mm)・IV粒を微量、Vブロック(φ1cm)・V粒を微量、礫(φ3cm)を微量含む。
 8. 褐色土 炭化物粒を微量、IVブロック(φ5mm)・Vブロック(φ5mm)を微量含む。
 9. 褐色土 IV粒・V粒を微量含む。
 10. 褐色土 IV粒・V粒・礫(φ1cm)を微量含む。
 11. にぶい黄褐色土 IV粒を微量、V粒を多量含む。
 12. 暗褐色土 IV粒を微量、V粒を少量含む。
 13. 暗褐色土 IV粒・V粒・礫(φ5cm)を微量含む。
- ※「As-A?」としたものは、白色軽石でおよそ径3~5mmの大きさである。

SD-3

SD-2

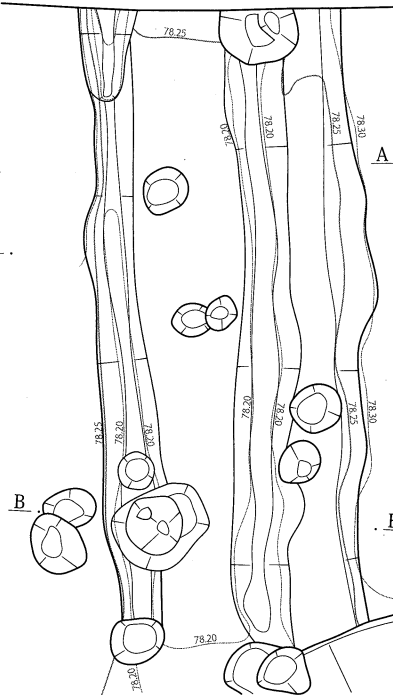


A L=78.50m

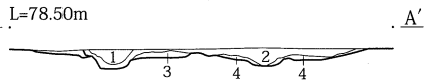


SD-2

1. 褐色土 炭化物粒を微量、IV粒を少量含む。
2. 暗褐色土 IVブロック(φ1cm)を少量、IV粒を微量含む。



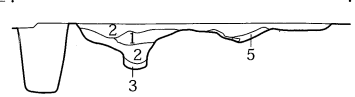
A L=78.50m



SD-3

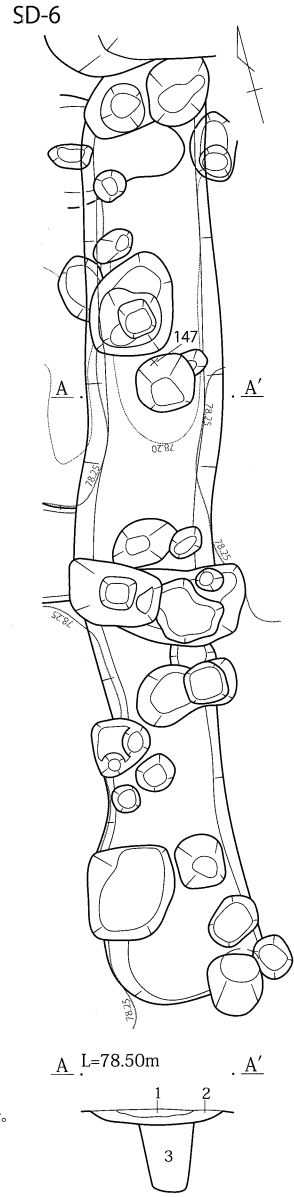
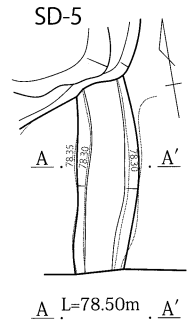
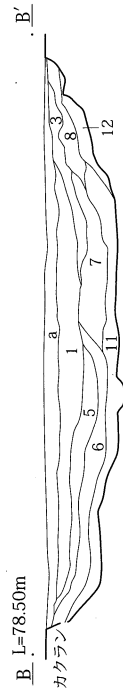
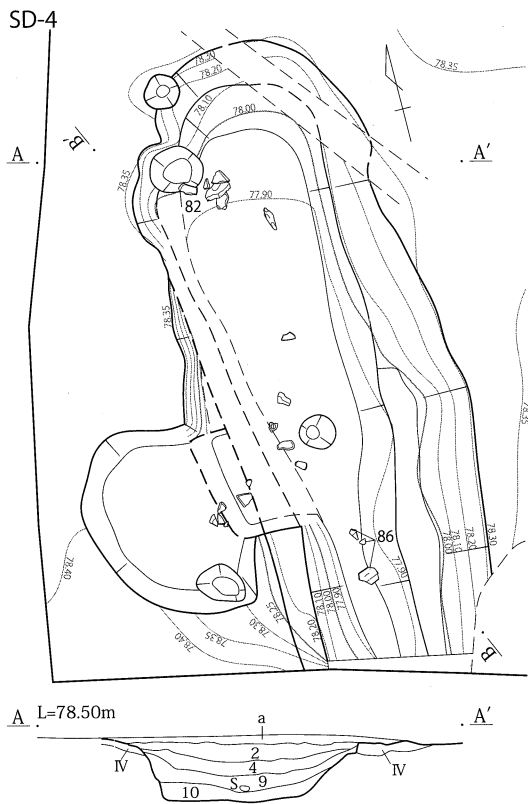
1. 暗褐色土 IV粒を少量、礫(φ1cm)を微量含む。白色粒(As-A?)を微量含む。
2. 暗褐色土 IV粒・礫(φ1cm)を微量含む。白色粒(As-A?)を少量含む。
3. 暗褐色土 IVブロック(φ1cm)を少量、IV粒を多量含む。
4. 暗褐色土 IVブロック(φ1cm)を少量、IV粒を微量含む。
5. 暗褐色土 IVブロック(φ5mm)・IV粒を微量含む。礫あり(φ3cm)。

B' B L=78.50m



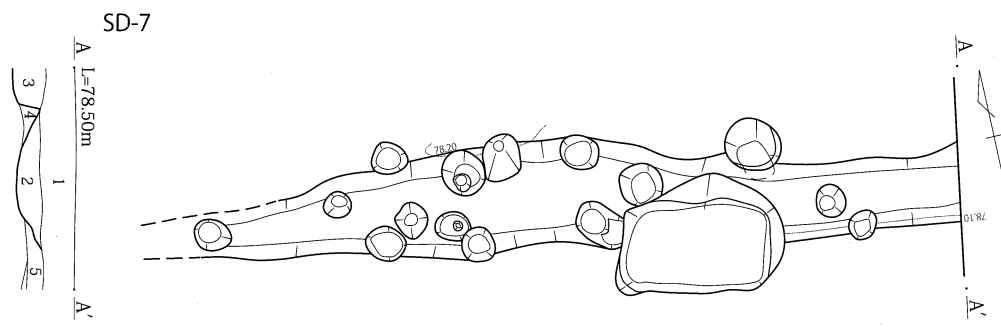
0 1:60 2m

第23図 SD-1・2・3平面・断面図

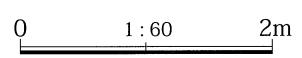


- SD-4
1. 暗褐色土 砂質。炭化物ブロック(φ5mm)・礫(φ1~3cm)を微量、IV粒を極微量含む。
 2. 暗褐色土 砂質。炭化物粒・IV粒・IVブロック(φ1cm)・礫(φ1~3cm)を微量含む。
 3. 暗褐色土 砂質。焼土・Vブロック(φ3cm)を微量、V粒を少量含む。
 4. 暗褐色土 砂質。炭化物粒・焼土・IV粒・IVブロック(φ1cm)を微量含む。
 5. 暗褐色土(やや黒色味強い) 砂質。炭化物ブロック(φ1cm)・焼土・IV粒・礫(φ3cm)を微量含む。
 6. 暗褐色土(やや黒色味強い) 砂質。炭化物粒・IV粒・IVブロック(φ1cm)を微量、炭化物ブロック(φ1cm)を少量含む。
 7. 暗褐色土(やや黄色味あり) 砂質。IV粒を微量、V粒を少量含む。拳大の礫あり。
 8. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒を微量、V粒を多量含む。
 9. 暗褐色土 焼土・IV粒・IVブロック(φ1cm)を微量含む。φ3cmの礫あり。
 10. 暗褐色土 V粒を微量、IV粒と拳大の礫を少量含む。
 11. 暗褐色土 炭化物粒・IV粒を微量、V粒・礫(φ3~5cm)を少量含む。
 12. にぶい黄褐色土 砂質。IV粒を微量含む。地山の可能性あり。掘り過ぎか?
- a. 暗褐色土 SK-10・19・SD-4を覆う層。

- SD-6
1. 暗褐色土 炭化物粒を少量、焼土・IVブロック(φ5mm)を微量含む。
 2. 暗褐色土 炭化物粒・IVブロック(φ1cm)・IV粒を微量含む。
 3. 重複ピット[P.543]



- SD-7
1. 造成土・旧表土
 2. 灰黄褐色土 砂質。As-B混?。地山土・小礫を少量含む。【SD-7】
 3. 褐色土(やや灰色味あり) 焼土粒・白色粒・地山土粒を少量含む。As-Bの含有は不明瞭。【SK-47】
 4. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・地山土粒を少量含む。濁白色粒(As-C?)を微量含む。【SI-2】
 5. 暗褐色土 地山土粒をやや多量、焼土粒・白色粒を微量含む。【SI-3覆土】



第24図 SD-4・5・6・7 平面・断面図

(5) ピット

検出したピット数は非常に多く、遺構番号を与えたものは712基を数える。番号未付与のピットを含めれば、総数はそれ以上になる。また、IV章で述べたように、土坑・ピットの遺構名称設定に明確な基準は設けておらず、土坑とした中にもピットと呼称した方が妥当な小穴が含まれている。これらのピットは柱穴であったと想定する。

平面形態は円形気味が多く、中には方形ピットも存在する。深度は一定せず、極めて浅いものから、P-271のように1mを越えるものがある。覆土観察は遺構確認面で行い、色調から3分類した。すなわち褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。基本土層II層に近似する覆土もあったが、P-704～708のみであり、攪乱と判断した。断面観察を行ったピットもあるが、これらに柱痕は確認されなかった。調査では覆土混入のテフラに留意したが、良好な所見を得られない。特にAs-B混入の有無には意識的な肉眼観察を行ったが、明確に判断できず、古銭を出土したP-349でも判断がつかなかった。このことは、旧土地造成時の填圧の影響により土質の変化があったと仮定すれば、単純にAs-Bを認識できなかった可能性がある。

出土遺物は古墳～平安時代の土器破片が主体である。他に、少量の中世遺物を出土したピットも存在する。古代の遺物が中世遺構に混入した可能性も考えられるため、遺物からの時期判断は慎重を要する。一方で近世以降の出土遺物が極少なことを考慮すれば、中世遺物を出土したピットは、中世段階の帰属と考えられる。そして覆土からの判断に限界性があるものの、古代の遺物しか出土しないピットも含め、検出したピットの大半は中世に帰属すると想定しておきたい。小破片の古代の土器片は、流れ込みと判断している。一方、調査時では黒褐色土が古代の覆土に相当するとの印象があり、中世以前のピットも少数存在すると考えられる。

調査区内でのピット分布は中央部に集中傾向があり。複数のピットが重複する事例も多い。東端部・西端部付近ではピットの分布は少ない。各ピットの詳細は、第7表にまとめた。

第7表 ピット一覧表(1)

番号	位置	覆土	規模			出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ		
P-1	I3	B	0.29	0.28	0.25	土師	
P-2	I3	C	0.40	0.36	[0.30]	土師	
P-3	I3	B	0.34	0.32	[0.31]	土師	
P-4	H3	B	0.36	0.34	0.17	土師	
P-5	I3	B	0.27	0.22	0.23		
P-6	H3	B	[0.27]	0.27	0.05		
P-7	H3	B	0.30	0.28	0.37	土師・須恵	
P-8	H3	B	0.32	0.25	0.25	土師	
P-9	H3	B	0.35	0.24	0.40		
P-10							SB-6・P1に変更
P-11	H3	B	0.39	0.38	0.21	土師・須恵	
P-12	H3	C	0.27	0.27	0.28		
P-13	H4	B	0.43	0.35	0.18		
P-14							SB-6・P2に変更
P-15	H4	A	0.43	0.43	0.08		
P-16	H4	A	0.30	0.25	0.11		
P-17	H4	A	0.26	0.25	0.22		
P-18	H4	B	0.26	0.26	0.29		
P-19							SB-6・P3に変更
P-20	I3	B	0.31	0.27	0.24	土師	
P-21	H4	A	0.23	0.23	0.28	土師	
P-22	H4	B	0.24	0.21	0.31	土師・須恵	
P-23	I4		0.25	0.25	0.17		
P-24	H3	B	0.35	0.34	0.41		
P-25	H3	B	0.36	0.33	0.22		
P-26	H3	A	0.18	0.15	0.18		
P-27	H3	A	0.25	0.22	0.11		
P-28	H3	B	0.31	[0.21]	0.22	土師	
P-29	H3	A	0.43	0.39	0.45	土師	
P-30	H3	B	0.34	[0.23]	0.23		
P-31	H3	B	0.34	0.28	0.52	土師・陶器	
P-32	H3	A	0.46	[0.23]	0.26		
P-33	H3	A	0.58	0.32	0.09		
P-34	H3	B	0.23	0.22	0.16		
P-35	H3	B	0.37	0.28	0.41		
P-36	H3	A	0.27	0.24	0.34		
P-37	H3	A	0.20	0.18	0.11		
P-38	H3	B	0.32	[0.22]	0.12		
P-39	H3	B	0.26	0.26	0.20		
P-40							SB-2・P6に変更
P-41							SB-6・P7に変更
P-42	H4	A	0.28	0.27	0.35	土師	
P-43	H3	B	0.41	0.40	0.19	土師	
P-44	H3	B	0.59	0.51	0.12		
P-45	H3	B	0.21	0.19	0.15		
P-46	H3	B	0.43	0.42	0.49		焼土粒多量含む
P-47							SB-6・P8に変更
P-48	H3	B	0.40	0.30	0.36		
P-49	H3	B	0.23	0.21	0.08	土師	
P-50	H3	C	0.23	0.21	0.07		
P-51	H3	B	0.52	0.34	0.21		
P-52	H3	C	0.48	0.33	0.37		
P-53	H4	C	0.24	0.21	0.10		
P-54	H3	B	0.31	[0.22]	0.11		
P-55	H3	A	0.54	0.46	0.45	土師	
P-56	H3	B	0.35	0.28	0.47	土師・須恵	
P-57	H4	B	0.30	0.26	0.51	土師	
P-58	H3		0.26	0.24	0.29		
P-59	H4	B	[0.35]	0.31	0.32		炭化物多量含む
P-60	H4	B	0.58	0.40	0.44	土師	
P-61	H4	C	[0.26]	[0.22]	0.18		
P-62	H4	B	0.42	0.35	0.27		
P-63	H4	B	0.34	0.31	0.44	土師・須恵	
P-64	I4		0.42	0.35	[0.42]		
P-65	H4		0.73	0.46	0.13		
P-66	H4		0.25	0.19	[0.19]		
P-67	H3	C	0.45	0.40	0.26		
P-68	G3	B	0.32	0.27	0.25	土師	
P-69	G3	B	0.41	0.40	0.30	土師・須恵	
P-70	G3	B	0.34	0.27	0.28	土師	
P-71							SB-4・P1に変更
P-72	G3	B	0.40	0.35	0.27		
P-73	G3	B	0.34	0.33	0.24		
P-74	G3	B	0.69	0.52	0.31		
P-75	G3	B	0.52	0.51	0.47	土師	
P-76	H4		0.37	0.29	0.29		
P-77	G3	B	0.30	0.30	0.37	土師	
P-78	G3	A	0.28	[0.23]	0.31	土師	
P-79	G3	C	0.60	0.41	0.35		
P-80	G3	B	0.18	0.16	0.17		

第8表 ピット一覧表(2)

番号	位置	覆土	規模			出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ		
P-81	G3	A	0.25	0.23	0.40		
P-82							SB-2・P4に変更
P-83	G3	A	0.46	[0.31]	0.04	土師	
P-84	G3	B	0.25	0.19	0.35		
P-85							SB-2・P5に変更
P-86	G3	B	0.35	0.30	0.26		
P-87	G3	A	0.33	0.22	0.23		
P-88	G3	B	0.49	0.32	0.08	土師	
P-89	H3		0.21	0.19	0.12		
P-90	G3	A	0.31	0.29	0.27	土師・須恵	
P-91	G3	A	0.46	0.28	0.45		
P-92	G3	B	0.47	0.46	0.35	土師	
P-93	H3		0.26	0.21	0.14		
P-94	G4	B	0.37	0.26	0.54	土師	
P-95	G4	C	0.57	0.55	0.16	土師	
P-96	G4	B	0.29	0.21	0.42		
P-97							SB-2・P2に変更
P-98	G4	B	0.46	0.36	0.34	土師	
P-99							SB-2・P3に変更
P-100	G3	A	0.38	0.32	0.37	土師・須恵	
P-101	G3	B	0.29	0.26	0.14		
P-102	G3	B	0.41	0.39	0.41		
P-103							SB-2・P6に変更
P-104	G3	B	0.39	0.37	0.46		
P-105	H4		0.27	[0.16]	0.09		
P-106	H3	B	0.32	0.29	0.36	古土師・土師・内黒	礫出土
P-107	H3		0.36	0.33	0.36		礫出土
P-108	G3	B	0.62	0.56	0.58	古土師・土師	
P-109	H3		0.36	0.35	0.09		
P-110	H3		0.26	[0.15]	0.10		
P-111							SB-2・P1に変更
P-112	G3	B	0.40	0.38	0.71	土師・須恵	
P-113	G3	B	0.40	0.28	0.60		
P-114	G3	B	0.45	0.40	0.35	土師・須恵・土師質	
P-115	G3	B	0.38	0.31	0.42		
P-116	G3	A	0.30	[0.27]	0.29		
P-117	G3	B	0.29	0.22	0.21		
P-118	G3	B	0.21	[0.15]	0.14	土師	
P-119	G3	B	0.35	0.29	0.21		
P-120	G3	A	0.31	0.25	0.39		
P-121							SB-3・P3に変更
P-122	G3	B	0.38	[0.34]	0.20	内耳	
P-123	G3	A	0.49	0.31	0.40	土師・須恵	
P-124	G3	A	0.60	0.36	0.33		
P-125	G3	A	0.45	0.36	0.33	内耳	
P-126	G3	B	0.25	0.23	0.09	土師・須恵・カワラケ	
P-127							SB-2・P5に変更
P-128	G3	A	0.38	0.23	0.59		
P-129	G4	A	0.42	[0.21]	0.08	土師	
P-130	H3	B	0.55	0.53	0.37	土師・灰釉	
P-131	H3	B	0.41	0.31	0.51	土師・灰釉	
P-132	H3	B	0.49	0.40	0.52	土師	
P-133							SB-4・P2に変更
P-134	G2	A	0.36	0.26	0.30		
P-135	G2	A	0.49	0.40	0.04		
P-136	G3	B	0.65	0.54	0.11		
P-137	G3	A	0.54	0.33	0.09		
P-138	G2	A	0.36	0.34	0.31		
P-139	H4		0.30	[0.21]	0.14		
P-140	H4		0.28	0.22	0.02		
P-141	H4		0.21	0.11	不明		
P-142	F2	B	0.50	0.40	0.12	土師	
P-143	G3		0.23	[0.08]	0.12		
P-144	F2	A	0.36	0.30	0.3		
P-145	F2	C	0.71	0.58	0.66	土師・陶器・鉄製品	
P-146	F2	B	0.27	0.25	0.18		
P-147	F2	B	0.52	0.39	0.1		
P-148	F2	A	0.40	0.37	0.56	弥生	
P-149	F2	A	0.32	0.23	0.17		
P-150							SB-4・P3に変更
P-151	F2	A	0.46	0.41	0.08		
P-152	G3		0.56	0.38	0.62		
P-153	F2	B	0.99	0.74	0.14	土師	
P-154	F2	A	0.32	0.19	0.17	土師	
P-155	F2	A	0.46	0.30	0.18	土師	
P-156	F2	B	0.34	0.34	0.20		
P-157	F3	B	0.33	[0.26]	0.03		
P-158	F3	B	0.31	0.26	0.15	土師	
P-159	F3	B	0.44	0.35	0.10		
P-160	G3		0.38	0.14	0.55		
P-161	F3	B	0.36	0.34	0.24		
P-162	F3	B	0.53	0.35	0.28		
P-163	G3		0.18	[0.14]	0.25		
P-164	F3	B	0.65	0.55	0.65	土師	
P-165	F3	B	0.30	0.21	0.24		
P-166	F3	A	0.37	0.25	0.07	土師	
P-167	F3	A	0.58	0.33	0.30	土師	
P-168	G3		0.15	0.14	0.29		
P-169	G3	C	0.42	0.32	0.24		
P-170	G3	B	0.24	0.24	0.34	土師	
P-171	F3	B	0.40	0.35	0.41	土師	
P-172	F3	B	0.23	0.21	0.13		
P-173							SB-1・P8に変更
P-174	F3	A	0.24	0.21	0.26	土師・内耳	
P-175	F3	B	0.36	[0.22]	0.28		
P-176	F3	C	[0.28]	[0.20]	—		
P-177	F3	B	0.27	[0.20]	0.16	土師・灰釉?	
P-178	G3		0.29	[0.20]	[0.18]		
P-179	G3		0.82	0.75	0.09		
P-180	H3	B	0.37	0.35	0.53	土師	
P-181	H3	B	0.34	0.29	0.60	土師	
P-182	H3	B	0.49	0.31	0.41	土師	
P-183	F3	B	0.36	0.32	0.31		
P-184	F3	B	0.37	0.33	[0.24]	土師・須恵	
P-185	F3	A	0.25	0.21	0.25	土師・灰釉	
P-186	F3	B	0.53	0.40	0.49	鉄製品	
P-187	H4		0.31	0.28	[0.23]		
P-188	H4		0.35	0.30	[0.21]		
P-189	H4		0.34	[0.28]	0.20		
P-190	H4		0.34	[0.26]	0.15		
P-191	H4		0.26	0.25	0.15		
P-192	F3	B	0.50	0.50	0.48	土師・須恵・灰釉	
P-193	H4		0.16	0.12	0.03		
P-194	G4	A	0.32	0.31	0.23		
P-195	G4	B	0.59	0.54	0.28	土師	
P-196	G4	B	0.36	0.26	0.32	土師	
P-197	F4	B	[0.27]	0.27	0.21		
P-198	F4	B	0.39	0.29	0.14		
P-199	F4	B	0.40	0.30	0.46		
P-200	F2	A	0.36	0.27	0.06		
P-201	F2	A	0.29	0.26	0.10		偏平礫あり、礎盤石か
P-202	F2	A	0.52	0.51	0.05		
P-203	F2	A	1.29	0.68	0.04		
P-204	G3	B	0.29	0.28	0.49	古土師・土師	
P-205	H3	B	0.55	0.36	0.37	土師・須恵・内耳	
P-206	H3	B	0.46	0.42	0.59	土師	
P-207	H3	C	0.30	0.29	[0.15]	土師	
P-208	G3	B	0.44	0.38	0.50	土師・須恵	
P-209	H4		0.50	0.45	[0.16]	土師	
P-210	H4	B	0.39	[0.30]	[0.11]		
P-211	H4	B	[0.28]	0.22	[0.21]		
P-212	H4	B	0.36	0.31	[0.30]	土師・須恵	
P-213							SB-6・P4に変更
P-214							SB-7・P1に変更
P-215	H4	B	0.22	0.22	[0.29]	須恵	
P-216	H4	B	0.38	0.28	[0.35]	土師	
P-217	H4	C	0.43	0.33	0.21	土師・須恵	
P-218							SB-5・P1に変更
P-219	H4	B	0.37	0.32	0.20		
P-220	H4	B	0.43	0.42	[0.43]		
P-221	H4	C	0.35	0.34	[0.33]		
P-222							SB-6・P5に変更
P-223	H4	B	0.30	0.26	0.29		
P-224							SB-7・P2に変更
P-225	G4	B	0.33	0.30	0.58	土師	
P-226	G4	B	0.28	0.26	[0.20]		
P-227	G4	B	0.24	0.20	0.22	土師	
P-228							SB-5・P4に変更
P-229	G4	B	0.28	0.22	[0.19]		
P-230	G4	A	0.24	0.24	[0.39]	土師・須恵	
P-231							SB-7・P3に変更
P-232	G4	A	0.26	0.25	[0.31]		
P-233	G4	B	0.28	0.25	[0.12]		
P-234	G4	A	0.21	0.21	[0.18]	土師	
P-235	G4	B	0.29	0.29	[0.43]		
P-236	G4	B	0.29	0.26	[0.17]		
P-237	G4	B	0.39	0.24	[0.39]	土師	
P-238	G4	A	0.36	0.27	[0.45]	土師	
P-239	G4	B	0.28	0.26	[0.16]		
P-240	G4	A	0.28	[0.16]	[0.15]	土師・須恵	

第9表 ピット一覧表(3)

番号	位置	覆土	規模			出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ		
P-241	G4	A	0.45	0.41	[0.38]		
P-242	G4	B	0.31	0.30	[0.22]		
P-243	G4	B	0.25	0.19	[0.23]		
P-244	G5	B	0.30	0.27	[0.46]		
P-245	G4	A	0.41	0.35	[0.40]	土師	
P-246	G4	A	0.29	0.22	[0.21]	須恵	
P-247	G4	B	0.34	0.31	[0.38]		
P-248	F3	A	0.32	[0.20]	0.26		
P-249	H4		0.31	0.27	[0.21]		
P-250	H4	B	0.37	0.35	0.24	土師	
P-251	H3	B	0.37	0.32	0.38	土師	
P-252	G3	B	0.29	[0.23]	0.32		
P-253	G3	B	0.26	0.24	0.19	土師	
P-254	F2	B	0.28	0.26	0.35		炭化物多量含む
P-255	F2	B	0.19	0.17	[0.06]		
P-256	F2	B	[0.58]	0.44	0.40		
P-257	F2	C	0.45	0.37	0.29		炭化物含む
P-258	G5		0.24	0.21	[0.21]		
P-259	F2		0.67	0.57	0.40	古土師・土師	
P-260							SB-5・P3に変更
P-261	G4		0.45	0.41	[0.33]		
P-262	G4		0.56	0.53	[0.24]		
P-263	F3	B	0.28	0.24	0.22		
P-264	G4		0.36	0.33	0.59		
P-265	F3	A	0.46	0.46	0.19		
P-266	F3	A	0.37	0.33	0.27	土師	
P-267	F3	A	0.51	[0.33]	0.12	須恵	
P-268	F3	C	0.34	0.29	0.21		
P-269							SB-1・P7に変更
P-270	F3	B	0.31	[0.12]	0.66		
P-271	F3	B	0.51	0.44	1.06		
P-272	F3	B	0.42	[0.38]	0.17		
P-273	G4		0.37	0.35	[0.36]		
P-274	F3	B	0.29	0.29	0.71	土師・須恵	
P-275	E3	B	0.22	0.16	0.17		
P-276	E3	B	0.26	0.23	0.13		
P-277	G4		0.36	0.33	[0.34]		
P-278	E2	B	0.45	[0.35]	0.01		
P-279	G4		0.49	[0.31]	0.39		
P-280	E2	B	0.40	0.29	0.30	土師・土師質?	
P-281	E2	B	0.39	0.32	0.57		
P-282	E2	B	0.42	0.38	0.27	土師	
P-283	E2	C	0.50	0.49	0.41	土師・須恵	
P-284	E3	C	0.35	0.34	0.17	土師	
P-285	F4	C	0.21	0.21	0.06	須恵	
P-286	G3		0.39	[0.28]	0.46		
P-287	G3		0.29	[0.18]	0.07		
P-288							SB-1・P3に変更
P-289	F4	B	[0.33]	0.26	0.34		
P-290	F4	B	0.47	0.43	0.19		
P-291	F4	B	0.38	0.30	0.14		
P-292	F4	B	[3.56]	0.26	0.21		
P-293	F4	B	0.25	0.24	0.44		
P-294	F4	B	0.35	0.35	0.26		
P-295							SB-8・P1に変更
P-296	F4	B	0.39	0.31	0.12	土師	
P-297							SB-1・P10に変更
P-298	F4	B	0.38	0.35	0.39	土師	礫出土
P-299	F4	B	0.47	0.37	0.12		
P-300	F4	B	0.45	0.39	0.19	土師	
P-301	F4	B	0.37	0.33	0.11		
P-302	F4	B	0.41	0.36	0.14		
P-303	F4	B	0.26	0.23	0.17		
P-304	F4	B	[0.39]	0.35	0.31		
P-305	F4	B	0.46	0.33	0.55		
P-306	F4	B	0.26	0.20	0.15	土師	
P-307	F4	B	0.36	0.27	0.12		
P-308	F4	B	0.21	[0.13]	0.08		
P-309	G3		0.22	[0.20]	—		
P-310	F4	B	0.28	0.23	[0.19]		
P-311	F4	B	0.56	0.56	0.04		
P-312	F4	B	[0.31]	0.30	0.20		
P-313	F4	B	0.35	0.28	0.28	土師	
P-314	F4	B	0.26	0.22	0.46		
P-315	G3	B	0.34	0.30	0.42		
P-316	G3	B	0.27	0.22	0.31	古土師・土師	
P-317	G3	B	0.24	0.23	0.29		
P-318	E3	B	0.42	0.39	0.56	土師	
P-319	G3		0.29	[0.26]	0.11		
P-320	E3	B	0.27	0.21	0.25	古土師・土師・須恵	
P-321	E3	B	0.40	0.30	0.32		
P-322	F3	B	0.44	0.38	0.12		
P-323	F3	B	0.45	0.30	0.07		
P-324	F4	B	0.28	0.25	0.19		
P-325							SB-3・P2に変更
P-326							SB-1・P4に変更
P-327	F4	B	[0.51]	0.43	0.52	土師	
P-328	G3		0.35	[0.15]	0.32		
P-329	E4	B	0.45	0.35	0.24	土師	炭化物多量含む
P-330	E4	B	0.29	0.28	0.09	土師	
P-331							SB-9・P8に変更
P-332	E3	B	0.33	[0.21]	0.46	土師・須恵	
P-333	E3	B	0.63	0.60	0.35	土師・須恵	
P-334	E3	B	0.23	0.21	0.41		
P-335	E3	B	0.40	0.38	0.17	土師・カワラケ?	偏平礫あり、礫盤石か
P-336	H3		0.17	[0.14]	0.10		
P-337	E4	B	0.49	0.42	0.13	土師	
P-338	E4	B	0.35	0.33	0.40	土師質?	
P-339	E4	B	0.44	0.41	0.37		
P-340	E4	B	0.47	0.26	0.27	古土師・土師	
P-341	E4	B	0.53	0.39	0.68	土師・須恵・カワラケ	
P-342	E4	B	0.41	0.32	0.23		
P-343							SB-9・P1に変更
P-344	E4	B	0.25	0.22	0.48	土師	
P-345	E4	B	0.51	0.37	0.46	土師	
P-346							SB-8・P6に変更
P-347	E4	B	0.29	0.24	0.36		
P-348	E4	B	0.31	[0.18]	0.13		
P-349	E4	B	0.35	0.32	0.73	土師・古銭	
P-350	E4	B	0.47	[0.41]	0.18	土師	
P-351	E4	B	0.30	0.27	[0.25]	-	
P-352	E4	B	0.55	0.46	0.40	土師	
P-353	E4	B	0.37	0.34	0.36	土師	
P-354	E4	B	0.41	0.30	0.36	-	
P-355	E4	C	0.88	0.58	0.32	土師	礫出土
P-356	E4	B	0.81	0.53	0.58	土師	
P-357	E4	B	0.58	0.48	0.37	土師	
P-358	E4	B	0.40	0.32	0.06		
P-359	D2		0.41	0.29	0.44		
P-360	D2	B	0.25	0.24	0.19		
P-361	D2	B	[0.27]	0.24	0.21		
P-362	D2	B	0.25	0.21	0.34		
P-363	D3	B	0.25	0.20	0.18		
P-364	D3	B	0.30	0.27	0.17		
P-365	D3	B	0.28	0.27	0.25	土師	
P-366							SB-10・P5に変更
P-367	D2		0.36	[0.32]	0.34		
P-368	D2		0.71	[0.43]	0.20		
P-369	H3	A	0.54	0.30	0.49		
P-370	D3	B	0.19	0.18	0.32		
P-371	E3	B	0.31	0.27	[0.22]		
P-372	D3	C	0.22	0.22	[0.33]		
P-373							SB-9・P7に変更
P-374	E3	B	0.43	0.33	[0.17]		
P-375	E3	B	0.33	0.29	0.24		
P-376	E3	B	0.48	0.43	0.76		
P-377	D3	B	0.33	0.23	0.27		
P-378	D3	B	0.44	[0.29]	0.72	土師	
P-379	D3	B	0.38	0.33	0.76	土師・内耳	
P-380	D3	B	0.42	0.33	0.54	土師・磁石	
P-381	D3	B	0.42	0.29	0.21	土師	
P-382	D3	B	0.25	0.24	0.57	内耳・カワラケ	
P-383	D3	B	0.23	0.21	0.25		
P-384	D3	B	0.37	0.35	0.36	縄文	
P-385							SB-9・P5に変更
P-386	D3	B	0.25	0.24	0.31	土師	
P-387	D4	A	0.55	0.47	0.25		
P-388	D4	A	0.29	0.21	0.38		
P-389	D3	B	0.32	0.27	0.34	須恵	
P-390	D3	B	0.34	0.26	0.21	土師	覆土の黒色味が強い
P-391	D3	B	0.26	0.19	0.35	土師	
P-392	D4	B	0.31	0.25	0.52		
P-393	D2	B	0.26	0.26	0.57		
P-394	E3	B	0.43	[0.33]	0.18	土師	
P-395	E3	B	0.49	0.44	0.38		
P-396	E4	B	0.38	[0.25]	0.20	土師	
P-397	D2	B	0.55	0.39	0.43		
P-398	D4	B	0.34	0.33	0.25		
P-399	D4	B	0.35	0.33	0.28	土師	
P-400	D4	C	0.44	0.43	0.50	土師	

第10表 ピット一覧表(4)

番号	位置	覆土	規模			出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ		
P-401	D4	B	0.35	[0.25]	0.23		
P-402	D4	B	0.42	0.34	0.30	灰釉・すり鉢	
P-403	D4	B	0.59	0.40	0.64	土師	
P-404	G3		0.36	0.26	0.61		
P-405	D4	B	0.42	0.35	0.26	土師・内耳	
P-406	D4	B	0.42	0.25	0.33	土師・須恵・陶器	
P-407	D4	B	0.32	0.29	0.54	土師	
P-408							SB-9・P3に変更
P-409	D4	B	0.36	0.28	0.49	土師・須恵・内耳	
P-410	D4	C	0.38	0.37	0.26	古土師・土師	
P-411	D4	B	0.61	0.39	0.41		
P-412	D4	B	0.44	0.39	0.10		
P-413							SB-9・P4に変更
P-414	G3		0.46	0.38	0.74		
P-415	F3	B	[0.30]	0.28	0.49		
P-416	G3		0.22	0.21	0.03		
P-417	F2	C	0.53	0.50	0.56	土師	
P-418	F2	B	0.41	0.39	0.71		
P-419	G4		0.60	0.58	0.52	内耳	
P-420							SB-1・P1に変更
P-421	E3	B	0.35	[0.19]	0.21		
P-422	E3	B	0.33	0.32	0.63	土師・カワラケ	
P-423	E3	B	0.31	0.22	0.21		
P-424	F3	C	[0.31]	0.30	0.25	土師・須恵	
P-425	F3	B	0.29	0.26	0.24		
P-426	D3	A	0.28	0.28	0.40	土師	
P-427	E2	B	0.37	0.28	0.37	土師・須恵	
P-428	D2	B	0.56	0.56	0.49	土師	
P-429	D2	B	0.68	0.54	0.46	土師・須恵	
P-430	D3	B	0.30	0.24	0.18		
P-431	G4		[0.26]	[0.26]	0.23		
P-432	E2	B	0.41	[0.32]	0.14		
P-433	G4	B	0.34	0.27	[0.20]		
P-434							SB-7・P4に変更
P-435	G4	B	0.27	0.23	[0.19]		
P-436	G4	B	0.20	0.18	[0.10]		
P-437	G4	B	0.39	0.29	[0.13]		
P-438	D3	B	0.35	0.30	0.17		
P-439	D3	B	0.52	0.31	0.20	土師	
P-440	C3	B	0.31	0.31	[0.29]	土師	
P-441	C2	B	0.38	0.32	0.36		
P-442	C2	A	0.35	0.27	0.36		
P-443	D2	B	0.82	0.51	0.16	土師	
P-444	G4		0.22	0.21	0.06		
P-445	D3	A	0.46	[0.41]	0.22		
P-446							SB-10・P3に変更
P-447	G4		0.30	[0.22]	0.15		
P-448	D3	B	0.36	0.34	0.45		
P-449	D3	B	0.37	0.31	0.09		
P-450	D3	B	0.32	[0.28]	0.09		
P-451	D2	A	0.41	0.39	0.14	土師	
P-452	D2	A	0.34	0.30	0.06		
P-453	D2	B	0.50	[0.35]	0.07		
P-454	D2	B	0.29	0.25	0.18		
P-455	D2	B	0.25	[0.22]	0.12		
P-456	D2	B	0.27	0.23	0.39	土師	
P-457	D2	A	0.25	0.23	0.12		
P-458	F4		0.32	0.23	0.26		
P-459	D3	B	0.31	0.30	0.32		
P-460	D3	A	[0.27]	0.27	0.09	土師	
P-461	D3	B	0.66	0.27	0.26	土師	炭化物多量含む
P-462	D3	B	[0.64]	0.66	0.26	土師	
P-463	D3	B	0.54	0.28	0.27	土師	
P-464	D3	B	0.54	0.37	0.37		
P-465	C3	B	0.23	0.23	0.21	土師	
P-466	C2	B	0.31	0.29	0.26		
P-467	C2	B	0.43	0.34	0.30		
P-468	C2	B	0.61	0.40	0.35		
P-469	C2	A	0.27	0.20	0.19		
P-470	C2	A	0.51	[0.47]	0.10		
P-471	C2	B	0.66	0.36	0.17		
P-472	C2	A	[0.36]	[0.16]	0.06	古土師・土師	
P-473	C3	B	0.41	0.22	0.10		
P-474	C3	B	0.45	0.26	0.21		
P-475	C3	A	[0.58]	0.52	0.07		
P-476	C2	B	[0.50]	0.34	0.06		
P-477	C3	B	0.61	0.61	0.09		
P-478	C3	B	0.36	0.32	0.06		
P-479	C3	B	0.30	[0.19]	0.12		
P-480	C3	A	0.33	0.28	0.28	砥石	

番号	位置	覆土	規模			出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ		
P-481	C3	A	0.40	0.32	0.35		
P-482	C3	A	0.52	0.34	0.25	土師	
P-483	C3	B	0.44	0.43	0.25		
P-484	C3	B	0.24	0.23	0.26	土師	
P-485	C3	A	0.44	0.32	0.11	土師	
P-486	C3	B	0.46	0.37	0.32	-	
P-487	C3	B	0.49	0.41	0.38	土師	
P-488	C3	B	0.49	0.46	0.09	土師	
P-489	C4	B	0.39	0.36	0.18		
P-490	C4	B	0.27	0.23	0.13		
P-491	C4	A	0.58	0.44	0.27		
P-492	C4	B	0.24	0.23	0.26		
P-493	C4	B	0.36	0.35	0.31	土師	覆土の色調はやや暗い
P-494	C4	B	[0.47]	[0.43]	0.20		
P-495	C1	A	0.38	0.31	0.17	土師	
P-496	C2	B	0.58	0.52	0.22	古土師・土師・須恵	
P-497	C2	B	0.29	0.23	0.12		
P-498	C2	A	0.38	0.32	0.26	土師	
P-499	C2	B	0.52	0.37	0.22		
P-500	B2	A	0.63	0.28	0.15		
P-501	C2	B	0.34	0.33	0.21		
P-502	B2	A	0.35	0.34	0.19		
P-503	F4		0.32	[0.17]	0.22		
P-504	C2	B	0.29	0.24	0.23		
P-505	C2	B	0.24	0.23	0.06	土師	
P-506	B2	B	0.41	0.31	0.53	土師・須恵	
P-507	B2	B	0.51	0.35	0.18	土師・須恵	
P-508	B2	B	0.29	0.23	0.18		
P-509	B2	B	0.76	0.47	0.03	土師	
P-510	B2	B	0.28	0.19	0.15		
P-511	B2	B	0.24	0.22	0.19	土師	
P-512	C2	B	0.57	0.38	0.18	土師	
P-513	C2	B	0.19	0.19	0.09	-	
P-514	C2	B	0.41	0.27	0.10		
P-515	C2	B	0.48	0.42	0.61	土師・須恵・土師質	
P-516	C2	A	0.35	0.24	0.15		
P-517	C2	B	0.41	0.31	0.33		
P-518	C2	B	0.24	0.24	0.17		
P-519	G4		0.31	0.27	[0.15]		
P-520	C2	B	0.31	0.25	0.33		
P-521	C2	B	0.33	0.31	0.34		
P-522	C2	A	0.33	0.25	0.04		
P-523	B2	A	0.34	0.25	0.13	土師	
P-524	B2	B	0.44	0.36	0.29	土師	
P-525	B2	A	0.38	0.32	0.06		
P-526	B2	A	0.46	0.37	0.24	土師	
P-527	B2	B	0.40	0.30	0.27		
P-528	C2	B	0.31	0.31	0.10		
P-529	C3	B	0.53	0.49	0.22		
P-530	C3	A	0.25	[0.17]	0.12		
P-531	B3	A	0.22	[0.10]	0.22	土師	
P-532	B3	A	0.32	0.29	0.49		
P-533	B3	B	0.54	0.41	0.11		
P-534	B3	B	0.24	0.22	0.05		
P-535	I4	A	0.28	[0.14]	[0.18]		
P-536	F4	B	0.43	0.32	0.43	土師・須恵	
P-537							SB-8・P2に変更
P-538	F4	B	0.26	0.23	0.24	土師	
P-539	E4	B	0.39	0.34	0.39	土師	
P-540	F4	B	0.18	0.17	0.32		
P-541	E2		0.24	0.20	0.26	土師	
P-542	E2	B	0.35	0.22	[0.42]	須恵	
P-543	E3	B	0.46	0.45	0.68	古銭	
P-544	D3	B	0.32	0.30	0.26	土師	
P-545	D3	B	0.29	0.27	0.2	土師	
P-546	E3	B	0.31	0.27	0.38		
P-547	E3	B	0.74	0.47	[0.28]		
P-548	E3	B	0.18	0.18	[0.07]		
P-549	E3	B	0.53	0.47	[0.31]	土師	
P-550	E3	B	0.55	0.49	0.51		
P-551	F4		0.36	[0.20]	0.20	土師	
P-552	F4		0.41	[0.34]	0.38		
P-553	G5		[0.37]	0.28	[0.29]	土師・須恵	
P-554	E4		0.32	0.25	0.28	土師	
P-555							SB-9・P6に変更
P-556	H5		0.54	0.52	[0.46]	古土師・土師	
P-557							SB-5・P2に変更
P-558	G4		0.25	0.17	0.22		
P-559	G4		0.30	0.21	0.29		
P-560	G4		0.24	0.14	0.25		

第11表 ピット一覧表(5)

番号	位置	覆土	規模			出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ		
P-561	G4		0.19	0.19	0.28		
P-562	G4		0.71	0.56	0.17		
P-563	F4		0.37	0.30	0.20		
P-564	F3		0.32	0.31	0.45		
P-565	F3		0.25	[0.19]	0.16		
P-566	F3		0.51	0.45	0.40		
P-567	F4		[0.45]	0.33	0.42		
P-568	F4		0.23	[0.17]	0.38		
P-569	F4		[0.35]	0.25	0.47		
P-570	F3		0.24	0.18	0.12		
P-571	F3		0.25	[0.15]	0.10		
P-572	F4		0.39	[0.17]	0.25		
P-573	F4		[0.16]	0.14	0.14		
P-574	F4		0.85	0.46	0.35		
P-575	F4		0.60	0.35	0.23		
P-576	F4		0.56	0.16	0.33		
P-577	F4		0.44	0.30	0.25		
P-578	F4		0.33	0.29	0.42	古土師・土師・須恵	
P-579	F4		0.26	[0.15]	0.19		
P-580	F4		0.36	0.32	0.32		
P-581	F4		0.34	0.29	0.77		
P-582	F4		0.26	0.26	0.54		
P-583	F4		0.30	0.29	0.22		
P-584	F3		0.46	[0.22]	0.09		
P-585	F3		0.49	[0.30]	0.25		
P-586	F2		0.29	[0.15]	0.29		
P-587	F2		0.42	0.40	0.51		
P-588	F2		0.39	0.32	0.65		
P-589	F2		0.83	[0.43]	0.30		
P-590	E2		0.38	0.16	0.30		
P-591	E2		0.34	[0.32]	0.24		
P-592	F3		0.36	0.28	0.29		
P-593	F3		0.32	0.29	0.34		
P-594	F3		0.26	[0.18]	0.19		
P-595	F3		0.44	[0.18]	0.12		
P-596	E3		0.38	0.33	0.32		
P-597	E3		0.31	[0.28]	0.15		
P-598						SB-8・P5に変更	
P-599	E4		0.20	[0.15]	0.21		
P-600	E4		0.36	0.24	0.52		
P-601	E4		[0.72]	0.36	0.34		
P-602	E4		0.31	[0.18]	0.47		
P-603	E4		[0.27]	0.26	0.02		
P-604	E4		0.31	0.22	0.30		
P-605	E4		[0.58]	0.55	0.21		
P-606	E3		0.31	0.28	0.18		
P-607	E3		[0.50]	0.18	0.16		
P-608	E3		0.23	0.23	0.27	礫出土	
P-609	E3		0.28	0.21	0.28		
P-610	E3		[0.27]	0.23	0.26		
P-611	E2		0.29	0.22	0.65		
P-612	E2		0.30	0.26	0.52		
P-613	E2		0.38	0.34	[0.29]		
P-614	E2		0.35	0.19	[0.23]		
P-615	E2		0.23	0.20	[0.21]		
P-616	E2		0.30	0.26	0.35		
P-617	E2		0.26	0.23	[0.20]		
P-618	E2		0.34	0.31	0.27		
P-619	D2		0.53	0.41	0.18		
P-620	D3		0.35	[0.33]	0.11		
P-621	D3		0.30	0.24	0.15		
P-622	D3		0.50	[0.26]	0.13		
P-623	C3		0.40	0.34	0.44		
P-624	D3		0.25	[0.23]	0.19		
P-625	D3		0.26	0.25	0.11		
P-626	D2		0.27	0.23	0.30		
P-627	D2		[0.22]	0.20	0.10		
P-628	D2		0.57	0.38	0.13		
P-629	D2		0.29	[0.08]	0.09		
P-630	C3		0.28	0.24	0.14		
P-631	C3		0.27	0.24	0.24		
P-632	C3		0.40	[0.39]	0.08		
P-633	B2		0.30	0.19	0.26		
P-634	B2		0.29	0.26	0.36		
P-635	G4		0.26	0.22	[0.09]		
P-636	G5		0.36	[0.26]	[0.71]		
P-637	G4		0.19	0.17	[0.11]	土師・内耳・陶器	
P-638	G4		0.17	0.16	[0.05]		
P-639	G5		0.21	0.17	[0.07]		
P-640	G4		[0.25]	0.19	0.09		
P-641	F4		0.26	0.20	0.12	-	
P-642	F4		0.33	0.16	0.21	-	
P-643	F4		0.27	0.18	0.38	-	
P-644	H4		0.31	0.26	0.08	-	
P-645	H3		0.29	0.25	0.48	-	
P-646	G3		0.36	[0.32]	0.13	-	
P-647	G3		0.24	0.21	0.17	-	
P-648	F3		0.34	0.27	0.43	土師・須恵・内耳	
P-649	F3		0.25	0.24	0.14	-	
P-650	F3		0.42	0.37	0.38	土師	
P-651	G4		0.34	0.27	0.19	-	
P-652	G4		0.49	0.31	0.50	-	
P-653	G4		0.28	0.25	0.18	-	
P-654	G4		0.49	0.41	0.05	土師	
P-655	F4		0.22	0.18	0.10	-	
P-656	F3	C	0.23	[0.15]	[0.14]	-	
P-657	F3		0.34	0.28	0.15	-	偏平礫あり、礎板石か
P-658	F3	B	0.29	0.23	0.41	土師	
P-659	F3	B	0.37	0.29	0.29	-	
P-660	F3		0.29	0.23	0.28	-	
P-661	F3	B	0.40	0.38	0.25	-	
P-662	F3	B	0.32	[0.26]	0.06	-	
P-663	F3	B	0.28	0.23	0.23	土師・須恵・緑釉	
P-664	F3	B	0.41	0.33	0.08		
P-665	F4		0.34	0.27	0.38		
P-666	F4		0.23	0.21	0.31		
P-667	F4	B	0.55	0.33	0.13		
P-668						SB-8・P3に変更	
P-669						SB-8・P4に変更	
P-670	F4		0.21	0.19	0.06		
P-671	E4		0.23	0.23	0.13		
P-672	E4		0.24	0.22	0.13		
P-673	E4		0.31	0.23	0.17		偏平礫あり、礎板石か
P-674						SB-9・P2に変更	
P-675	D3		0.30	0.20	0.47	土師	
P-676	D3		0.22	0.21	0.07		
P-677	E2	B	0.28	0.18	0.21		
P-678	E2		0.20	[0.14]	0.21		
P-679	E3		0.20	[0.14]	0.20		礫出土
P-680	D2		0.21	[0.14]	0.16		
P-681	D2		0.19	0.18	0.22		
P-682	D2		0.25	0.23	0.23		
P-683						SB-10・P4に変更	
P-684	D2		0.36	[0.30]	0.34		
P-685	D2		0.24	0.15	0.14		
P-686	C2		0.33	0.25	[0.50]		
P-687	D2		0.42	0.34	0.24		
P-688	D2	B	0.48	[0.22]	0.20		
P-689	A1		0.31	0.21	0.26		
P-690	A1		0.31	0.19	0.17		
P-691	A1		0.22	0.19	0.26		
P-692	A2		0.31	0.30	0.19		
P-693	B2		0.53	0.30	0.42		
P-694	B3		0.45	0.44	0.35		
P-695	B3		[0.38]	0.38	0.19		
P-696	E2		0.56	0.37	0.44		
P-697	E2	B	0.53	0.37	0.46		
P-698	G3		0.34	0.27	0.23		
P-699	G3		0.20	0.19	0.34	内耳	
P-700	F4		0.31	0.25	0.05		
P-701	G4		0.16	0.14	[0.14]		
P-702	G4		0.27	0.27	0.56		
P-703	G3		0.34	0.30	0.27		
P-704	I3	D	0.60	0.43	0.19	土師	攪乱
P-705	I3	D	0.47	0.40	0.15	土師	攪乱
P-706	I3	D	0.46	0.45	0.12	土師・須恵・陶磁器	近世陶磁器出土・攪乱
P-707	I3	D	0.65	0.61	0.11	土師・須恵	攪乱
P-708	I4	D	0.49	0.45	0.09	土師	攪乱
P-709	I4		0.44	0.39	0.05	土師	
P-710	I3	C	0.44	0.42	0.23	古土師・土師	
P-711	I4	C	0.44	0.41	0.41		
P-712	F2	B	0.25	[0.15]	0.25	土師	

(凡例)

覆土欄のA=褐色土、B=暗褐色土、C=黒褐色土、D=基本土層II層土を示す。

規模欄の単位はメートル。残存値には〔 〕を付した。深さは遺構確認面からの計測とし、別遺構内に存在するピットの深さは、その底面から計測し、残存値として〔 〕を付した。

出土遺物欄の古土師=古式土師器、土師=土師器、須恵=須恵器、灰釉=灰釉陶器、緑釉=緑釉陶器、内耳=内耳鍋、内黒=内面黒色処理土器、土師質=酸化焰焼成クロ使用土師の略称として示した。空欄は該当所見なしの部分

VI. 出土した遺物

今回出土した遺物量は、土器や石製品などを含め、遺物収納箱(外寸44×60×15cm)に換算して7箱分である。土器のほぼ全てが小破片での出土であり、復元率は低い。そのため、それらの時期判断を行うことが難しいのであるが、ここではあえて出土遺物の時代的様相を、傾向として概観しておく。

出土した土器は土師器破片を主体とし、古式土師器の破片も少量存在する。土師器との量的な差は大きいものの、須恵器破片がそれに次ぐ。土師器は小破片のため時期判断し難いが、奈良・平安時代の破片はそれほど多くない印象を持った。よって、古墳時代の土器が主体的であると思われ、中・後期の帰属が多いと判断した。ただし、須恵器では奈良・平安時代、特に平安時代に帰属する破片が多い。また、灰釉陶器の出土量はわずかで、緑釉陶器は極小破片が1点のみ出土した。羽釜の小破片もわずかに出土しており、いわゆる土師質土器などと称されるようなロクロ使用酸化焰焼成の土器破片も出土した。

中世では軟質陶器が出土したが、その数量は全体的には少ない。中でも内耳鍋の破片が多く、すり鉢破片がわずかに含まれる。カワラケの破片も出土したが、こちらもわずかである。中世の陶磁器も少ないながら出土している。一方で縄文土器や弥生土器の小破片は数点の出土であり、近世から近・現代の出土遺物もわずかである。

石製品類では石製模造品が古墳時代の、石製紡錘車が奈良・平安時代の帰属である。穀物臼や茶臼、板碑は中世に帰属する。砥石については中世以前と考えられる。磨石の帰属時期は不明であり、縄文時代の遺物の可能性もある。また、金属製品では銭貨が6点出土しており、中世の遺物と判断した。その他、鉄製品の出土が少量あったが、時期・用途不明である。

以上、出土遺物の時代的様相をまとめれば、古墳時代中・後期の土器が最も多く、前期の土器は全体的では少ない。次いで奈良・平安時代の土器があるが、とりわけ平安時代の帰属が多いと考えた。中世の土器類の出土量は全体的には少ないが、中でも内耳鍋の破片が多い。石臼類や板碑、銭貨も中世に帰属する。一方で、縄文時代・弥生時代・近世・近現代の遺物は極めて少量であった。

前記したように出土遺物の時期判断には限界性を伴うため、その精度は粗いのだが、本遺跡出土遺物の時代的傾向をうかがうことができよう。参考までに土坑・ピット出土遺物に限り、両者をあわせた集計数を掲示しておく。総数2915点中、時期不明土師器が2339点・時期不明須恵器が159点。古墳時代の帰属が214点、奈良・平安時代の帰属が144点、中世土器が55点、近世以降の陶磁器が4点である。

本書で掲載した遺物は149点である。内訳は縄文時代5点、弥生時代3点、古墳時代28点(前期11点・中後期17点)、奈良・平安時代49点、中世以降40点、石製品18点、銭貨6点である。不明鉄製品は掲載しなかった。各時代の掲載点数は、前項で述べた時代的様相を反映していない。このことは、中世遺物は本遺跡の性格を示すと考えたために多く掲載し、奈良・平安時代の遺物は竪穴住居跡出土遺物を多く掲載したためである。総じて古墳時代の遺物は小破片が多く、器形を把握できる個体が少ないためでもある。

実測図版では、時代ごとに区分して出土土器を掲載した。その中でも、古墳時代では前期と中・後期の時期ごとに、奈良・平安時代では出土遺構ごとに、中世では器種ごとに小区分してまとめた。また、石製品と銭貨はそれだけでまとめている。全体的な不統一感と、出土遺構に即してみる場合の煩雑さは否めないが、遺構内での出土遺物の帰属時代に幅がある場合も多く、今回はこのような掲載方法とした。

個別の実測図では小破片も掲載の対象とした。復元実測しない破片資料の提示では、断面図の左側に外面の拓本(または図)を、右側に内面の拓本(または図)を貼付することを原則とした。ただしNo.87内耳鍋破片のみ、内外面の位置を逆に掲載している。また、内面を省略して掲載した場合もある。

出土遺物の観察内容は、第12～14表に記載した。

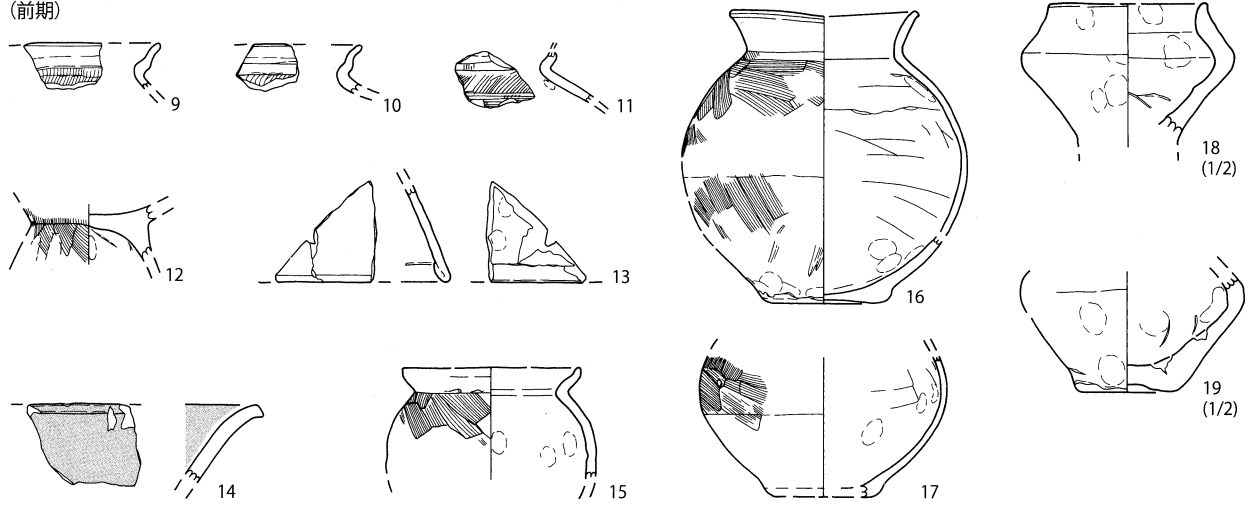
縄文時代



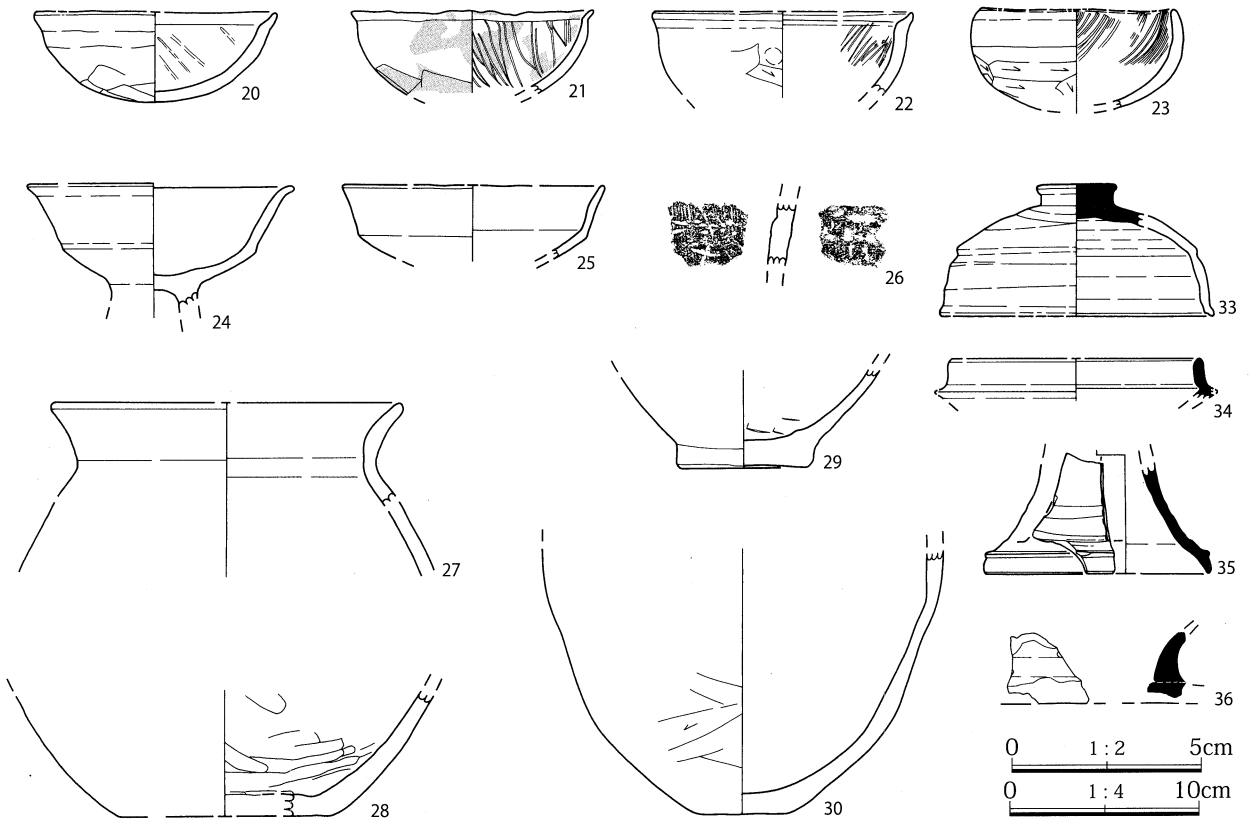
弥生時代



古墳時代
(前期)



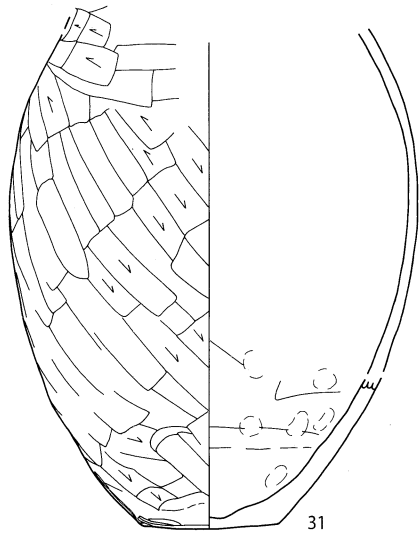
(中・後期)



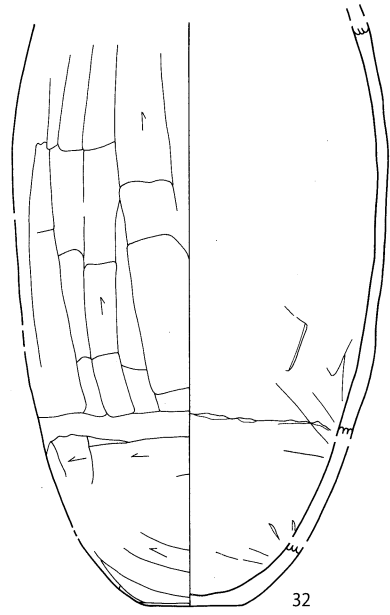
0 1:2 5cm
0 1:4 10cm

第25図 出土遺物(1)

(中・後期)

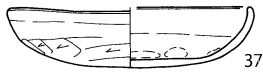


31



32

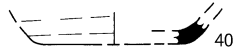
奈良・平安時代
(SI-1)



37



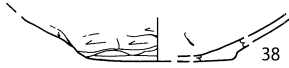
39



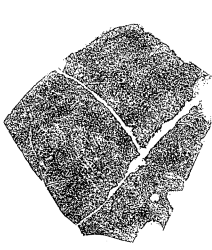
40



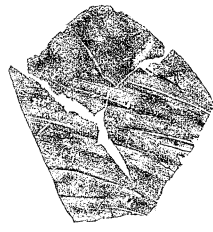
41



38



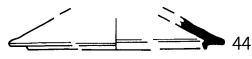
42



43



45

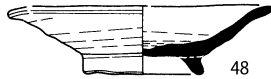


44

(SI-2)



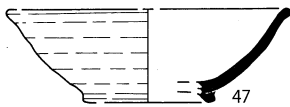
46



48



49



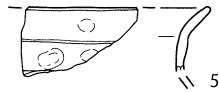
47



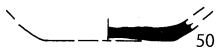
(SI-1・2)



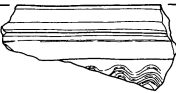
53



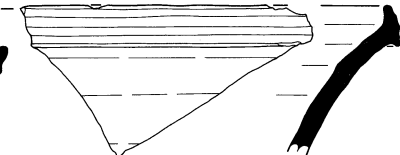
54



50



51



52



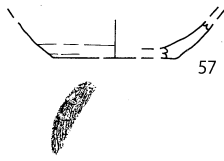
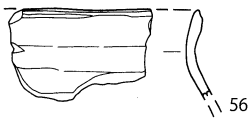
55



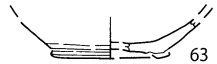
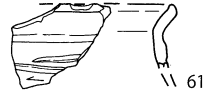
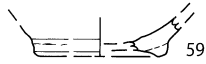
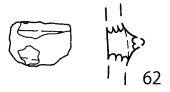
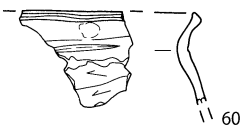
0 1:4 10cm

第26図 出土遺物(2)

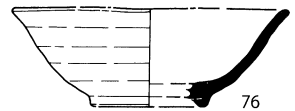
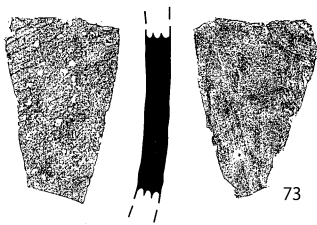
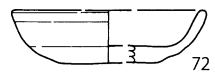
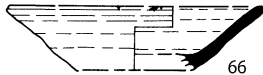
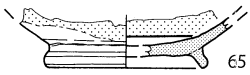
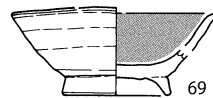
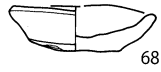
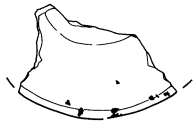
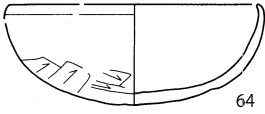
(SI-3)



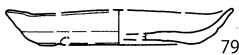
(SI-4)



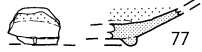
(SK)



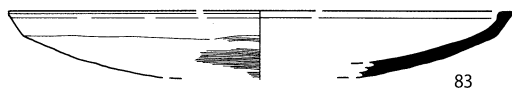
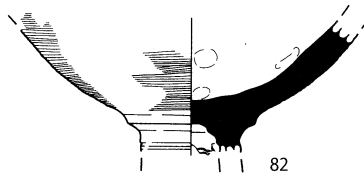
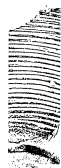
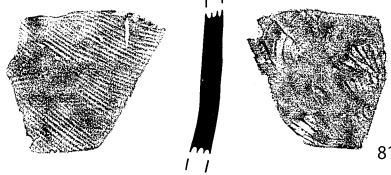
(Pit)



(遺構外)



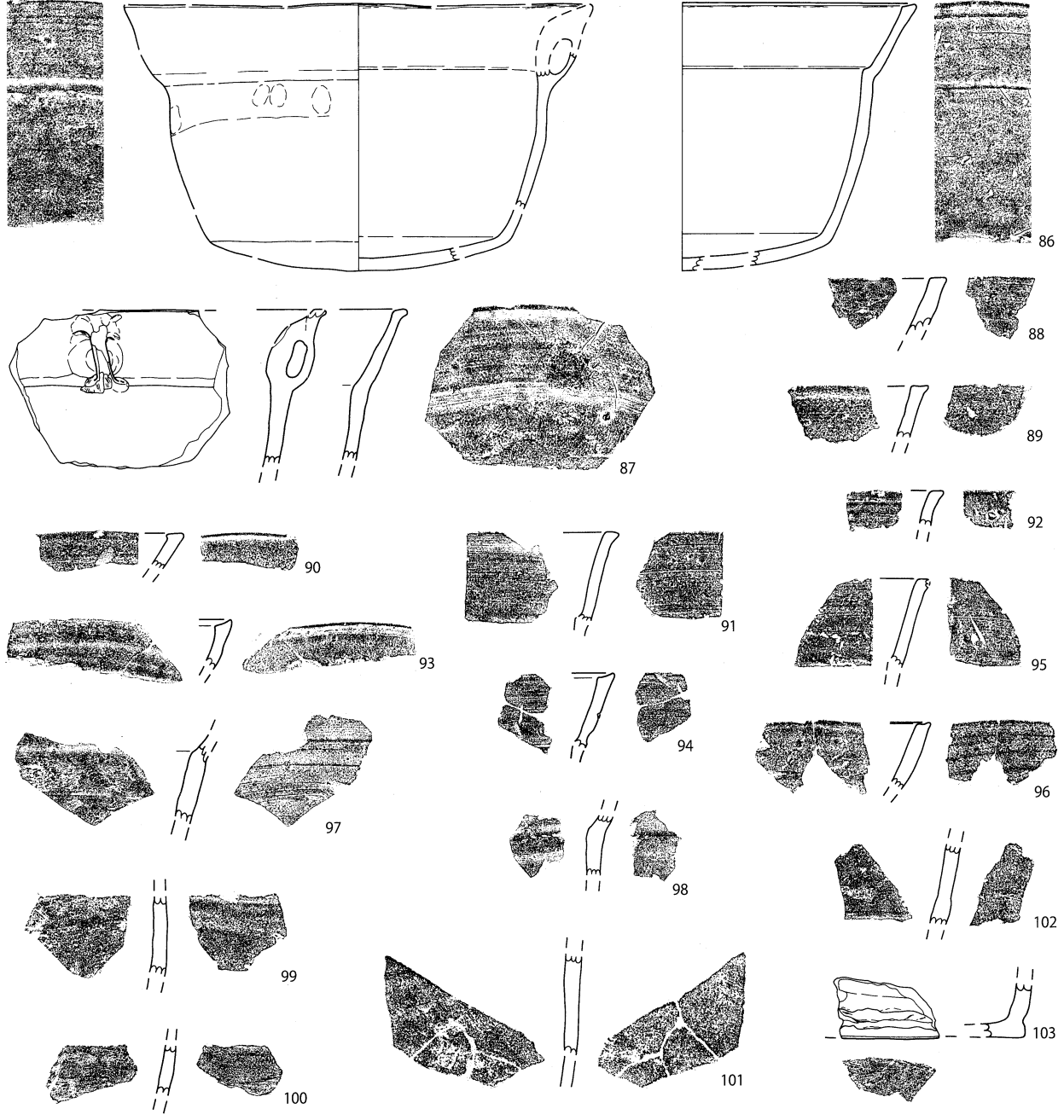
(SD)



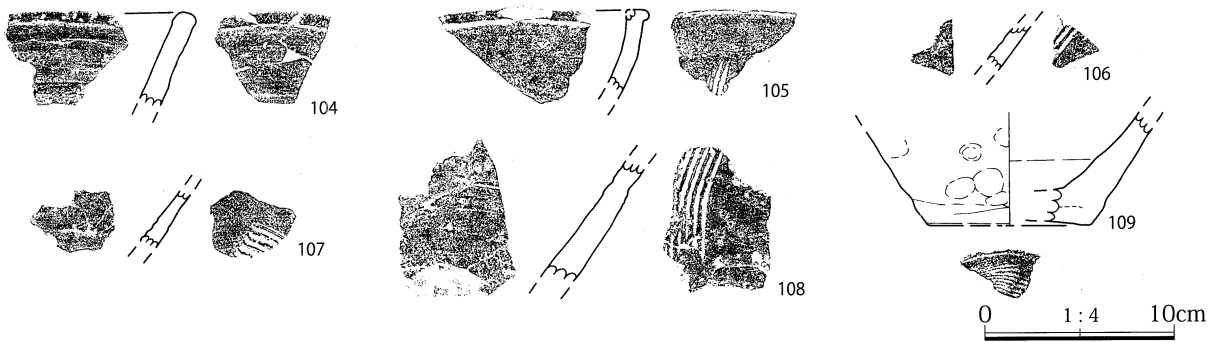
0 1:4 10cm

第27図 出土遺物(3)

中世
(内耳鍋)

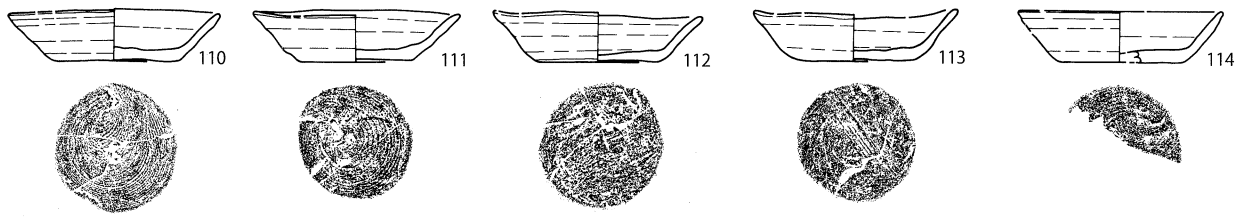


(すり鉢)

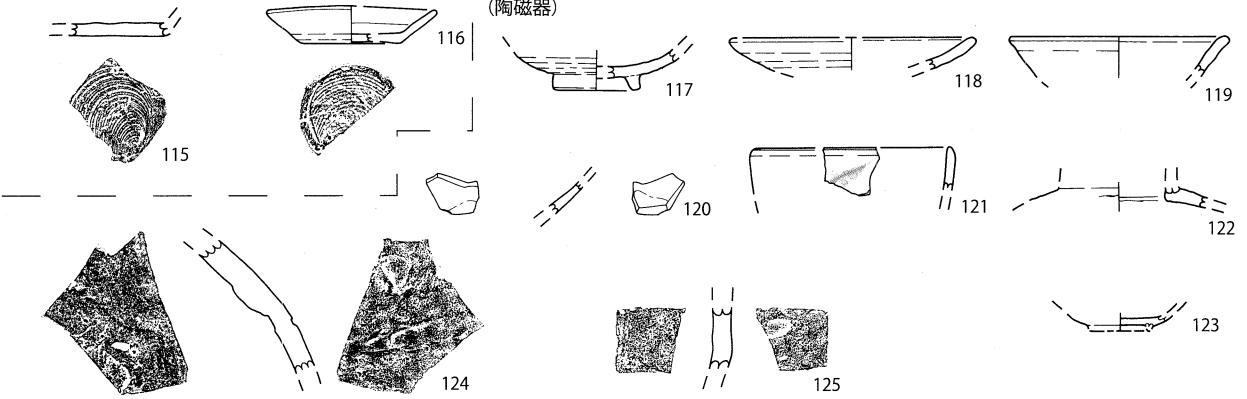


第28図 出土遺物(4)

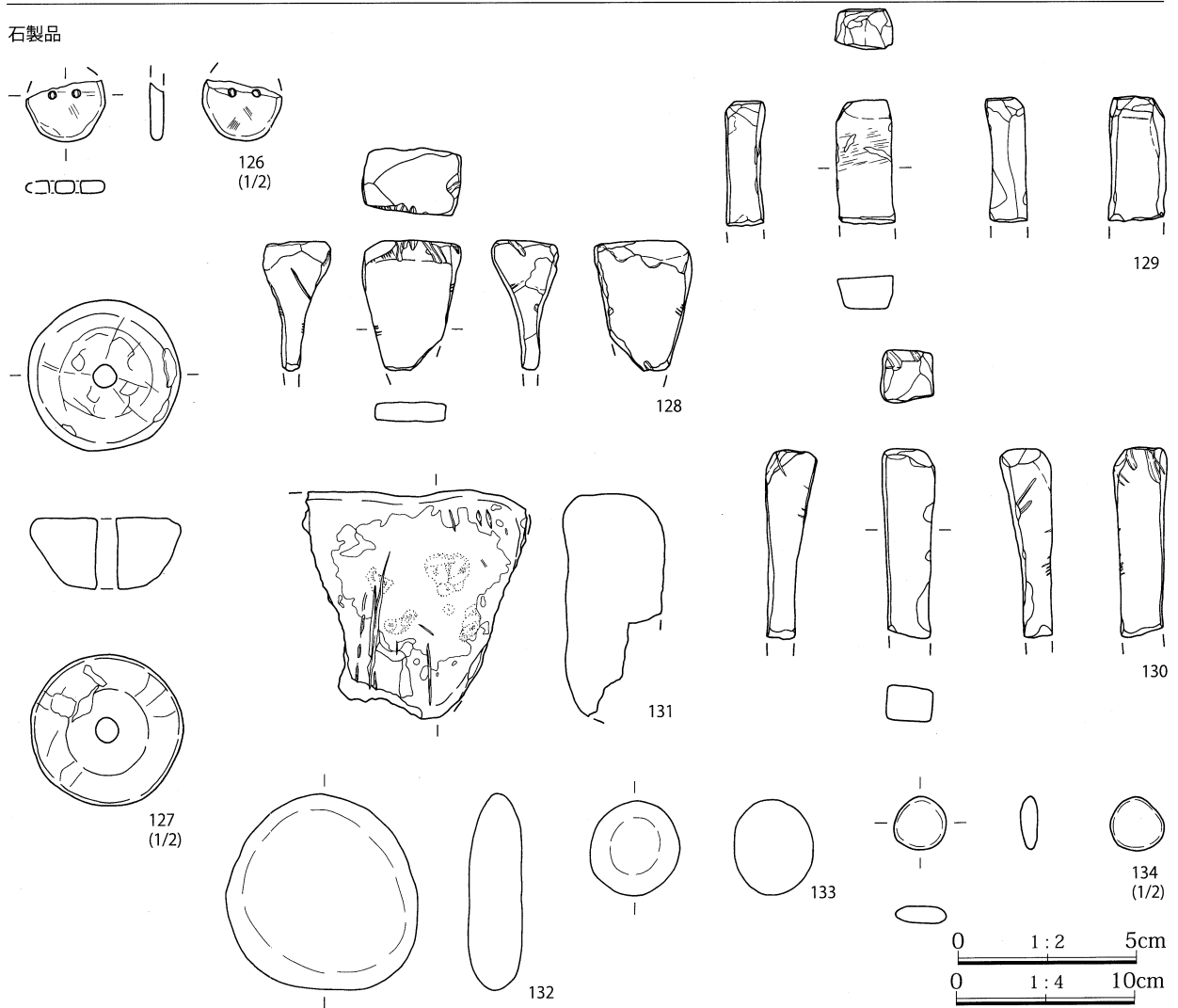
(カワラケ)



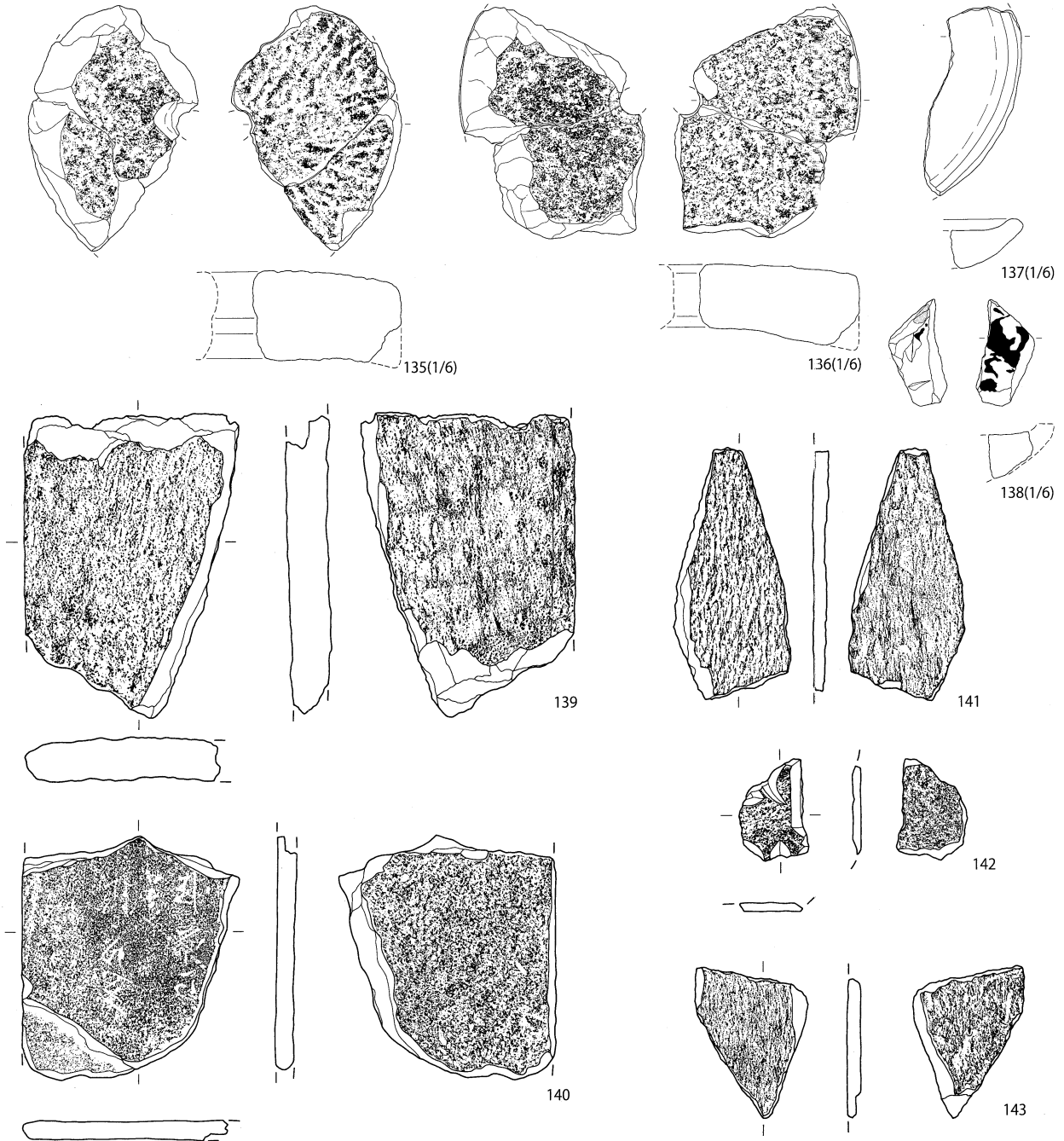
(陶磁器)



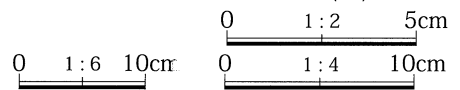
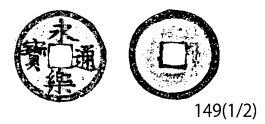
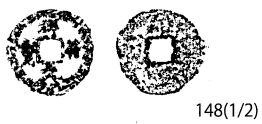
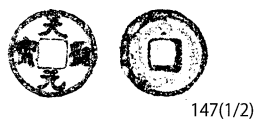
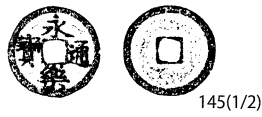
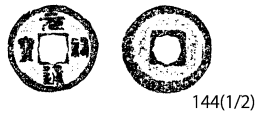
石製品



第29図 出土遺物(5)



錢貨



第30図 出土遺物(6)

第 12 表 遺物観察表 (1)

凡例：計測値の単位は cm。() は復元値を、[] は残存値を、< > は推定値を示す。石製品や銭貨などの重量の単位は g。以下、第 14 表まで同一体裁。

縄文・弥生時代										
番号	遺構	出土位置	種別・器種	計測値			焼成	色調	残存状況	成・整形方法の特徴など
				口径	底径	器高				
1	P-384	覆土	縄文二器 深鉢	-	-	[3.3]	酸化・良好	橙	破片	単節 LR か。沈線による楕円状区画か。中期
2	遺構外	確認面 B 区	縄文二器 深鉢	-	-	[3.3]	酸化・やや良好	橙	破片	単節 LR か。縦沈線。中期。
3	SD-4	覆土	縄文二器 深鉢	-	-	[4.2]	酸化・やや不良	にぶい黄橙	口縁部破片	縄文施文。口縁部下に浅い横沈線。
4	SI-3	覆土	縄文土器 深鉢か	-	-	[2.0]	酸化・良好	橙	破片	単節 LR
5	SI-1	覆土	縄文二器 深鉢	-	-	[3.0]	酸化・良好	黒褐	破片	並行する 2 条の沈線文。内外面ともよく磨かれる。後期か。
6	SD-4	覆土	弥生土器か 壺	-	-	[4.4]	酸化・良好	にぶい黄橙	体部破片	内面：ハケ目。外面：ミガキ。弥生土器の壺と推定。中期後半か。
7	遺構外	確認面 B 区	弥生土器か 壺	-	-	[1.7]	酸化・やや不良	にぶい黄橙	頸部破片	外面：横位へラ描沈線。中期後半と推定した。
8	P-148	覆土	弥生土器 甕か	-	-	[2.9]	酸化・やや良好	褐	頸部?破片	内面：ナデ。外面：柳波状文 (5 本 1 組か)。/ 後期

古墳時代										
番号	遺構	出土位置	種別・器種	計測値			焼成	色調	残存状況	成・整形方法の特徴など
				口径	底径	器高				
9	SD-4	覆土	古式土師器 S 字裏	-	-	[2.4]	酸化・良好	にぶい橙	口縁部破片	口縁部横ナデ。内面：横ナデ。外面：頸部斜位ハケ目。
10	P-106	覆土	古式土師器 S 字裏	-	-	[2.5]	酸化・良好	灰褐	口縁部破片	口縁部横ナデ。内面：横ナデ。外面：頸部斜位ハケ目。
11	P-108	覆土	古式土師器 S 字裏	-	-	[3.0]	酸化・良好	浅黄橙	頸部破片	内面：ナデ。指頭痕あり。外面：頸部斜位ハケ目後、肩部横位ハケ目。
12	P-496	覆土	古式土師器 S 字裏	-	-	[3.5]	酸化・良好	灰黄褐	脚部破片	内面：へラナデか。指頭痕あり。外面：斜位ハケ目後、縦位ユビナデ。
13	SK-62	覆土	古式土師器 S 字裏	-	-	[5.4]	酸化・良好	灰黄褐	脚部破片	内面：指オサエ。端部折り返し。外面：ナデか。
14	SD-6	覆土	古式土師器 二重口縁壺か	-	-	[4.7]	酸化・やや不良	橙～赤	口縁部破片	内外面赤彩。口縁部横ナデ。内面はミガキか。器口縁部の可能性もあるか。
15	遺構外	確認面 C 区	古式土師器 小型裏	(9.3)	-	[5.8]	酸化・やや良好	にぶい黄橙	口縁～体部破片	内面：指ナデか。指頭痕あり。外面：体部上半に斜位のハケ目。
16	SK-75	覆土	古式土師器 小型裏	(9.6)	6.5	15.6	酸化・やや良好	にぶい黄褐	1/3 残	口縁部横ナデ。内面：横位ユビナデ。指頭痕あり。外面：体部上半は横斜位ハケ目。体部中位から下半はナデと思われる。下半には縦斜位のハケ目が消えきれないで残る部分がある。
17	SK-75	覆土	古式土師器 小型裏	-	(6.0)	[7.3]	酸化・良好	にぶい褐	体部 1/3 残	内面：ナデ。指頭痕あり。外面：体部上半は縦～斜位ハケ目。体部下半はナデか。
18	SK-75	覆土	土師器 ミニチュア	(4.0)	-	[3.8]	酸化・良好	橙	口縁～体部破片	手づくね成形。内面：へラナデか。指頭痕あり。外面：ナデ。指頭痕あり。
19	SK-75	覆土	土師器 ミニチュア	-	2.8	[3.2]	酸化・良好	橙	体～底部残	手づくね成形。内面：へラナデか。指頭痕あり。外面：ナデ。指頭痕あり。
20	SK-84	覆土	土師器 坏	(12.7)	-	4.7	酸化・やや良好	にぶい赤褐	1/2 残	口縁部横ナデ。内面：斜位ミガキわずかに残る。外面：底部へラケズリ。
21	P-130・131	覆土	土師器 坏	(12.8)	-	4.4	酸化・やや不良	やや粗雑	1/3 残	内面：赤彩。縦斜位ミガキわずかに残る。口縁屈曲部に指頭痕あり。外面：底部へラケズリ。口縁部は短く外反する。
22	P-130	覆土	土師器 坏	(13.6)	-	[4.4]	酸化・良好	にぶい赤褐	口縁部破片	口縁部横ナデ。内面：縦斜位ミガキ。外面：体部下半へラケズリ。指頭痕あり。
23	SK-30	覆土	土師器 坏	(10.2)	-	[5.3]	酸化・良好	明赤褐	1/3 残	口縁部横ナデ。内面：斜位ミガキ。外面：体部下半～底部へラケズリ。
24	SK-12P2	覆土上層	土師器 高坏	13.9	-	[6.9]	酸化・やや不良	橙	口縁一部・脚欠	内外面：横ナデ。
25	SK-56	覆土	土師器 坏	(13.6)	-	[3.9]	酸化・やや良好	橙	口縁部破片	内外面：口縁部横ナデ。
26	SD-1	覆土上層	埴輪	-	-	[3.3]	酸化・やや良好	明赤褐色	体部破片	内面：不明。外面：タテハケ。破損面がやや磨耗する。
27	SK-44	覆土下層	土師器 裏	(18.4)	-	[9.1]	酸化・良好	橙	口縁～体部破片	口縁部横ナデ。内面：ナデ外面：磨減のため調整不明。
28	SK-34	覆土下層	土師器 壺か	-	(11.2)	[6.7]	酸化・良好	褐	底部 1/4 残	内面：指ナデ。外面：調整不明 (へラケズリか)
29	P-496	覆土	土師器 壺	-	6.8	[5.1]	酸化・良好	明赤褐	底部残	内面：へラナデ。外面：へラナデか
30	P-496	覆土	土師器 裏	-	4.8	[14.1]	酸化・やや良好	にぶい黄褐	体～底部 1/3 残	内面：ナデ。外面：へラケズリ
31	SK31・26	覆土	土師器 裏	-	7.3	[28.3]	酸化・良好	明赤褐	頸～底部残	内面：ナデ・指オサエ。外面：頸部横位へラケズリ。体部斜位へラケズリ。底部へラケズリ
32	SK-40	覆土	土師器 裏	-	5.6	[30.9]	酸化・良好	赤褐	胴～底部残	内面：へラナデ。外面：体部縦位へラケズリ。
33	SK-86	覆土	須恵器 蓋	(14.3)	(12.7)	(7.0)	還元・良好	暗青灰	1/3 残	ロクロ整形。外面：天井部へラケズリ。頂部が扁平なツマミを貼付。体部屈曲部が沈線状にくぼむ。口縁部は短く外反する。有蓋高坏の蓋か。
34	遺構外	確認面 C 区	須恵器 坏	(13.0)	-	[2.1]	還元・良好	青灰	口縁部破片	内外面：横ナデ
35	SK-66	覆土	須恵器 高坏	-	(11.8)	[6.3]	還元・やや不良	青灰	脚部破片	ロクロ整形。長方形スガシを 2ヶ所確認できる。本来的には 3ヶ所か。
36	P-208	覆土	須恵器 不明	-	-	[3.8]	還元・良好	灰	破片	ロクロ整形。器形不明。須恵器すり鉢を想定して図化した。その場合の体部の外反具合に違和感あり。むしろ天地を逆にして、何らかの脚部とした方が理解し易いか。内外面ともに磨痕は明瞭でない。

奈良・平安時代										
番号	遺構	出土位置	種別・器種	計測値			焼成	色調	残存状況	成・整形方法の特徴など
				口径	底径	器高				
37	SI-1	床面やや上	土師器 坏	12.6	-	3.2	酸化・良好	橙	2/3 残	内面：口縁部横ナデ。体部立ち上がり指頭痕。外面：口縁部横ナデ。底部へラケズリ。
38	SI-1	覆土	土師器 壺	-	7.9	[2.4]	酸化・良好	橙	底部のみ残	内面：へラナデ。外面：へラケズリ。底部もへラケズリ。
39	SI-1	床面	須恵器 坏	(12.6)	(8.0)	3.5	還元・良好	灰	1/3 残	ロクロ整形。口縁部は若干ゆがむ。底部回転へラ切り
40	SI-1	貯蔵穴	須恵器 坏	-	(8.2)	[2.3]	還元・良好	灰白	底部破片	ロクロ整形。底部回転へラケズリ調整。
41	SI-1	覆土	須恵器 坏	-	-	[4.2]	還元・良好	暗青灰	口縁部破片	ロクロ整形。器形のゆがみが著しく、口縁部は一見すると片口状にゆがむ。
42	SI-1・2	覆土	須恵器 裏	-	-	[11.4]	還元・良好	暗青灰	体部破片	内面：ユビナデ。外面：ナデ。
43	SI-1	床面	須恵器 蓋	(12.4)	(3.6)	3.2	還元・良好	灰	1/3 残	ロクロ整形。内面：カエリは鋭利で断面三角形。口縁部内におさまる。外面：天井部へラケズリ。宝珠型ツマミ。
44	SI-1	覆土	須恵器 蓋	(11.2)	-	[1.7]	還元・良好	灰	口縁部破片	ロクロ整形。内面：カエリは鋭利で先端の断面は三角形。口縁部より突出する。口縁部の内面はほぼ水平。外面：暗緑灰色の釉薬が掛かるが、自然釉の付着と判断した。口縁部から天井部方向への傾斜が強い。
45	SI-1	覆土	須恵器 壺	(12.9)	-	[2.7]	還元・良好	灰黄褐	口縁部破片	ロクロ整形。内外面：横ナデ。

第13表 遺物観察表(2)

番号	遺構	出土位置	種別・器種	計測値			焼成	色調	残存状況	成・整形方法の特徴など
				口径	底径	器高				
46	SI-2	覆土	土師器 坏	(12.2)	-	[2.3]	酸化・良好	橙	口縁~底部破片	口縁部横ナデ。底部ヘラケズリ
47	SI-2	覆土	須恵器 埴	(14.8)	(6.2)	4.9	還元・やや不良	灰白	1/5 残・底部欠	ロクロ整形。高台貼付。
48	SI-2	覆土	須恵器 高台付皿	13.7	6.0	3.6	還元・やや良好	灰白	口縁 2/3 欠	ロクロ整形。若干ゆがむ。底部切り難し後、高台貼付。高台内を指ナデ。
49	SI-2	覆土	須恵器 高台付皿	13.0	5.8	2.7	還元・やや良好	灰白	口縁一部欠	ロクロ整形。底部回転系切り(右)後、高台貼付。
50	SI-2	覆土	須恵器 坏	-	(7.0)	[1.2]	還元・やや不良	黄灰	底部 1/3 残	ロクロ整形。底部回転系切り
51	SI-2	床下土坑	須恵器 甕	-	-	[4.6]	還元・良好	灰	口縁部破片	ロクロ整形。外面：頸部に波状文。
52	SI-2	覆土	須恵器 甕	(42.8)	-	[8.1]	還元・良好	青黒	口縁部破片	ロクロ整形。
53	SI-1・2	覆土	土師器 埴	-	-	[3.0]	酸化・良好	黄橙	口縁部破片	口縁部横ナデ。内外面：縦斜位のミガキ
54	SI-1・2	覆土	土師器 甕	-	-	[3.6]	酸化・やや不良	にぶい橙	口縁部破片	口縁部横ナデ。外面：頸部に指頭痕あり。
55	SI-1・2	覆土	須恵器 坏	-	(7.8)	[1.9]	還元・やや良好	灰白	底部 1/2 残	ロクロ整形。内面：見込みが極めて平滑になる。転用碗の可能性もあり。外面：底部回転系切り後、周縁を回転ヘラケズリ調整。
56	SI-3	覆土	土師器 甕	-	-	[4.8]	酸化・やや良好	明赤褐	口縁部破片	口縁部横ナデ。
57	SI-3	床下土坑	土師器 坏	-	(6.6)	[2.0]	酸化・良好	明赤褐	底部破片	ロクロ整形。底部回転系切り。
58	SI-3	床下土坑	須恵器 埴	-	-	[4.0]	還元・やや不良	黄灰	口縁部破片	ロクロ整形。
59	SI-3	覆土	土師器 埴	-	(6.2)	[2.1]	酸化・やや不良	にぶい橙	底部破片	ロクロ整形。底部切り難し後、高台貼付。
60	SI-4	覆土	土師器 甕	-	-	[5.0]	酸化・良好	にぶい赤褐	口縁部破片	口縁部横ナデ。外面：頸部下ヘラケズリ
61	SI-4 周辺	覆土	土師器 甕	-	-	[4.5]	酸化・やや不良	にぶい赤褐	口縁部破片	口縁部横ナデ。外面：頸部下ヘラケズリ
62	SI-4 周辺	覆土	羽釜	-	-	[2.4]	酸化・良好	にぶい橙	鋳部破片	内外面：ナデ。鋳部貼付。
63	SI-4	覆土	土師器 埴	-	(6.0)	[2.2]	酸化・やや不良	にぶい橙	底部破片	ロクロ整形。外面：底部切り難し後、高台貼付。
64	SK-45	覆土	土師器 坏	(13.2)	-	5.3	酸化・良好	橙	2/3 残	口縁部横ナデ。外面：体部下半~底部ヘラケズリ。
65	SK-45	覆土	灰釉陶器 碗	-	(8.2)	[3.2]	良好	灰白	底部 1/3 残	内面：施釉。見込みは釉なし。重ね焼き痕あり。外面：施釉。底部回転系切り(右)後、高台貼付。
66	SK-47	覆土	須恵器 坏	(13.2)	(6.2)	[3.4]	還元・やや良好	灰白	口~底 1/4 残	ロクロ整形。口唇部と内面に黒色付着物あり。油煙か。
67	SK-63・64	覆土	土師器 甕	(11.6)	(7.8)	3.0	酸化・良好	橙	1/5 残	口縁部横ナデ。内面に黒色付着物あり。
68	SK-56	覆土	土師器 坏	7.3	4.9	2.4	酸化・やや不良	浅黄橙	ほぼ完形	ロクロ整形。底部回転系切り。カワラケの可能性もあるか。
69	SK-62	底面	黒色土器 埴	(10.6)	5.5	4.6	酸化・やや良好	浅黄橙	口縁部 4/5 欠	ロクロ整形。内面：ミガキ。黒色処理。外面：底部切り難し後高台貼付か。
70	SK-62	覆土	須恵器 埴	-	(6.7)	[1.9]	還元・やや良好	灰白	底部 1/2 残	ロクロ整形。底部切り難し後、高台貼付。
71	SK-72	覆土	土師器 坏	(12.4)	(8.2)	3.6	酸化・良好	橙	1/4 残	口縁部横ナデ。内面：指頭圧痕あり。外面：体部下半~底部ヘラケズリ。
72	SK-77	覆土	土師器 坏	(10.0)	(5.6)	2.8	酸化・やや不良	にぶい黄橙	1/4 残	ロクロ整形。底部系切り。
73	SK-52	覆土	須恵器 甕	-	-	[9.4]	酸化気味・良好	にぶい黄橙	体部破片	内面：青海波当て具痕。一部指ナデ。外面：平行タタキ。
74	SK-66	覆土	須恵器 坏	-	6.3	[1.8]	還元・やや良好	青灰	底部残	ロクロ整形。底部回転系切り(右)。
75	SK-90	覆土	須恵器 坏	(14.0)	(6.0)	4.3	酸化気味・やや良好	にぶい橙	1/3 残	ロクロ整形。底部回転系切り。断面図では一見すると高台があるように見えるが、この部分は底部にある指頭圧の窪みに由来しており、高台ではない。
76	SK-93	覆土	須恵器 埴	(14.4)	(5.8)	5.3	還元・やや良好	暗灰	1/4 残	ロクロ整形。底部切り難し後、高台貼付。
77	P-130・131	覆土	灰釉陶器 段皿	-	-	[1.9]	やや良好	灰白	底部破片	内面：施釉。見込みは釉なし。外面：施釉。底部切り難し後、高台貼付。
78	P-663	覆土	緑釉陶器 碗	-	-	[1.7]	良好	オリブ灰	口縁部破片	内外面：施釉。釉調は光沢のある淡い暗緑灰色。胎土は硬質で黄灰色を呈する。
79	SD-1	覆土上層	土師器? 坏	(11.8)	(10.2)	1.8	酸化・良好	にぶい橙	1/5 残	口縁部横ナデ。底部回転系切り。口縁部ゆがみのため、復元径が大きくていっている可能性あり。
80	SD-1	覆土下層	羽釜	-	-	[4.7]	還元・良好	灰	口縁部破片	ロクロ整形。鋳部貼付。
81	SD-4	覆土	須恵器 甕	-	-	[7.7]	還元・やや良好	灰黄	体部破片	内面：当て具痕。外面：平行タタキ。破損面は摩耗する。
82	SD-4	覆土	須恵器 台付長頸甕か	-	-	[7.9]	還元・やや不良	黄灰	体部下半 1/3 残	ロクロ整形。外面：カキ目。内面：指頭痕あり。
83	遺構外	確認面 D・E 区	須恵器 高盤	(25.2)	-	[3.5]	還元・やや不良	灰白	口縁部破片	ロクロ整形。外面：カキ目
84	遺構外	確認面 E 区	須恵器 香炉脚か	-	-	[1.6]	還元・やや良好	灰白	破片	本体部からの剥離。何らかのツマミの可能性も考えたが、先端部がわずかに摩耗していることと、剥離部外面の体部への取り付け具合から、脚部と判断した。
85	遺構外	攪乱	平瓦	-	厚1.3cm	-	還元・やや良好	灰黄褐	破片	凹面：布目。凸面：一部指ナデ。

中世

86	SD-4・SK-11・SK-19	覆土	軟質陶器 内耳鍋	(28.8)	(20.5)	16.7	還元・良好	黒褐	1/2 残	内外面：横ナデ。頸部に指頭痕。燻し。底部は丸底で中心部がわずかに出っ張る。口唇部は中央がわずかにくぼみ、内側端部が低い。頸部内面には明瞭な段がある。内耳は粘土紐の貼付のみ。
87	SK-64	底面	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[9.8]	還元・良好	灰黄褐	口縁部破片	内外面：ナデ。燻し。内耳は粘土紐の貼付。口唇部は平坦で、外側端部は突出する。頸部内面には緩やかな段がある。口径を復元すれば直径 24cm 程度になる。当初 SK-63 の No で記録したが SK-64 の帰属は明確。
88	SK-63・64	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[3.7]	酸化・良好	黒褐	口縁部破片	内外面：横ナデ。燻し。
89	SD-3	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[3.2]	酸化・良好	にぶい褐	口縁部破片	内外面：横ナデ。燻し。口唇部中央はわずかにくぼむ。
90	P-409	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[2.2]	還元・良好	黄灰	口縁部破片	内外面：横ナデ。口唇部内端が突出する。
91	P-205	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[5.5]	還元・良好	黄灰	口縁部破片	内外面：横ナデ。頸部内面は有段か。
92	遺構外	確認面 B 区	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[2.2]	酸化・良好	黒褐	口縁部破片	内外面：ナデ。燻し。
93	P-699	覆土	軟質陶器 内耳鍋	(28.0)	-	[3.1]	酸化・良好	黒褐	口縁部破片	内外面：横ナデ。燻し。口唇部中央はわずかにくぼみ、内側端部がわずかに突出する。
94	遺構外	表土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[4.8]	酸化・良好	にぶい赤褐	口縁部破片	内外面：ナデ。燻し。頸部内面には有段と推定され、外面の対応する位置には枕線状のくぼみがある。口唇部の中央はわずかにくぼむ。
95	遺構外	確認面 D 区	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[5.6]	還元・やや良好	青灰	口縁部破片	内外面：横ナデ。頸部内面は有段か。
96	遺構外	確認面 C1 区	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[4.0]	酸化・良好	暗灰	口縁部破片	内外面：横ナデ。口唇部中央がわずかにくぼむ。
97	SK-70	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[6.1]	還元・良好	灰黄褐	頸部破片	内外面：横ナデ。頸部内面は有段になる。
98	P-174	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[3.7]	還元・良好	黄灰	頸部破片	内外面：横ナデ。頸部内面の屈曲は緩い段状。
99	SK-99	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[5.1]	酸化・良好	黒褐	体部破片	内外面：ナデ。燻し。
100	SI-4 周辺	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[3.2]	酸化・良好	黒褐	体部破片	内外面：ナデ。燻し。
101	P-405	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[8.4]	還元・不良	黒褐	体部破片	内面：ナデか。指頭痕あり。外面：ナデ。燻し。
102	P-125	覆土	軟質陶器 内耳鍋	-	-	[5.0]	還元・良好	褐灰	体部破片	内外面：ナデ。燻し。
103	SK-24	覆土	軟質陶器 内耳鍋か	-	-	[3.8]	酸化・良好	灰褐	底部破片	内外面：横ナデ。底部ヘラケズリ。
104	SD-6	覆土	軟質陶器 すり鉢	-	-	[4.9]	還元・良好	青灰	口縁部破片	内外面：横ナデ。内面に卸目はないが、良く磨られる。

第 14 表 遺物観察表 (3)

番号	遺構	出土位置	種別・器種	計測値			焼成	色調	残存状況	成・整形方法の特徴など
				口径	底径	器高				
105	SK-86	覆土	軟質陶器 すり鉢	-	-	[4.8]	還元・良好	黄灰	口縁部破片	外面：横ナデ。内面：磨痕は明瞭ではないが、卸目（5本以上1組か）が残る。口縁部は緩く内湾して立ち上がり、口唇部は玉縁状に折り返され、その頂部を平坦にナデつける。あえて口径を復元すれば、30.5cm 程度になる。
106	遺構外	確認面 C2 区	軟質陶器 すり鉢	-	-	[2.4]	還元・やや良好	灰白	体部破片	内面に卸目（3本以上1組）があるが、磨痕は明瞭でない。
107	遺構外	確認面 B 区	軟質陶器 すり鉢	-	-	[2.9]	酸化・良好	褐灰	体部下破片	内外面：横ナデ。内面に卸目（5本以上1組）があるが、磨痕は明瞭でない。
108	SK-97・98	覆土	軟質陶器 すり鉢	-	-	[6.2]	酸化・良好	にぶい黒褐	体部下破片	外面：ナデ。指頭痕あり。内面：比較的よく磨られている。湾曲した卸目（5本以上1組）がある。内外面均しか。
109	P-402	覆土	在産地 すり鉢	-	(8.6)	(5.9)	瓦質・良好	青灰	底部破片	外面：指頭痕明瞭。底部は回転糸切り。内面：非常に良く磨られている。卸目は確認できない。
110	SB-10・P2	覆土	カワラケ	11.1	6.5	2.7	酸化・良好	橙	口縁一部欠	ロクロ整形。内面：見込み螺旋状指ナデ。外面：底部回転糸切り（左）。
111	SB-10・P2	覆土	カワラケ	10.8	6.0	2.7	酸化・良好	橙	口縁一部欠	ロクロ整形。内面：見込み螺旋状指ナデ。外面：底部回転糸切り（左）。
112	SB-10・P2	覆土	カワラケ	10.9	6.6	2.6	酸化・良好	橙	口縁一部欠	ロクロ整形。内面：見込みに指ナデ。中心部が窪む。外面：底部回転糸切り（左）。糸切り後、ナデ消しか。極めてわずかに板目状の圧痕あり。
113	SB-10・P2	覆土	カワラケ	10.5	6.3	2.7	酸化・良好	橙	口縁一部欠	ロクロ整形。ゆがむ。内面：見込みに指ナデ。外面：底部回転糸切り。糸切り後、ナデ消しか。板目状圧痕あり。
114	SB-10・P2	覆土	カワラケ	10.7	(6.8)	2.7	酸化・良好	橙	1/3 欠	ロクロ整形。内面：見込み指ナデ。外面：底部回転糸切り（左）。糸切り後、弱いナデ消しか。
115	SK-30	覆土	カワラケ	-	-	[0.7]	酸化・良好	橙	底部破片	内面：見込み螺旋状指ナデ。外面：底部回転糸切り（左）。
116	P-145	覆土	カワラケ	(8.8)	(5.2)	2.0	酸化・良好	褐灰・黄橙	1/3 欠	内面：ナデ。外面：横ナデ。底部回転糸切り（左）。
117	SD-1	覆土上層	陶器 碗	-	(4.2)	[2.2]	良好	暗オリーブ褐	底部破片	内面：鉄釉。外面：露胎。胎土は灰黄白色。近世
118	SD-1	覆土上層	陶器 皿か	(12.6)	-	[1.7]	良好	灰白（淡緑気味）	口縁部破片	内外面：灰釉。胎土は白味のある淡黄褐色。
119	SK-44	覆土	陶器 皿か	(11.4)	-	[2.2]	良好	にぶい赤褐	口縁部破片	鉄釉。内外面施釉。胎土は淡い橙褐色。口縁は弱く反る。瀬戸美濃か。
120	P-145	覆土	陶器 皿か	-	-	[2.2]	良好	オリーブ灰	体部破片	内面：施釉。一部露胎。外面：施釉。一部露胎。釉薬は白味のある淡緑色。灰釉か。軸調が No.122 に似る。胎土は灰白色主体で部分的に淡褐色を呈する。
121	SK-86	覆土	染付 碗	(10.2)	-	[2.5]	良好	灰	口縁部破片	外面：呉須絵付け。暗青色。貫入多い。胎土は灰白色。肥前染付と判断。
122	SK-18	覆土	陶器 壺	-	-	[6.9]	良好	明オリーブ灰	頸部破片	内面：釉なし。外面：施釉。灰釉か。白味のある淡緑色。胎土は淡い橙褐色。
123	SK-52	覆土	白磁 皿	-	<3.0>	[1.0]	良好	白	底部破片	素地はわずかに黄色味をおびた白色。図の高台部破線は推定部分。
124	SD-1	覆土下層	焼締陶器 甕	-	-	[6.9]	良好	灰オリーブ	肩部破片	内面指ナデ。胎土は白味のある灰黄色。外面は淡緑色の自然釉が掛かり斑状になる。軸下に見える地肌は、にぶい赤褐色。常滑。
125	SK-24	覆土	焼締陶器 甕か	-	-	[3.3]	良好	にぶい赤褐	胴部破片	内外面：ナデ。胎土は白味のある灰黄色。常滑。

石製品

番号	遺構	出土位置	種別・器種	計測値			重量	色調	残存状況	成・整形方法の特徴など
				長	幅	厚				
126	SK-61	覆土	石製模造品 有孔円盤	(1.6)	2.3	0.4	[2.1]	黄灰	約 1/2	滑石。2孔が穿たれる。
127	SI-2	床面	石製紡錘車	4.2	4.3	2.0	53.9	暗青灰	完形	石材不明。側縁に放射状の線刻が、天面に記号状の線刻がわずかに残る。
128	SK-82	覆土	砥石	(7.3)	5.5	3.8	[127.5]	灰黄	一部破損	石材不明。小口面以外を使用。筋状の削痕があり、刃研ぎ痕と考えられる。
129	P-380	覆土	砥石	(7.0)	2.7	2.2	[77.4]	灰白	一部破損	石材不明。小口面を含め、全面使用される。浅く平行する筋状の削痕がある。刃研ぎ痕か。
130	P-480	覆土	砥石	[10.7]	3.0	2.9	[99.6]	灰白	一部破損	石材不明。小口面以外を使用。筋状の削痕があり、刃研ぎ痕と考えられる。他、断面逆コマゴ状の研ぎ痕あり。
131	SK-19	覆土下層	刃研ぎ石	[12.9]	[12.6]	5.7	[1045.3]	褐灰	一部破損	断面三角形の鋭い細溝が残り、刃物を研ぐために使用したか。煤の付着が顕著で、二次被熱と考えられる。
132	SK-76	覆土	磨石	10.9	10.7	3.0	553.4	黒褐	完形	偏平で円形気味の磨石。偏平面が磨られる。二次被熱。
133	SK-63	覆土中層	磨石	5.3	5.0	4.4	137.0	黄褐	完形	球状の磨石。全体的に磨られるが明瞭でない。
134	SK-6	覆土	碁石（白石か）	1.5	1.5	0.5	1.4	青灰～明黄褐	完形	偏平で円形気味の形状。色調は白味がある。
135	SK-63	No.2・3	穀物臼（下臼）	-	[22.7]	8.5	[3050]	青灰	約 1/4 破片	破片 2 個の接合あり。縁欠きあり。挽き目はわずかに残るが、分画は不明。軸穴は貫通する。二次被熱か。
136	SK-86	覆土	穀物臼（下臼）	-	[17.2]	8.5	[3170]	灰黄褐	約 1/3 破片	破片 2 個の接合あり。縁欠きあり。挽き目は不明。軸穴は貫通する。二次被熱あり。
137	SK-63	覆土中層	茶臼（下臼）	-	[9.1]	4.9	[430.9]	灰	受け皿破片	安山岩。縁はわずかに丸みを帯びる。復元径は約 31cm。
138	SK-63	覆土下層	茶臼（下臼）	-	[5.4]	4.4	[151.3]	青灰	受け皿破片	安山岩。漆状の黒色皮膜が付着する。別に破損面にはコールドール状の付着物あり。二次被熱か。
139	SK-86	覆土	板碑	[18.9]	[13.2]	2.9	[1117.0]	緑黒	破片	緑泥片岩。側縁が残る。枠線は不明。種子も不明。
140	SK-86	覆土	板碑	[15.2]	[13.4]	1.4	[442.6]	オリーブ灰	破片	緑泥片岩。側縁が残る。枠線は不明。不明瞭な種子が複数あり、光明真言の一部と考えられる。
141	SK-86	覆土	板碑	[15.7]	[7.2]	[0.95]	[133.7]	青灰	破片	緑泥？片岩。剥離破片か。種子は不明。
142	SK-86	覆土	板碑	[6.4]	[4.4]	[0.5]	[22.6]	オリーブ灰	破片	緑泥片岩。剥離破片。蓮弁と種子が部分的に残る。阿弥陀三尊の脇待種子か。
143	SD-3	覆土	板碑	[9.4]	[7.1]	[0.8]	[68.7]	青灰	破片	緑泥？片岩。剥離破片か。種子は不明。

銭貨

番号	遺構	出土位置	種別・器種	計測値			重量	色調	残存状況	成・整形方法の特徴など
				長	幅	厚				
144	SK-18	底面	銭貨	2.4	2.4	0.1	2.6	暗緑灰	完形	「元祐通宝」 星形孔
145	SK-23	覆土	銭貨	2.5	2.5	0.1	3.1	暗緑灰	完形	「永楽通宝」
146	P-349	覆土	銭貨	2.4	2.4	0.1	1.8	暗緑灰	完形	「至道元宝」
147	SD-6	覆土	銭貨	2.4	2.4	0.1	2.5	緑灰	完形	「天聖元宝」
148	SD-6	覆土	銭貨	2.3	2.4	0.1	2.4	緑灰	完形	「祥符元宝」
149	P-543	覆土	銭貨	2.4	2.4	0.1	3.0	暗緑灰	完形	「永楽通宝」

Ⅶ. まとめ

はじめに 本遺跡では多くの遺構が検出された。これらは古墳時代～中世に帰属すると考えられる。ただし、古墳～奈良・平安時代の遺構は少なく、中世の遺構が主体であると考えた。ここでは中世に帰属する遺構について若干の整理を試み、本遺跡の性格についてまとめる。

ピットの性格と時期 本遺跡で検出した遺構は、土坑とピットが大部分を占める。ピットの深度は一定しないが、30cm以上の掘り込みが約4割を占めることなどから、柱穴としての性格が考えられる。土坑として調査した遺構の中にも、柱穴と考える小規模なものが含まれており、本遺跡で検出した遺構の大部分が柱穴とみられる。個々の柱穴の帰属時期は明確にし難く、それは遺構覆土へのAs-B混入の把握ができなかったことによる。さらに出土遺物からの時期判断も、短絡的にはできない状況であった。つまり、ほとんどの出土遺物が古墳～奈良・平安時代の土器破片で占められ、いずれも小破片、ないし極小破片が主体であることから、これらを流れ込みの遺物と考えたのである。接合率も極端に低かった。一方で、一部の柱穴からは内耳鍋やすり鉢、カワラケや古銭などの中世遺物が出土しており、中世に帰属する遺構が存在することがわかった。このことは、遺跡から出土する近世以降の遺物が僅少であり、攪乱や近世以降の遺構もほぼ存在しないことから、中世遺物がそれ以降の遺構に混入する可能性は低い、と考えたことによる。また、柱穴は円形気味の平面形態が多いが、少なからず方形または方形気味のものも存在した。そして、この方形柱穴を中世の特徴のひとつとしてとらえた。このように、わずかな出土遺物と柱穴の平面形態から、今回調査した柱穴群には中世に帰属するものが含まれると考えることができた。そして、これらの検出状況からみて、柱穴の大部分を中世の帰属と判断した。

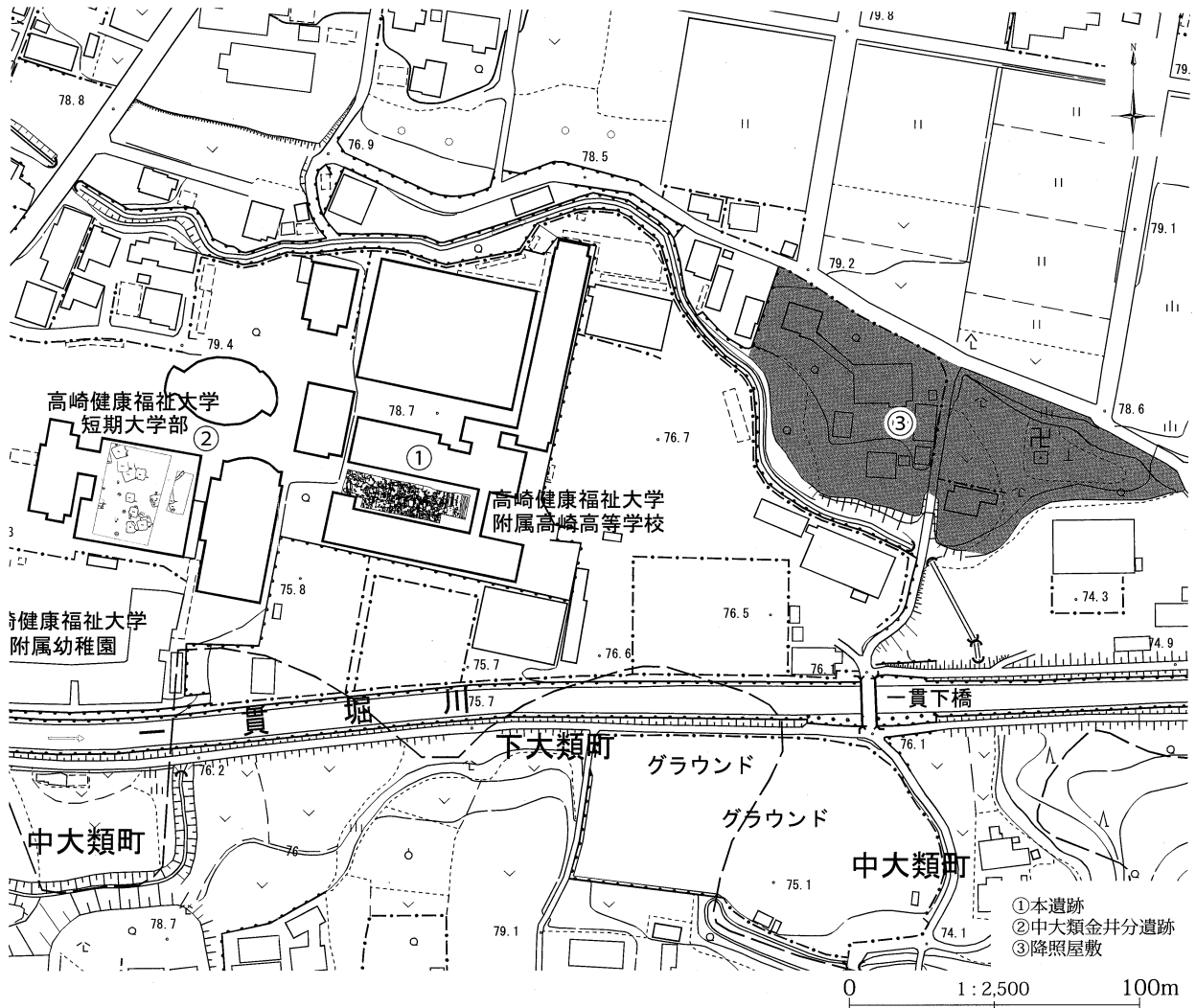
SD-1の時期 SD-1は調査区東端部で検出した溝である。東側が調査区外となるため、その全幅は不明である。仮に全体の半分程度を検出したとすれば、上幅約4mの薬研堀状の断面形態と推測できる。しかし、底面では東壁の立ち上がりを検出しておらず、推測した上幅は、最低限の想定幅である。

一方、覆土混入の白色軽石がAs-Aであれば、遺構上位の埋没は近世後半以降である。これは上層から近世陶磁器が出土したと矛盾しない。さらに下層では白色軽石の混入がなく、近世以降の遺物が出土しないことを考慮すれば、下位の埋没はそれ以前とみられる。下層出土遺物の中では焼締陶器が最も新しいことから、本遺構の帰属時期をこれに求めたい。この遺物は常滑焼の甕破片と考えられ、肩部小破片のため詳細な時期判断をしがたいが、大枠で中世の帰属と考えた。

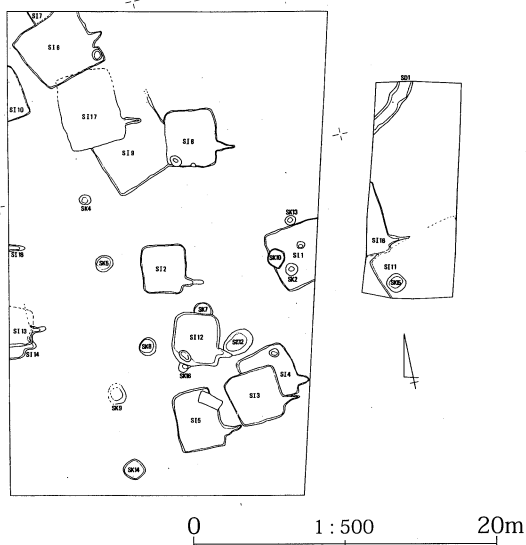
本遺跡の性格 以上のようにSD-1と多量の柱穴が、中世に帰属すると判断した。そして調査区内でのこれらの検出状況からみて、本遺跡を中世の屋敷跡であると考えた。つまり、SD-1が屋敷を囲む堀であり、多数の柱穴が存在する部分を屋敷内部として判断した。そして多数の柱穴の中には掘立柱建物を構成するものが存在する。またSD-1西隣は遺構密度が比較的希薄であり、攪乱と判断したP-704～708・SK-101や、中世以前の可能性のあるP-710・711を除外すれば、その希薄さがさらに際立つ。このことからSD-1西側に土塁の存在を想定してよければ、中世屋敷跡の可能性を補強できる。全体的にみれば、堀・土塁(想定)・建物の諸属性を把握することができる。

出土遺物、そして中世屋敷跡の年代 中世遺物の出土は少なく、小破片が主体である。カワラケの他、内耳鍋やすり鉢などの在産軟質陶器、穀物臼や茶臼、板碑などの石製品類、古銭などが出土した。これらの出土から中世遺構の存在が判明したのだが、詳細な時期を判断できる遺物は少ない。そこで、形態的特徴のわかる内耳鍋破片を主に検討し、屋敷跡の年代として把握したい。

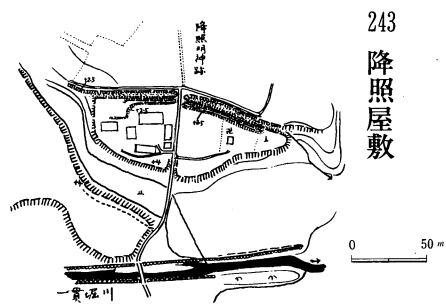
まずSD-4から出土した内耳鍋(No.86)がある。出土破片の接合により、全形が分かる程度に復元された。一部SK-19出土破片も接合するが、この破片は遺物取り上げ時の混合の可能性があり、本来的にはSD-4に帰属した可能性がある。この内耳鍋は、口縁部が比較的長めで、わずかに内湾気味に外傾する。口唇部中央はわずかにくぼむ。口唇部外端は鋭角な断面三角形形状だが、その端部はやや丸味を帯びる。逆に、口唇部内端は鋭角に屈曲し、外端部よりわずかに低い。頸部内面には明瞭な段がある。底部は丸底であり、その中央部がわずかに突出する。こうした特徴は、秋本太郎氏による分類(秋本2005)の「C群2類」または「D群1類」に類似すると考え



第31図 調査区の周辺図



第32図 中大類金井分遺跡全体図
(高崎市遺跡調査会『中大類金井分遺跡』1992)



第33図 降照屋敷
(山崎『群馬県古城壘址の研究』上巻1971)

られ、編年図では前者が「15世紀末～16世紀初頭?」、後者に「16世紀前半～中葉?」の年代を考慮されている。一方、SK-64底面からは内耳鍋の口縁部が出土している。破片であるが、本遺跡出土の内耳鍋破片の中では、最も大きいものである。口縁部は比較的長めで、わずかに内湾気味に外傾する。口唇部は平坦で、外端部が断面三角形に突出する。頸部内面には段があるが、丸味を帯びる。これらの特徴から秋本氏による「D群」に該当し、底部形態は不明であるが、仮に平底であれば「2類」に相当しよう。「D群」は16世紀代におさまるようであり、「D群2類」は「16世紀後半?」とされている。その他の内耳鍋口縁部破片資料をみると、一部に古手の印象をもつ破片もあるが、全体的にはNo.89・92・91などのように「D群」相当の破片が多いようである。またNo.94は「C群2類」に類似すると思われる。このように見れば、内耳鍋の時期的主体は16世紀代にあると考えられる。

他に、遺跡からはわずかな陶磁器類の出土があるが、小破片のため時期判断に至っていない。また、SB-10・P2からカワラケ5個体の一括資料が出土している。こちらの検討も行っていないが形態的には16世紀代のように思える。すり鉢の破片は全て小破片であり、全形のわかるものはない。卸し目のある個体が含まれており、いずれも15世紀後半以降であろうか。

このように、出土遺物の時期的様相は16世紀代にあると考えられ、15世紀後半頃まで遡る可能性もある。いずれにせよ、少数かつ小破片の資料からの判断であり、限界性がある。ただし、ここではこれらの出土遺物の年代観に拠り、中世屋敷跡の年代を16世紀代主体として判断しておきたい。

屋敷跡の範囲 それでは屋敷跡の規模はどの程度であったのだろうか。SD-1が内部を囲む堀とする前提で、本遺跡の周辺地形をあわせて考えてみたい。本遺跡は井野川右岸の微高地上に位置する。自然堤防と考えられ、周囲には田園が広がる。この微高地の北側には小流路があり、谷状の地形となっている。南側では学校校舎の南面が比高差約3mと低くなっており、一貫堀川が流れる。東側は学校グラウンドになっているが、約2mの比高差で低くなっている。旧地形は判然としないが、さらに東側の井野川方面へと低く傾斜していたと思われる。このように、本遺跡の存在する微高地には、北・東・南の三方に地形的な変換点がある。屋敷の範囲はこうした地形に制約されたと考えられ、おのずとその範囲内に築造されたと推測できる。それでは西側の範囲はどうであろうか。微高地自体は西側道路をこえるまで連続しており、屋敷地を制約するような地形の変化はない。しかし、かつて調査された中大類金井分遺跡では、中世に帰属する遺構・遺物が報告されておらず、その全体図を見てもピット群などは確認できない。よって、本遺跡の屋敷跡の範囲は、この金井分調査区まで及んでいないと判断できる。このことから本遺跡の範囲を推定することができ、それはSD-1を起軸としてほぼ100m四方の範囲におさまる。これは最大範囲の推定であり、実際はそれを下回る規模の可能性もある。本遺跡の南西約1.5mに位置する下村北遺跡では、一辺約50m規模の屋敷跡（下村北屋敷）の調査事例がある。

本遺跡の中世屋敷跡 以上みてきたように、本遺跡は中世の屋敷跡と考えられる。そしてわずかな出土遺物により、16世紀代を主体とする時期に機能したと考えた。構造的には上幅約4m以上の堀に囲まれ、状況的な推測からは、土塁が存在した可能性もある。それらの内部には多数の柱穴があり、掘立柱建物も建てられていた。井戸は検出されていないが、調査区外に存在するのであろう。土坑の中には中世に帰属するとみられるものもあるが、その性格は明らかでない。複数条を検出した溝は、中世の帰属と考えられるものについては南北方向であり、何らかの区画溝であった可能性がある。そしてこの屋敷の範囲は最大でも約100m以内と考えられ、井野川に望む微高地の先端に位置する。

おわりに 本遺跡では中世以前には奈良・平安時代の集落が形成されていた。さらに、それ以前の古墳時代の集落も想定でき、わずかながら古墳時代前期の遺構も存在する。これらの痕跡は中世屋敷の築造により損なわれたと考えられるが、断片的にせよ、その存在を把握することができた。中世屋敷跡については、その内部施設の検討は行っておらず、隣接する降照屋敷との関係性も含め、今後検討の余地を残した。ここでは本遺跡での調査成果を雑駁にまとめたが、高崎市域、ひいては大類地域の歴史を考える上で、本遺跡の再検討が望まれる。

(参考文献) 秋本 太郎 2005「上野と周辺地域との関係—在地土器の分布論から探る—」『海なき国々のモノとヒトの動き—16～17世紀における内陸部の流通—』内陸遺跡研究会



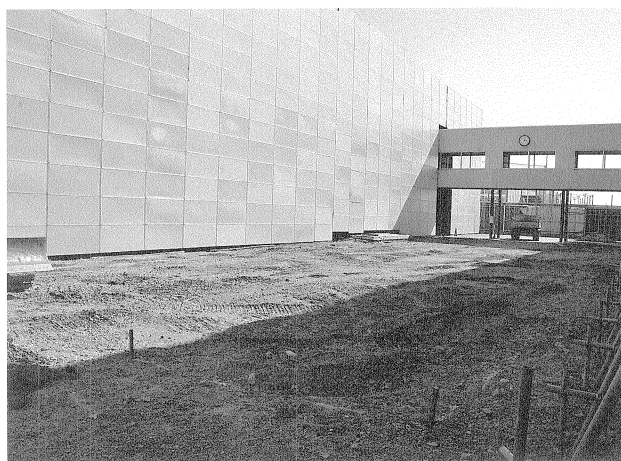
調査区全景（上が北）



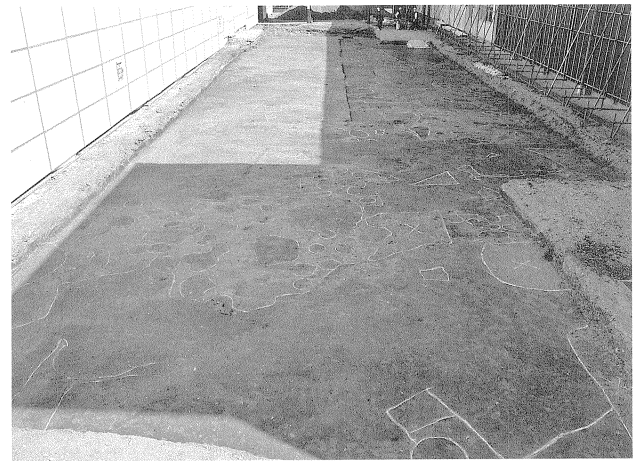
調査区遠景（西から）



調査区遠景（東から）



調査前現況（南西から）

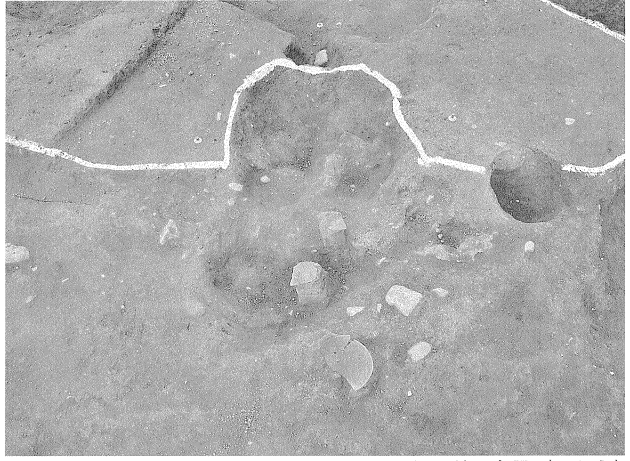


遺構確認状況（西から）

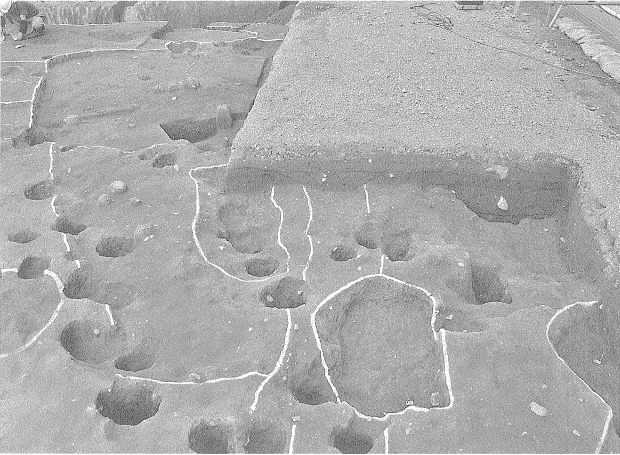
写真図版 2



SI-1 全景 (西から)



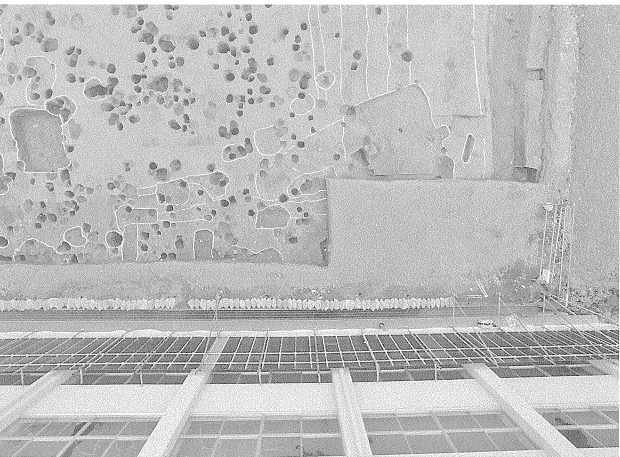
SI-1 カマド 全景 (西から)



SI-2 周辺 全景 (西から)



SI-3・4 周辺 全景 (西から)



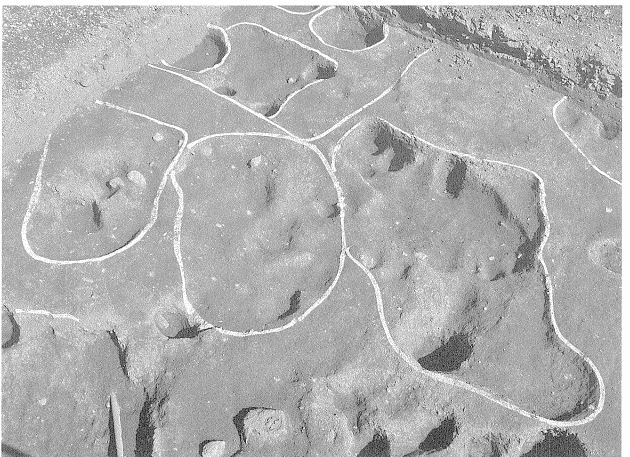
SI-1 ~ 4 周辺 全景 (上から北)



SB-3 周辺全景 (西から)



SB-9 周辺全景 (東から)



SK-13 周辺 (南から)



SK-18 全景 (東から)



SK-18 遺物出土状況 (東から)



SK-31 遺物出土状況 (東から)



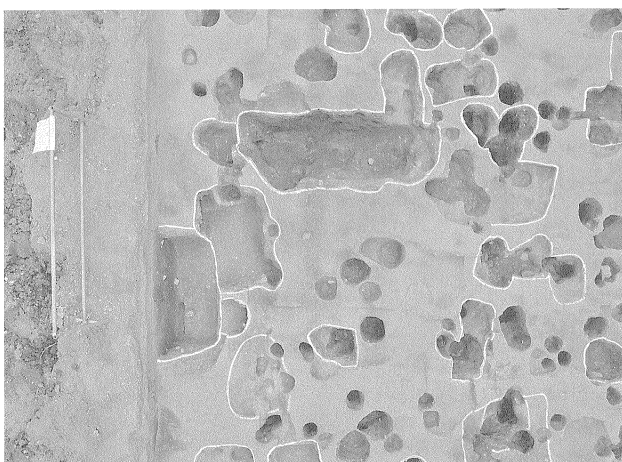
SK-44・45 調査状況 (南から)



SK-62 遺物出土状況 (東から)



SK-63・64 全景 (南から)

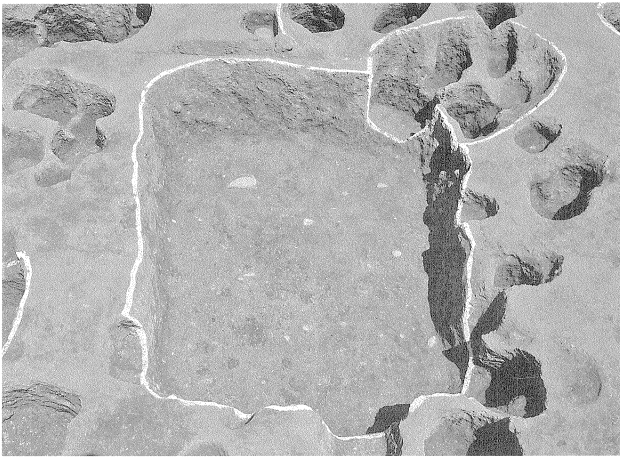


SK-63・64 周辺 (左が北)

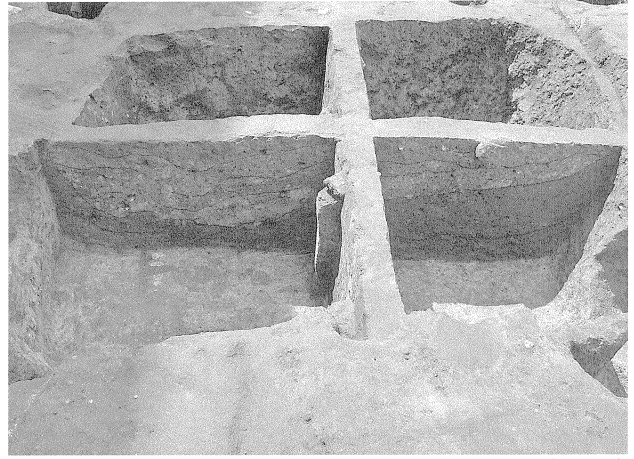


作業状況 (西から)

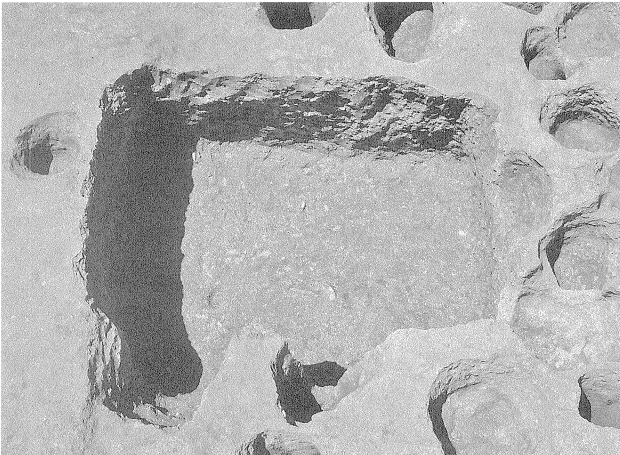
写真図版 4



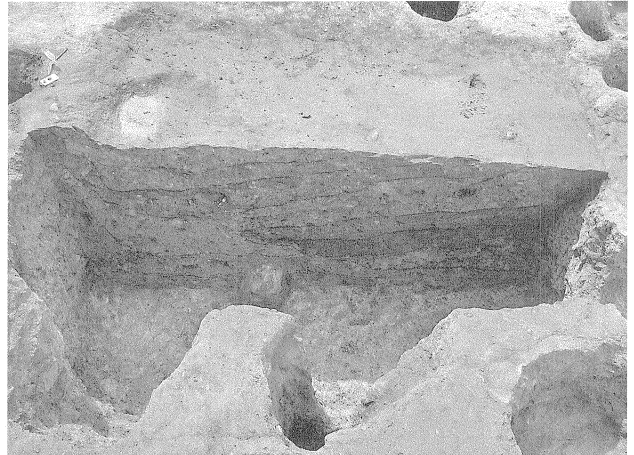
SK-86 全景 (南から)



SK-86 土層断面 (東から)



SK-99 全景 (東から)



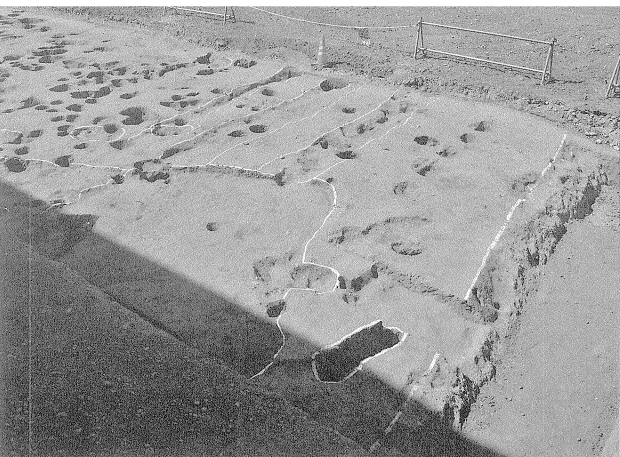
SK-99 土層断面 (東から)



SD-1 全景 (南から)



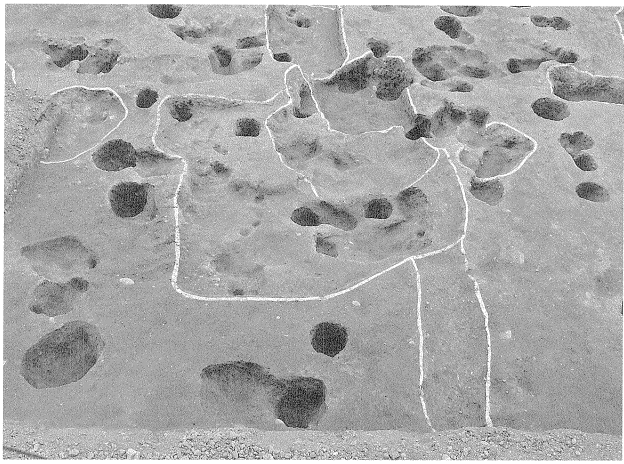
SD-1 土層断面 (南から)



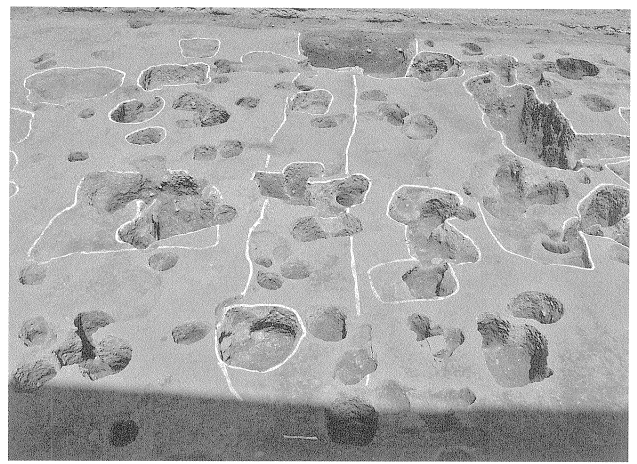
SD-2・3 周辺 (南東から)



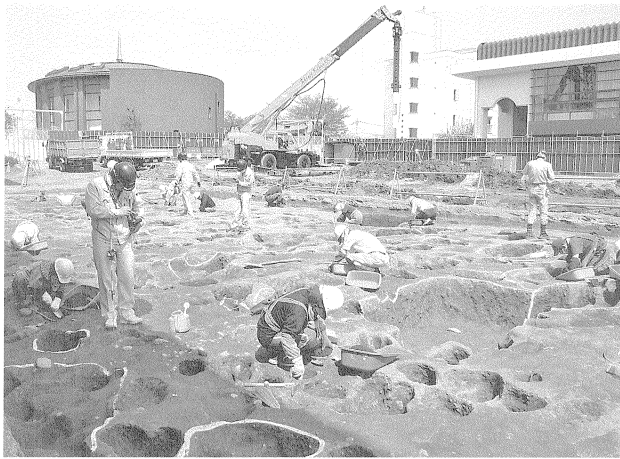
SD-4 遺物出土状況 (南から)



SD-5 周辺 (南から)



SD-6 周辺 (南から)

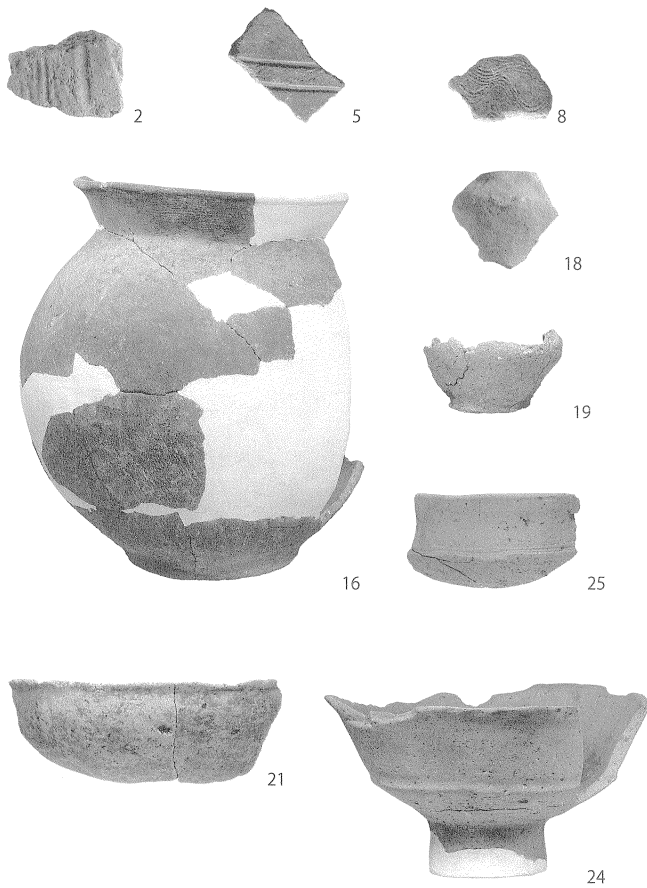


作業状況 (南東から)



調査終了時の状況 (南東から)

出土遺物 (1)



31

写真図版 6

出土遺物 (2)





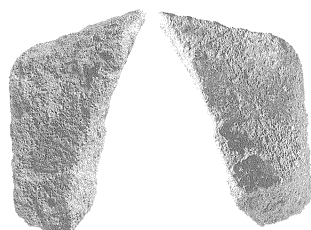
137



142



86



138



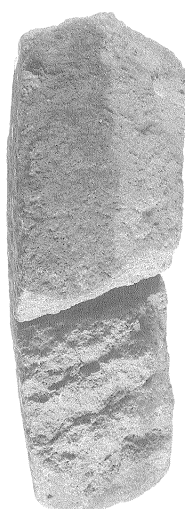
140



135



136



発掘調査報告書抄録

ふりがな	なかおおるい・あまだいせき
書名	中大類・天田遺跡
副書名	校舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	—
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第290集
編著者名	田口 一郎 高林 真人 水谷 貴之 (編)
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町 35-1
発行年月日	2011年12月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかおおるい 中大類・ あまだいせき 天田遺跡	たかさきしなかおおるいまち 高崎市中大類町 ばんち 530番地ほか	102020	500	36° 19' 22"	139° 03' 37"	2011.03.28～ 2011.04.28	約445㎡	校舎建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中大類・天田遺跡	集落 屋敷	古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝 ピット	古式土師器 土師器 須恵器 陶磁器 軟質陶器	中世屋敷跡を発掘調査した。遺跡全体では古墳時代前期～平安時代の遺物が多く出土したが、遺構は少ない。

要約	<p>中大類・天田遺跡は高崎市の南東部、井野川右岸の微高地に位置する。発掘調査は校舎建設に伴い実施され、調査面積は約445㎡である。調査の結果、竪穴住居跡・溝・土坑・ピットなどの遺構が検出された。特にピットは712基以上検出され、これらの多くが柱穴であったと考えられる。多数のピットの中から、掘立柱建物跡を構成する可能性が高いものを抽出し、本報告書では10棟分を掲載している。本遺跡は中世の屋敷跡と考えられ、SD-1溝が区画のための堀と考えた。よってピット群が検出された部分を、屋敷の内部として判断した。中世の出土遺物は少ないが、カワラケの他、内耳鍋やすり鉢などの在産軟質陶器、穀物臼・茶臼・板碑などの石製品、銭貨などが出土している。遺跡全体として、出土遺物の主体は古墳時代～平安時代の土器であるが、いずれも小破片である。竪穴住居跡が奈良・平安時代に帰属することから、中世以前には古代の集落が形成されていたと考えられる。しかし、中世屋敷の構築によって遺構が壊されたことも考えられ、この時代と判断できる遺構が少ない。</p>
----	---

高崎市文化財調査報告書第290集

中大類・天田遺跡

—校舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成23年12月12日 印刷

平成23年12月19日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会

印刷 上毎印刷工業株式会社